

(仮称) 福島市観光共創戦略策定懇談会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、(仮称) 福島市観光共創戦略策定懇談会（以下「懇談会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 懇談会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) (仮称) 福島市観光共創戦略（以下「戦略」という。）の策定に関し自由に討議し、意見交換を行う。
- (2) 観光振興のあり方について自由に討議し、意見交換を行う。
- (3) その他観光の振興に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 懇談会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は次に掲げる者を市長が委嘱する。

- (1) 観光団体関係者
- (2) 農林商工団体関係者
- (3) 交通事業団体関係者
- (4) その他市長が必要と認める者

(会議)

第4条 懇談会は観光交流推進室長が招集する。

2 座長は、委員の互選によってこれを定める。

3 必要に応じて会議に関係者等の出席を求め、意見等を聴取することができる。

(任期)

第5条 委員の任期は、戦略策定の日までとする。

(庶務)

第6条 懇談会の庶務は、商工観光部観光交流推進室において行う。

(守秘義務)

第7条 委員は、その職務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。また、その職を退いた後も同様とする。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、懇談会に関し必要な事項は観光交流推進室長が定める。

附 則

この要綱は、令和7年4月14日から施行する。

福島市新たな時代の観光共創戦略 概要版

本市が旅行先として選ばれ、本市観光の回復と観光振興施策のさらなる推進を図るため、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた「福島市新たな時代の観光共創戦略（令和4年度～令和7年度）」を策定します。

福島市新たな時代の観光共創戦略の位置付け

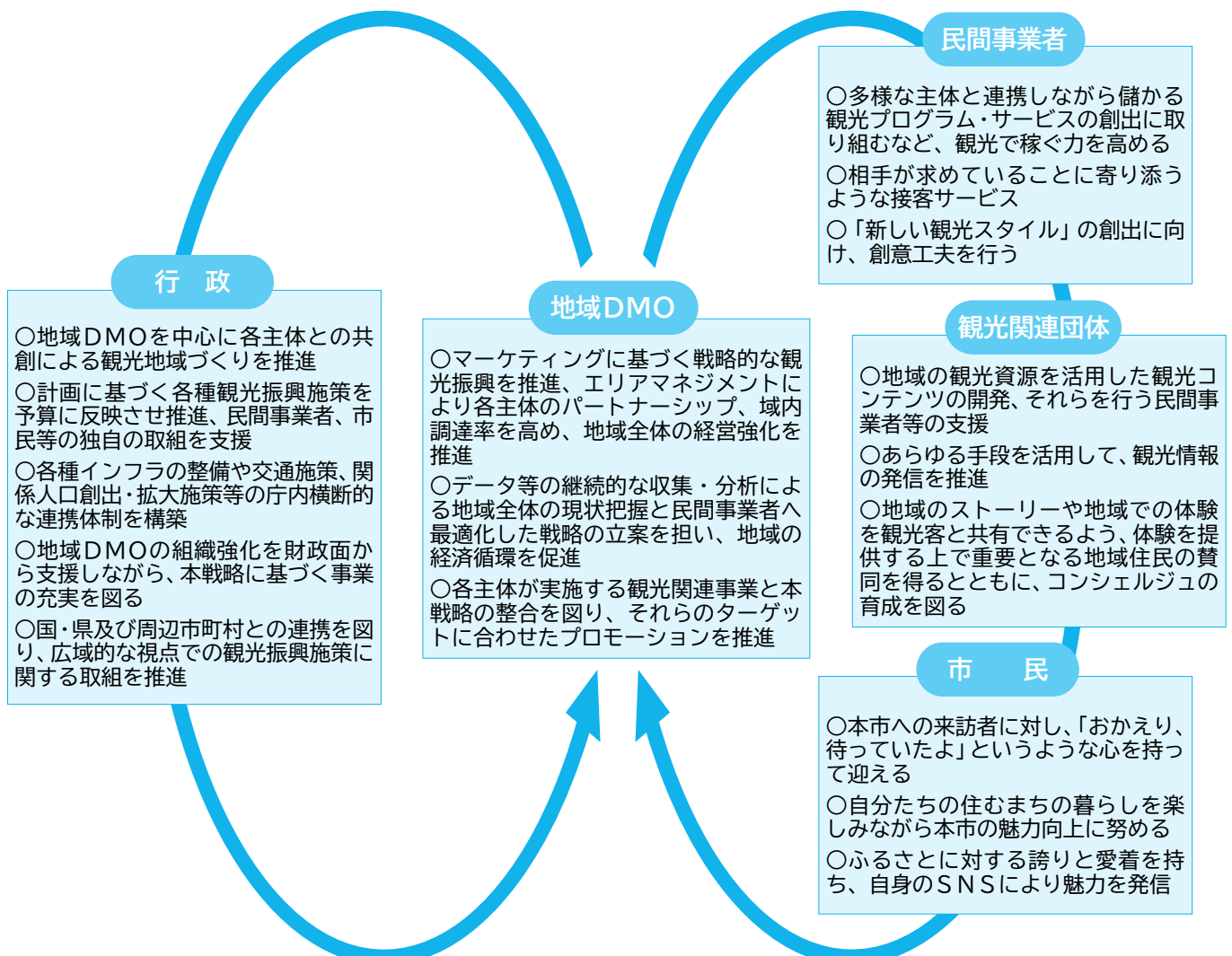
「第6次福島市総合計画」における観光分野の個別計画です。本市観光が目指す姿の実現に向けて戦略を立て、地域DMO、民間事業者、観光関連団体、市民、行政等が共創して観光振興施策を推進するための指針となるものです。

福島市新たな時代の観光共創戦略の期間

令和4年度から令和7年度までの4年間です。

取組の担い手

観光地域づくりの主体は本市に関わるすべての人であり、本戦略の推進に当たっては、明確なコンセプトに基づく地域に密着した観光振興を図るため、地域DMOを中心に民間事業者、観光関連団体、市民、行政の主体的な取組を通してさらなる連携が求められます。



基本目標

目的地として選ばれる“ふくしまツーリズム”で 稼ぐ観光を目指します

より多くの観光客に満足していただき、観光消費を促進する上で、稼ぐ主体となる民間事業者の研鑽は不可欠です。また、観光客が訪れたいまちは、地域の住民が住み続けたいまちであるとの認識のもと、市民一人一人が地域の良さを再発見し、自分たちのまちへの誇りと愛着を醸成することで、将来にわたって市民も観光客も満足度が高い持続可能な三方良しの観光地域づくりが可能となります。

稼ぐ観光を実現する6つのゴール



『観光客UP』



『リピーター増』



『回遊性UP』



『滞在時間延長』



『満足度UP』



『消費額UP』

数値目標（福島市の数値）

① 観光消費平均単価額（「福島市来訪者向けデジタルアンケート調査」福島市観光コンベンション協会）

過去値（平成25年度）	基準値（令和元年度）	目標値（令和7年度）
23,152円	24,366円	25,827円

×1.06

② 観光客入込数（「福島県観光客入込状況」福島県）

過去値（平成28年）	基準値（令和元年）	目標値（令和7年）
633万人	602万人	602万人

現状維持

③ 外国人延べ宿泊者数（「宿泊旅行統計調査」観光庁）

過去値（平成28年）	基準値（令和元年）	目標値（令和7年）
13,430人	36,160人	36,160人

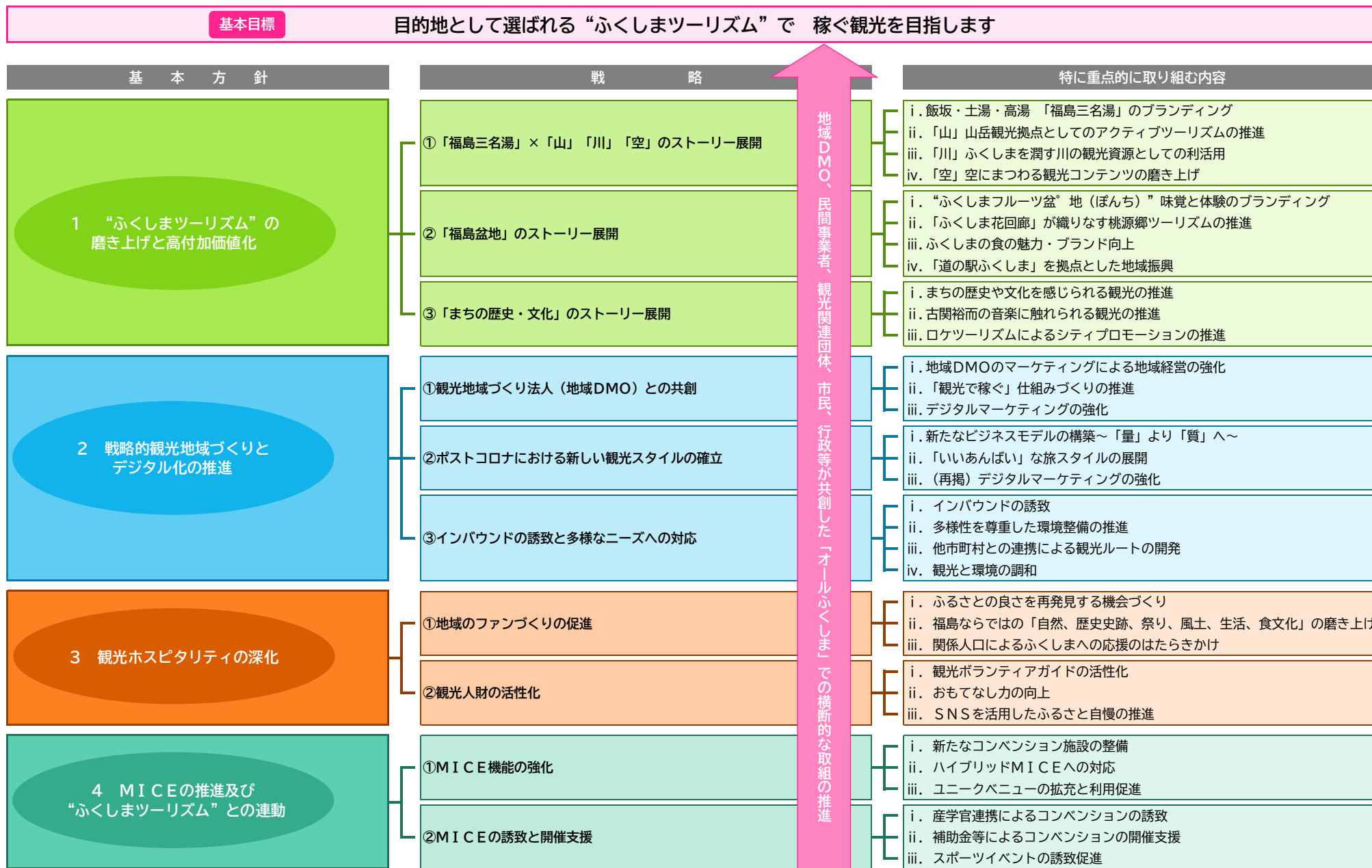
現状維持

④ 来訪者満足度（「福島市来訪者向けデジタルアンケート調査」福島市観光コンベンション協会）

過去値（平成25年度）	基準値（令和元年度）	目標値（令和7年度）
84.2%	63.2%	90.0%

+26.8%

※ 福島市来訪者向けデジタルアンケート調査は令和3年度から始まった調査のため、過去値と基準値は計画策定のための基礎調査の結果を記載しています。



基本目標

目的地として選ばれる“ふくしまツーリズム”で 稼ぐ観光を目指します

基本方針１ “ふくしまツーリズム”の磨き上げと高付加価値化

本市が誇る「豊かな自然」、豊かな自然から生まれた「温泉」「果物」「花」「まちの歴史・文化」など、先人の暮らしにより形作られ守られてきた観光資源を磨き上げ、時代のニーズに応えた唯一無二の“ふくしまツーリズム”としてストーリー展開し、それぞれの観光資源を掛け合わせることで、本市の魅力にさらなる付加価値を生み出します。

戦略１－① 「福島三名湯」×「山」「川」「空」のストーリー展開

i. 飯坂・土湯・高湯 「福島三名湯」のブランディング

- ・「飯坂温泉」「土湯温泉」「高湯温泉」それぞれの個性を活かした徹底的なブランディング
- ・「福島三名湯」としてのプロモーションの推進
- ・「福島三名湯」を拠点とした自然・文化体験ツアーなど旅のメニュー作り

ii. 「山」山岳観光拠点としてのアクティブツーリズムの推進

- ・登山・サイクリング・スノーモービル等の自然アクティビティー体験ができるプランと温泉地での滞在を組み合わせた開放的で爽快なアクティブツーリズムの推進

iii. 「川」ふくしまを潤す川の観光資源としての利活用

- ・日本一の清流・荒川流域に点在する霞堤、水林自然林などの土木遺産群を活かした産業遺産・インフラツーリズムの展開
- ・摺上川や阿武隈川の親水空間の保全と自然体験アクティビティーの開発促進

iv. 「空」空にまつわる観光コンテンツの磨き上げ

- ・空にまつわる他に類を見ないコンテンツの磨き上げ
- ・「ふくしまスカイパーク」「浄土平」「UFOふれあい館」等を活用した、空を見上げられる体験プログラムの造成

戦略１－② 「福島盆地」のストーリー展開

i. “ふくしまフルーツ盆 地（ぽんち）” 味覚と体験のブランディング

- ・名物の桃を主力に、果物狩りやスイーツの商品化など多様な味わい方を提供し、ブランドイメージ醸成
- ・果物をふるさと納税の返礼品として味わってもらうことで本市産の果物ファンの獲得と認知度向上

ii. 「ふくしま花回廊」が織りなす桃源郷ツーリズムの推進

- ・「花見山」をはじめ各地域の花スポットなどを一体的に「ふくしま花回廊」としてイメージ展開
- ・「吾妻五葉松」の盆栽を活用した観光や「花の写真館」の活用など、花観光の新しい魅力の創出

iii. ふくしまの食の魅力・ブランド向上

- ・「ふくしまの桃」「円盤餃子」などの名物を主力とした、ふくしまの食の認知度向上と食による観光誘客
- ・地域の魅力を活かした特産品の差別化とお土産としての商品化

iv. 「道の駅ふくしま」を拠点とした地域振興

- ・本市の広告塔として、本市産農産物の販売や特産品の開発を促進し、本市産品ブランドイメージの醸成
- ・Eバイクを活用したサイクルツーリズムなど、「道の駅ふくしま」を拠点とした観光プログラム開発

戦略１－③ 「まちの歴史・文化」のストーリー展開

i. まちの歴史や文化を感じられる観光の推進

- ・信達地方の養蚕業で栄えたまちの歴史を物語る観光資源や産業遺産を巡るまち歩きモデルコースの認知度向上とまち歩き観光の推進
- ・福島競馬開催に合わせた市民イベントや市外からの集客力が高い市民イベントの開催

ii. 古関裕而の音楽に触れられる観光の推進

- ・エールレガシーを活用した古関裕而の音楽に触れられるまちづくりの推進
- ・「古関裕而のまち・福島市」としての都市ブランドの向上

iii. ロケツーリズムによるシティプロモーションの推進

- ・ロケの誘致の推進と、ロケ支援のための撮影サポートの体制づくり
- ・映画やドラマのロケ地となった風景や食を周遊ルートとして開発し、新たな観光資源としての活用

基本方針２ 戦略的観光地域づくりとデジタル化の推進

地域DMOを観光地域づくりの舵取り役として、エリアマネジメントによる地域全体での経営を強化するとともに、各種データの収集・分析に基づく民間事業者へ最適化した戦略の提案及びプロモーションを展開し、戦略的に「稼ぐ観光」を推進します。また、新しい観光スタイルに対応したビジネスモデルの構築や、インバウンドの誘致と多様なニーズに応じた受入体制の整備を進めます。

戦略２－① 観光地域づくり法人（地域DMO）との共創

i. 地域DMOのマーケティングによる地域経営の強化

- ・各種データの収集・分析に基づく明確な戦略を各主体と共有し、エリアマネジメントにより地域全体の経営強化

ii. 「観光で稼ぐ」仕組みづくりの推進

- ・地域DMOによるセミナーの開催などにより、民間事業者が求めるマーケティング調査やノウハウの底上げ
- ・「地消地産」の推進による地域内循環を高め、経済波及効果の向上

iii. デジタルマーケティングの強化

- ・観光客に関するデータの収集・分析から民間事業者へ最適化した戦略の提案
- ・デジタルやSNSで観光客と本市がつながり、本市に訪れたくなるような旅行者目線での共感型の情報発信

戦略２－② ポストコロナにおける新しい観光スタイルの確立

i. 新たなビジネスモデルの構築～「量」より「質」へ～

- ・露天風呂付き個室や貸切風呂、部屋食などのプライベート感を重視したプラン及びオーダーメイド対応
- ・ニューノーマル時代のニーズに合わせたサービスを提供する持続可能なビジネスモデルへの転換

ii. 「いいあんばい」な旅スタイルの展開

- ・「いいあんばい」をコンセプトに、旅行者自身の自由度が高く、それぞれの旅行者にフィットした福島流の新しい旅スタイルの提供
- ・ワーケーション向けの滞在型ゆったりプランなど、多様化するニーズに対応した新たな旅のスタイルの推進

iii. （再掲）デジタルマーケティングの強化

- ・観光客に関するデータの収集・分析から民間事業者へ最適化した戦略の提案
- ・デジタルやSNSで観光客と本市がつながり、本市に訪れたくなるような旅行者目線での共感型の情報発信

戦略２－③ インバウンドの誘致と多様なニーズへの対応

i. インバウンドの誘致

- ・花や盆栽、食などの観光資源を磨き上げ、日本の自然や生活文化に関心を持つ海外の人々に向けた情報発信
- ・インバウンド誘致による国内外における交流人口の拡大

ii. 多様性を尊重した環境整備の推進

- ・観光案内板、観光パンフレット、メニュー、Web情報の多言語化整備とデジタルサービスの充実
- ・施設のユニバーサルデザイン化とバリアフリーマップによる施設情報の提供など、バリアフリー観光の推進

iii. 他市町村との連携による観光ルートの開発

- ・福島圏域及び近隣都市との広域観光連携により、各エリアで共有する歴史や生活文化などのストーリーと観光資源のスケールメリットを活かしたプロモーション

iv. 観光と環境の調和

- ・周囲の環境と調和した受入体制の整備、「持続可能な観光地域づくりに取り組む福島市」の地域ブランディング

基本方針３ 観光ホスピタリティの深化

市民一人一人がふるさとの良さを再発見する機会を創出し、ふるさとの良さを市民自ら楽しむことにより、地域のファンづくりを促進し、自信と誇りを持って観光客に紹介できる観光地域づくりを進めます。また、観光事業者はもちろんのこと市民一人一人もおもてなし力を高め、地域の魅力を効果的に発信するなど、主体的に観光人財として行動するよう活性化を図ります。

戦略３－① 地域のファンづくりの促進

i. ふるさとの良さを再発見する機会づくり

- ・自然や歴史・文化といった本市の魅力ある資源を再発見する機会を創出し、ふるさとへの誇りや愛着の醸成
- ・ふるさとの良さを市民自ら楽しむことにより、自信と誇りを持って観光客に紹介できる地域づくり

ii. 福島ならではの「自然、歴史史跡、祭り、風土、生活、食文化」の磨き上げ

- ・伝統の祭りや福島らしい歴史史跡と文化の魅力発信と地域固有の文化を体感できる観光資源としての磨き上げ
- ・市民にとって当たり前の日常に光を当て、旅行者が福島の人々の暮らしぶりに触れられるような旅の創出

iii. 関係人口によるふくしまへの応援のはたらきかけ

- ・マスコミやSNS、ふるさと納税制度を活用した認知度向上と関係人口の獲得
- ・本市で暮らすように旅行していただくリピート旅行、ふるさと納税、口コミでの魅力拡散の促進

戦略３－② 観光人財の活性化

i. 観光ボランティアガイドの活性化

- ・市民活動による観光ボランティアガイドの育成と観光ボランティアガイドが活躍できる機会や環境の創出
- ・新たな観光ボランティアガイドの発掘と養成

ii. おもてなし力の向上

- ・民間事業者や観光関連団体等の連携によるスキルアップ研修や心のバリアフリーを推進
- ・子どもから高齢者、障がいのある人、外国人など本市に訪れるすべての観光客に寄り添ったおもてなし力の向上

iii. SNSを活用したふるさと自慢の推進

- ・自身のSNSを活用してふるさとの良さや観光の魅力の効果的な発信



飯坂温泉



土湯温泉



高湯温泉



磐梯吾妻スカイライン



荒川（地蔵原堰堤）



ふくしまスカイパーク

基本方針4 MICEの推進及び“ふくしまツーリズム”との連動

MICEの誘致に取り組むにあたり、福島駅前交流・集客拠点施設の整備やユニークベニューの利活用により開催体制を強化するとともに、“ふくしまツーリズム”との連動を図り、本市でMICEを開催する魅力を高めます。また、産学官連携の推進による学会会議や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを活用したスポーツイベント等の誘致を推進します。

戦略4-① MICE機能の強化

i. 新たなコンベンション施設の整備

- ・「福島駅前交流・集客拠点施設」の整備による市民の文化芸術活動の促進とコンベンション機能の強化
- ・JR福島駅前という立地を最大限に活かした県都にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点づくり

ii. ハイブリッドMICEへの対応

- ・ニューノーマル時代に合わせた、コンベンション施設におけるオンライン会議に必要な通信、映像、音響等の整備

iii. ユニークベニューの拡充と利用促進

- ・歴史的建造物や文化施設などの柔軟な活用
- ・ユニークベニューの利用と合わせ、“ふくしまツーリズム”と連動した周辺観光スポットへの誘導

戦略4-② MICEの誘致と開催支援

i. 産学官連携によるコンベンションの誘致

- ・市内に複数の大学等が立地するアドバンテージを活かした学会会議等の誘致
- ・企業や商工団体と連携し、会議のほか展示会やイベント等MICEの誘致

ii. 補助金等によるコンベンションの開催支援

- ・一定規模以上のコンベンション開催にかかる経費などに対し、補助金による助成
- ・コンgresバッグの提供や市内のコンベンション施設の情報提供など、きめ細かなサポートや受入体制の構築
- ・コンベンション参加者及びその家族が楽しむデイトリップとして“ふくしまツーリズム”との連動

iii. スポーツイベントの誘致促進

- ・「東京2020オリンピック競技大会」の会場となった「あづま球場」を擁するステータスやレガシー、交通アクセスの良さなど、本市の優位性を活かしたプロモーションの推進
- ・市スポーツコミッションが中心となり、多様なスポーツイベントの誘致



桃狩り



花見山



円盤餃子



古関裕而記念館



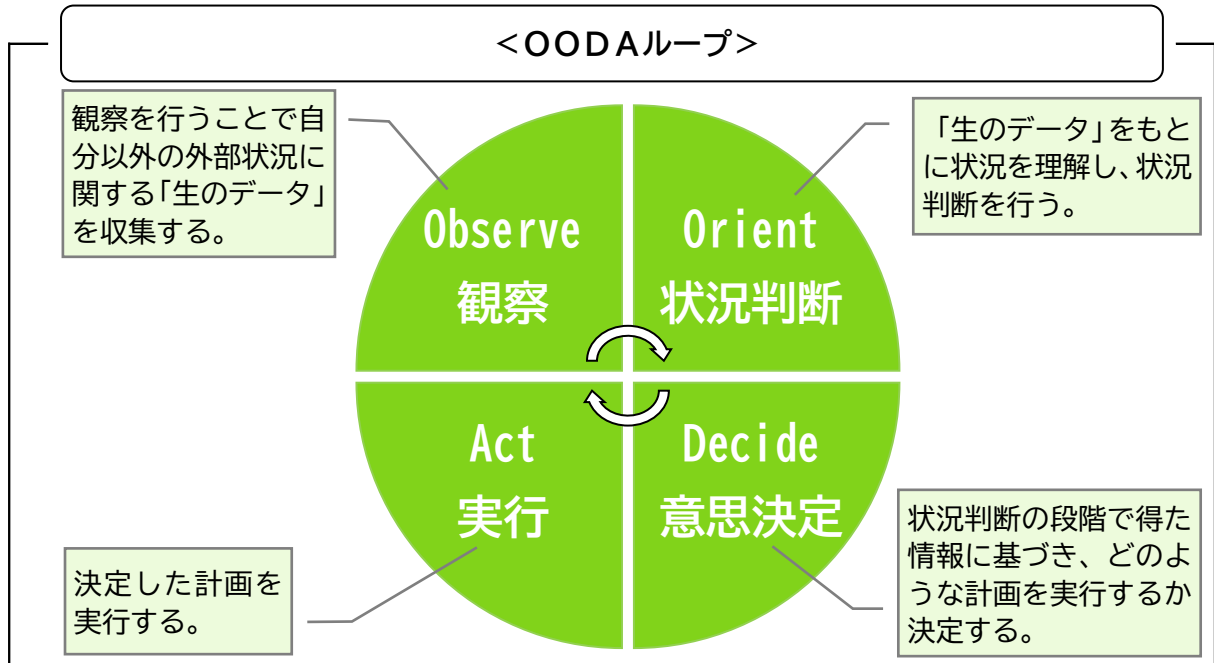
信夫三山暁まいり



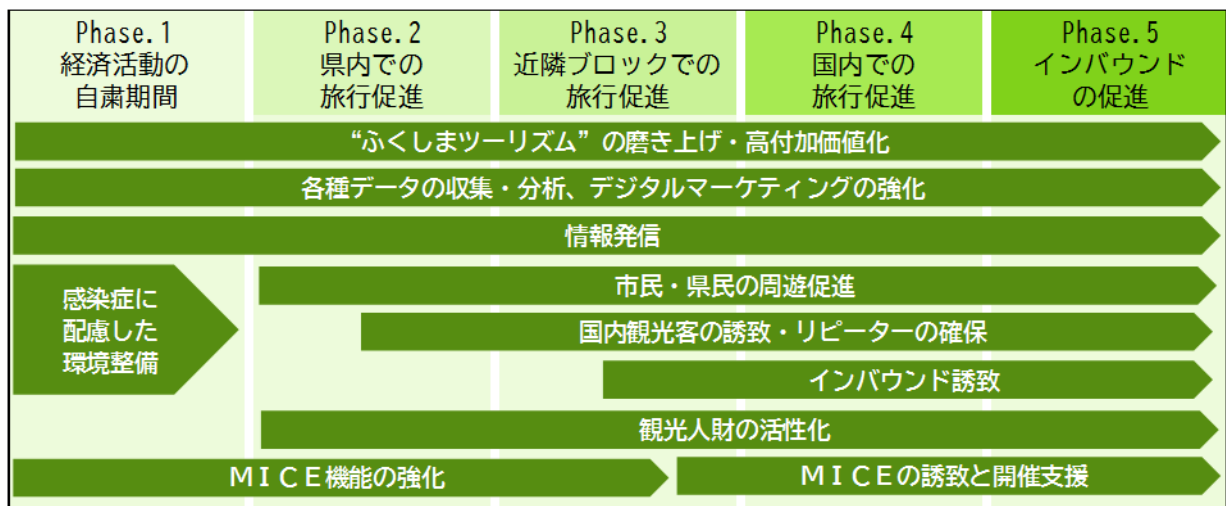
あづま球場

福島市新たな時代の観光共創戦略の施策の推進

本戦略の実現に向けて施策を推進するに当たっては、新型コロナウイルス感染症の影響により観光を取り巻く環境が大きく変化していることから、OODAループ（Observe〔観察〕－Orient〔状況判断・方向付け〕－Decide〔意思決定〕－Act〔実行〕）に基づき、各施策・事業のスピードや規模を臨機応変に対応します。



また、OODAループは刻々と変わる状況に応じてそれぞれの主体の臨機応変な対応が求められるため、新型コロナウイルス収束までの観光の状況を5つのフェーズに分けてロードマップを共有することとします。



【編集・発行】 令和4年3月

〒960-8601 福島市五老内町3番1号

福島市商工観光部観光交流推進室

TEL：024-525-3722（直通）、FAX：024-535-1401

E-mail：kankou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

ホームページ：https://www.city.fukushima.fukushima.jp



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

観光関連統計データ

A	国内の観光の動向	
	データ名	提供元
1	国内延べ旅行者数	「旅行・観光消費動向調査」観光庁
2	国内延べ宿泊旅行者数の個人・団体旅行率	「旅行・観光消費動向調査」観光庁
3	日本人国内旅行の消費額	「旅行・観光消費動向調査」観光庁
4	訪日外国人旅行者数	「観光白書」国土交通省
5	訪日外国人旅行者の消費額	「インバウンド消費動向調査」観光庁 (旧 訪日外国人消費動向調査)
B	福島市の観光の状況	
	データ名	提供元
1	観光客入込数	「福島県観光客入込状況」福島県観光交流課
2	四半期別の観光客入込数	「福島県観光客入込状況」福島県観光交流課
3	観光資源別利用状況	「福島県観光客入込状況」福島県観光交流課
4	延べ宿泊者数	「宿泊旅行統計調査」観光庁
5	温泉地別宿泊客数	「福島市観光客入込数」福島市観光交流推進室
6	四半期別の温泉地宿泊客数	「福島市観光客入込数」福島市観光交流推進室
7	外国人延べ宿泊者数	「宿泊旅行統計調査」観光庁
8	福島市来訪者の居住地	令和5／6年度宿泊者向けアンケート調査 福島市観光コンベンション協会
9	福島市来訪者の年齢	令和5／6年度宿泊者向けアンケート調査 福島市観光コンベンション協会
10	来訪時の同行者（旅行グループ属性）	令和5／6年度宿泊者向けアンケート調査 福島市観光コンベンション協会

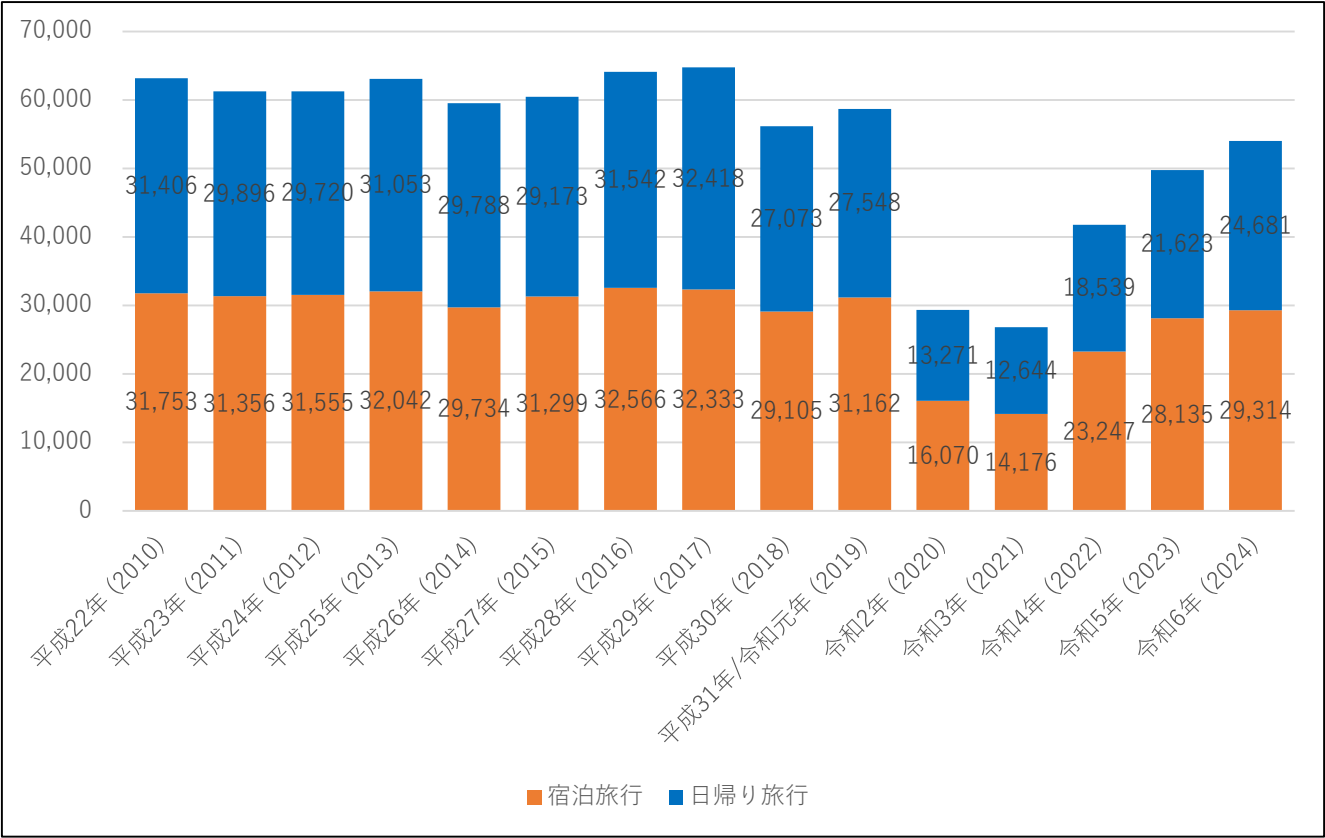
※B-8～10
令和5～6年度宿泊者向けアンケート調査サンプル数：17,664件
(集計期間：令和5年4月1日～令和6年6月26日)

A 国内観光の動向

1. 国内延べ旅行者数

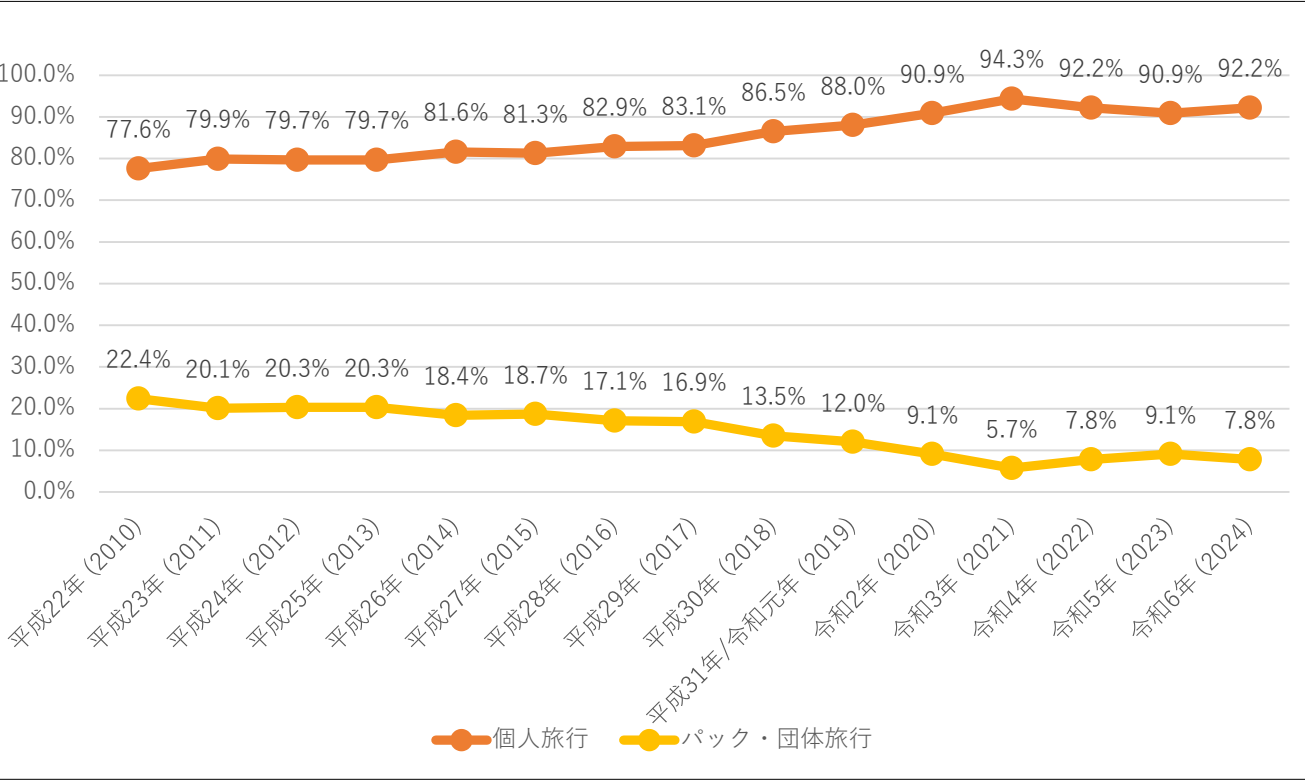
(単位：万人)

年（和暦/西暦）	国内延べ旅行者数	宿泊旅行	日帰り旅行
平成22年（2010）	63,159	31,753	31,406
平成23年（2011）	61,252	31,356	29,896
平成24年（2012）	61,275	31,555	29,720
平成25年（2013）	63,095	32,042	31,053
平成26年（2014）	59,522	29,734	29,788
平成27年（2015）	60,472	31,299	29,173
平成28年（2016）	64,108	32,566	31,542
平成29年（2017）	64,751	32,333	32,418
平成30年（2018）	56,178	29,105	27,073
平成31年/令和元年（2019）	58,710	31,162	27,548
令和2年（2020）	29,341	16,070	13,271
令和3年（2021）	26,820	14,176	12,644
令和4年（2022）	41,786	23,247	18,539
令和5年（2023）	49,758	28,135	21,623
令和6年（2024）	53,995	29,314	24,681



2. 国内延べ宿泊旅行者数の個人・団体旅行率

年（和暦/西暦）	個人旅行	パック・団体旅行
平成22年（2010）	77.6%	22.4%
平成23年（2011）	79.9%	20.1%
平成24年（2012）	79.7%	20.3%
平成25年（2013）	79.7%	20.3%
平成26年（2014）	81.6%	18.4%
平成27年（2015）	81.3%	18.7%
平成28年（2016）	82.9%	17.1%
平成29年（2017）	83.1%	16.9%
平成30年（2018）	86.5%	13.5%
平成31年/令和元年（2019）	88.0%	12.0%
令和2年（2020）	90.9%	9.1%
令和3年（2021）	94.3%	5.7%
令和4年（2022）	92.2%	7.8%
令和5年（2023）	90.9%	9.1%
令和6年（2024）	92.2%	7.8%



3. 日本人国内旅行の消費額

(単位：百億円)

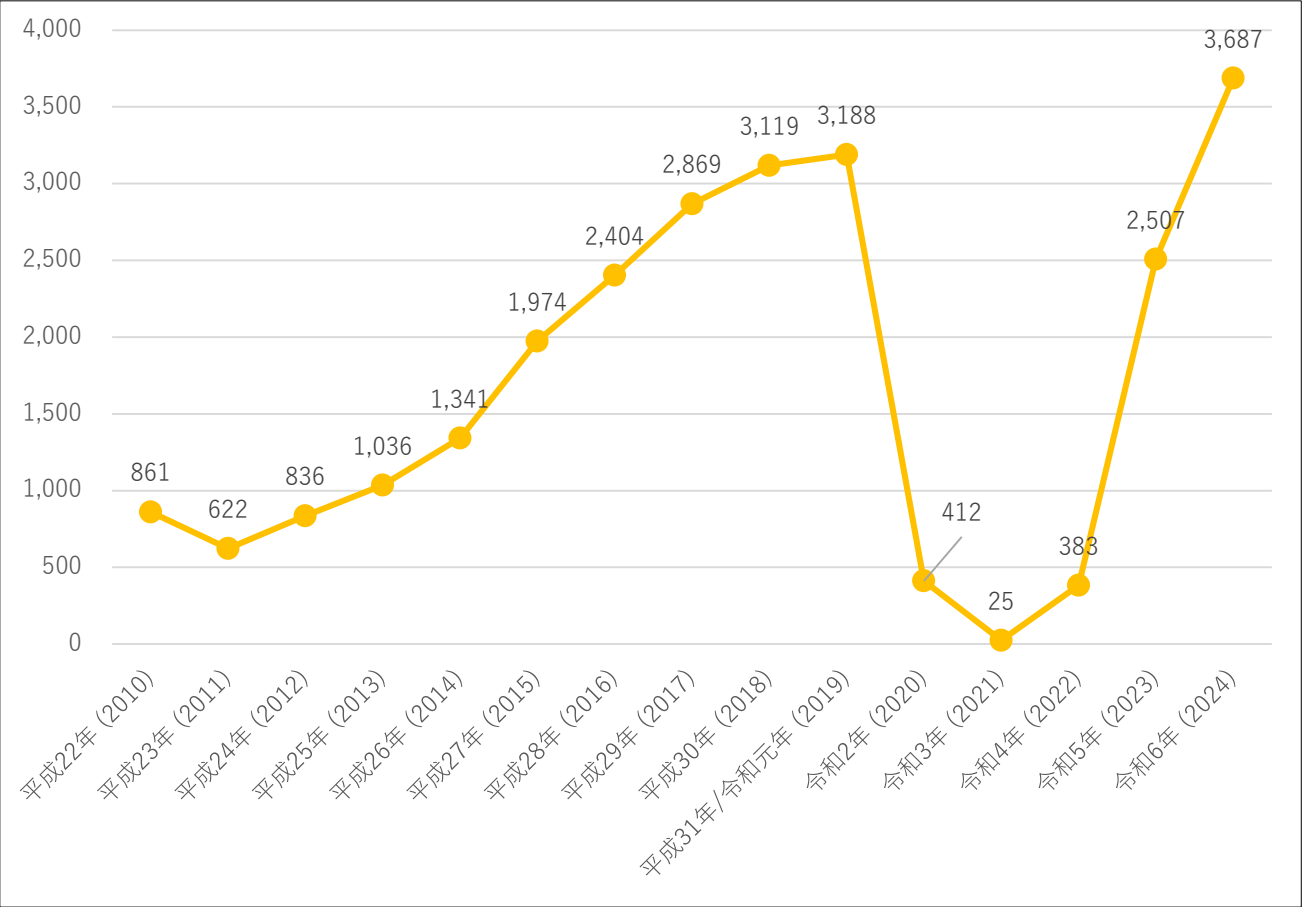
年（和暦/西暦）	宿泊旅行	日帰り旅行	合計
平成22年（2010）	1,537	506	2,043
平成23年（2011）	1,478	495	1,973
平成24年（2012）	1,497	445	1,942
平成25年（2013）	1,541	478	2,019
平成26年（2014）	1,389	453	1,842
平成27年（2015）	1,581	460	2,041
平成28年（2016）	1,603	492	2,095
平成29年（2017）	1,608	503	2,111
平成30年（2018）	1,580	469	2,049
平成31年/令和元年（2019）	1,716	478	2,194
令和2年（2020）	777	220	997
令和3年（2021）	698	219	917
令和4年（2022）	1,373	344	1,717
令和5年（2023）	1,780	411	2,191
令和6年（2024）	2,033	482	2,515



4. 訪日外国人旅行者数

(単位：万人)

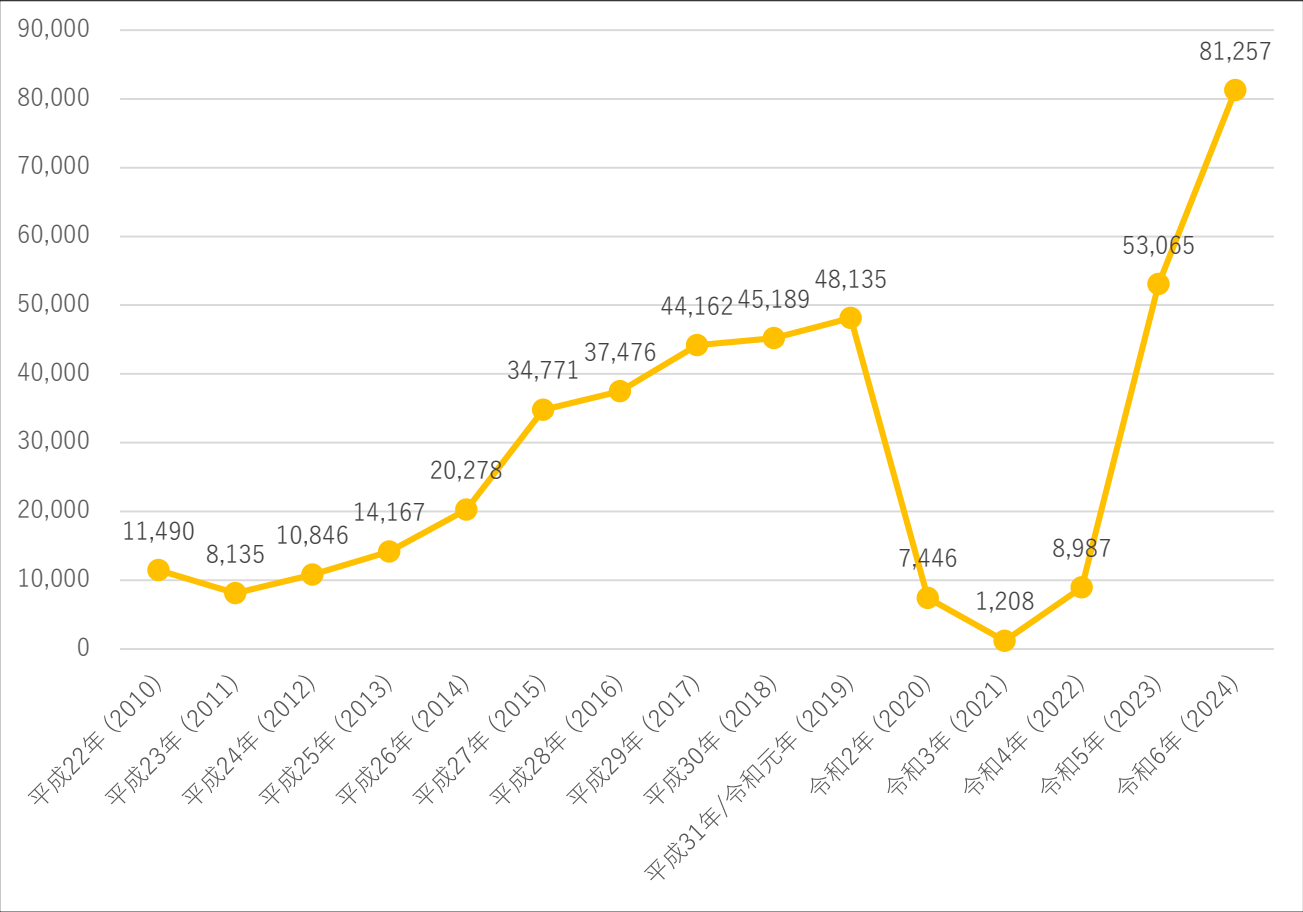
年（和暦/西暦）	訪日外国人旅行者数
平成22年（2010）	861
平成23年（2011）	622
平成24年（2012）	836
平成25年（2013）	1,036
平成26年（2014）	1,341
平成27年（2015）	1,974
平成28年（2016）	2,404
平成29年（2017）	2,869
平成30年（2018）	3,119
平成31年/令和元年（2019）	3,188
令和2年（2020）	412
令和3年（2021）	25
令和4年（2022）	383
令和5年（2023）	2,507
令和6年（2024）	3,687



5. 訪日外国人旅行者の消費額

(単位：億円)

年（和暦/西暦）	外国人旅行者消費額
平成22年（2010）	11,490
平成23年（2011）	8,135
平成24年（2012）	10,846
平成25年（2013）	14,167
平成26年（2014）	20,278
平成27年（2015）	34,771
平成28年（2016）	37,476
平成29年（2017）	44,162
平成30年（2018）	45,189
平成31年/令和元年（2019）	48,135
令和2年（2020）	7,446
令和3年（2021）	1,208
令和4年（2022）	8,987
令和5年（2023）	53,065
令和6年（2024）	81,257

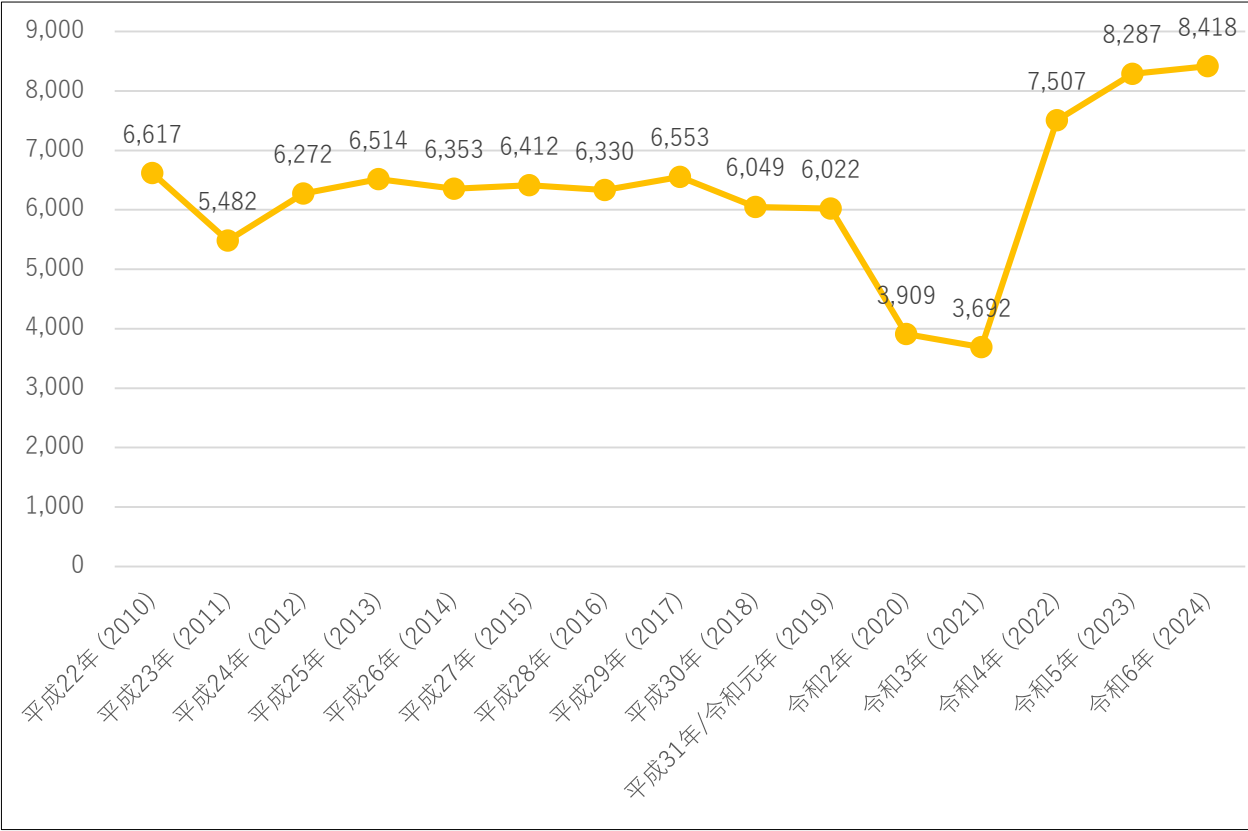


B 福島市の観光の状況

1. 観光客入込数

(単位：千人)

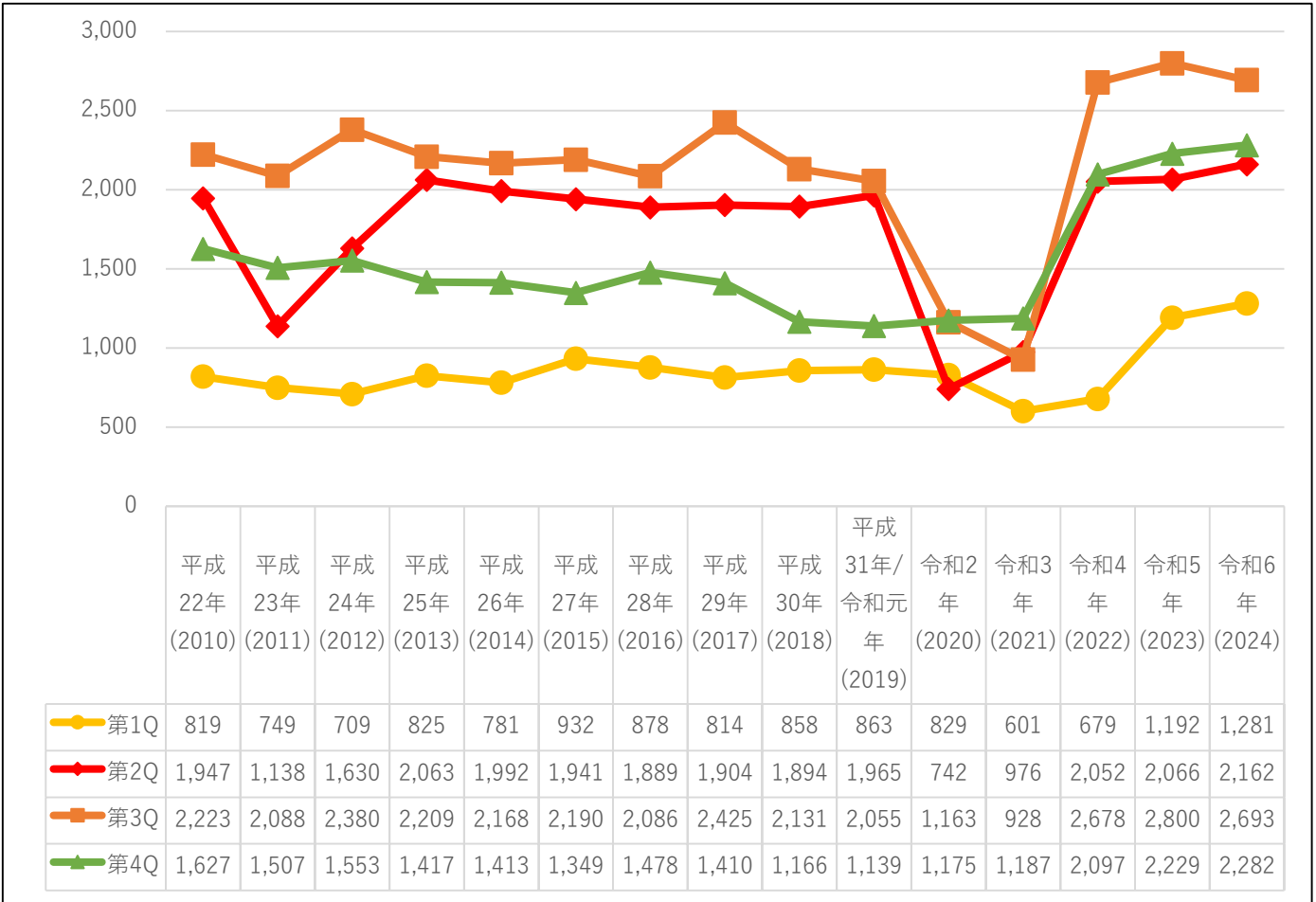
年（和暦/西暦）	福島市観光客入込数
平成22年（2010）	6,617
平成23年（2011）	5,482
平成24年（2012）	6,272
平成25年（2013）	6,514
平成26年（2014）	6,353
平成27年（2015）	6,412
平成28年（2016）	6,330
平成29年（2017）	6,553
平成30年（2018）	6,049
平成31年/令和元年（2019）	6,022
令和2年（2020）	3,909
令和3年（2021）	3,692
令和4年（2022）	7,507
令和5年（2023）	8,287
令和6年（2024）	8,418



2. 四半期別の観光客入込数

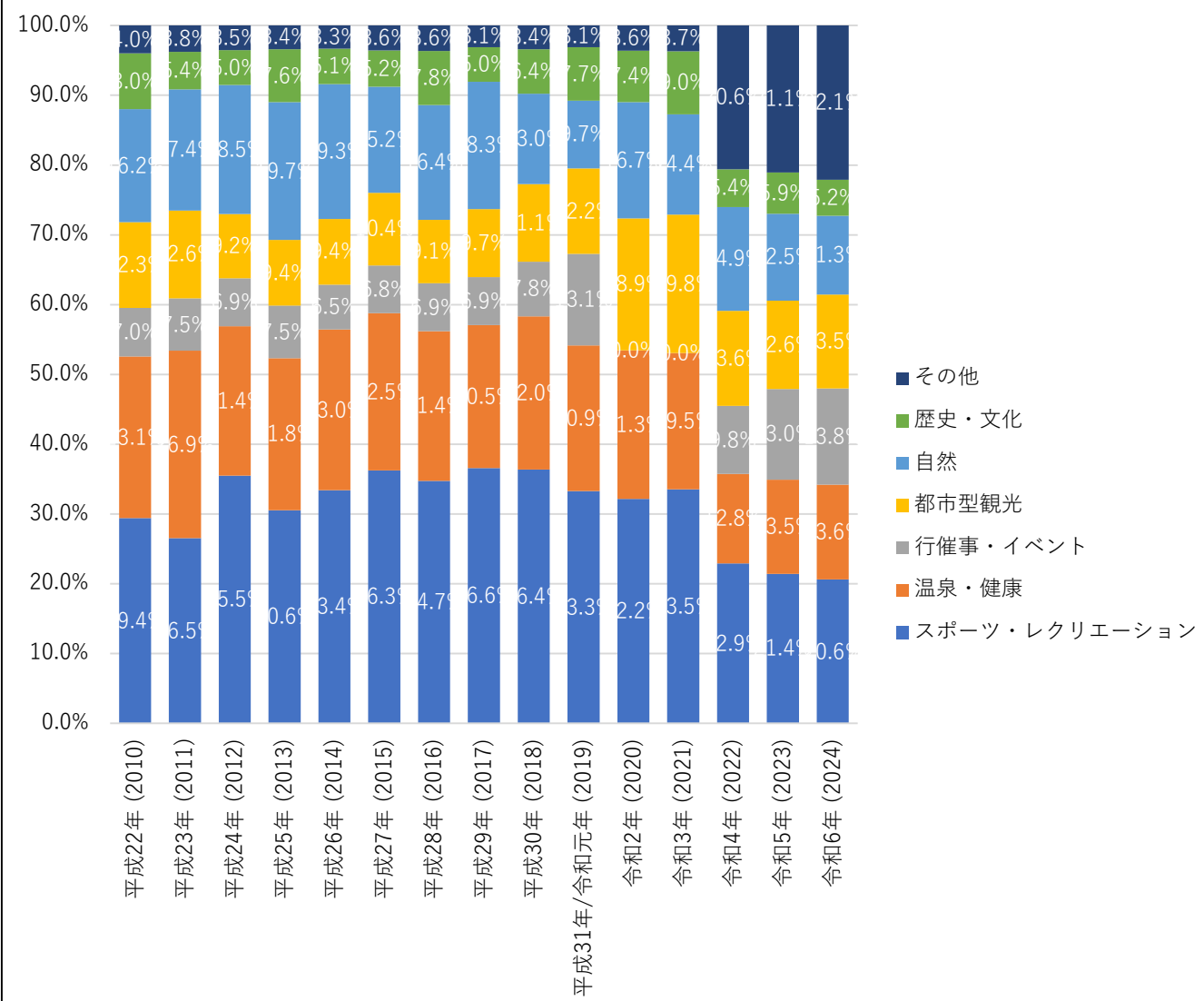
(単位：千人)

年（和暦/西暦）	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	計
平成22年（2010）	819	1,947	2,223	1,627	6,616
平成23年（2011）	749	1,138	2,088	1,507	5,482
平成24年（2012）	709	1,630	2,380	1,553	6,272
平成25年（2013）	825	2,063	2,209	1,417	6,514
平成26年（2014）	781	1,992	2,168	1,413	6,354
平成27年（2015）	932	1,941	2,190	1,349	6,412
平成28年（2016）	878	1,889	2,086	1,478	6,331
平成29年（2017）	814	1,904	2,425	1,410	6,553
平成30年（2018）	858	1,894	2,131	1,166	6,049
平成31年/令和元年（2019）	863	1,965	2,055	1,139	6,022
令和2年（2020）	829	742	1,163	1,175	3,909
令和3年（2021）	601	976	928	1,187	3,692
令和4年（2022）	679	2,052	2,678	2,097	7,506
令和5年（2023）	1,192	2,066	2,800	2,229	8,287
令和6年（2024）	1,281	2,162	2,693	2,282	8,418



3. 観光資源別利用状況

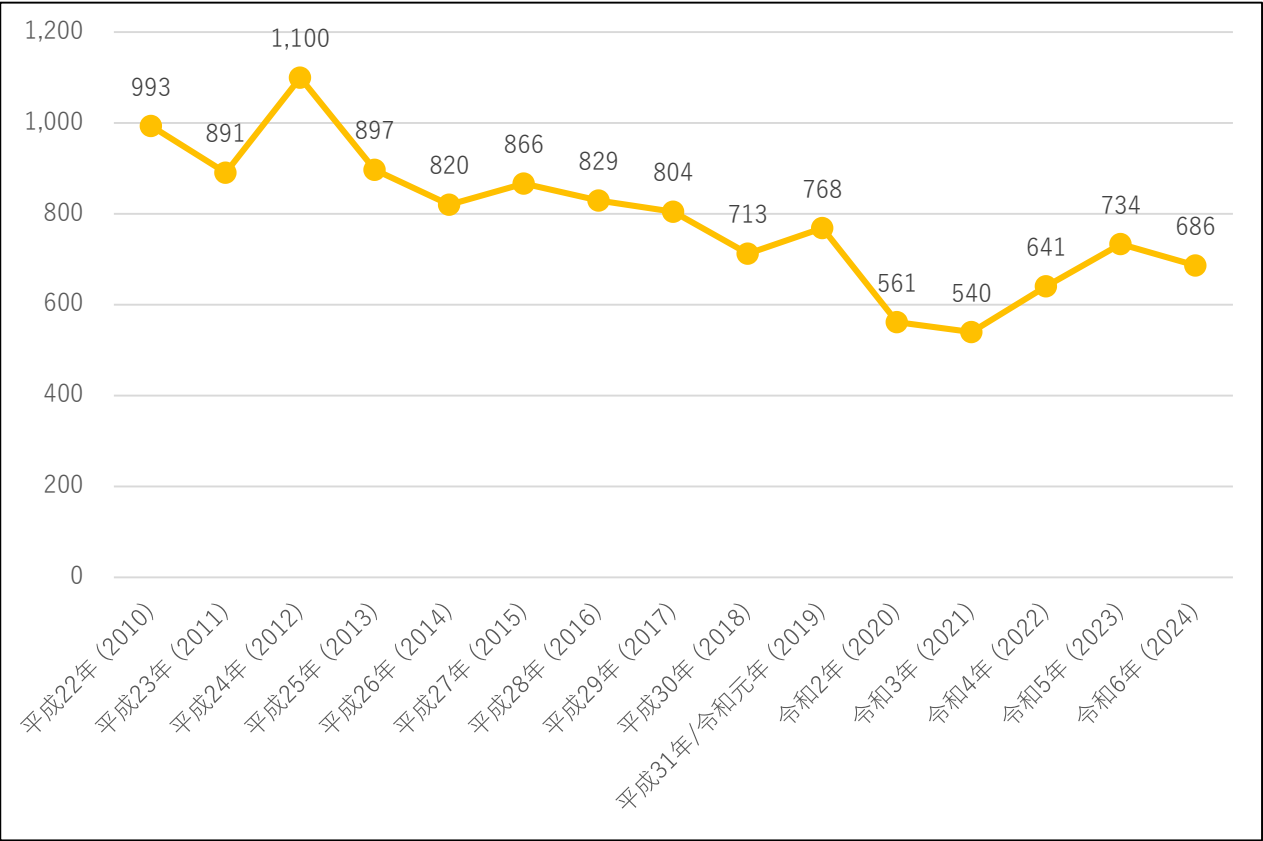
年（和暦/西暦）	スポーツ・レクリエーション	温泉・健康	行催事・イベント	都市型観光	自然	歴史・文化	その他
平成22年（2010）	2,187,961	1,471,345	410,000	688,762	214,774	294,097	206,837
平成23年（2011）	3,146,945	1,343,059	430,000	579,239	237,561	313,628	221,782
平成24年（2012）	2,894,183	1,418,821	490,000	614,226	380,811	493,987	221,899
平成25年（2013）	2,537,349	1,531,490	460,000	813,145	482,030	528,365	264,601
平成26年（2014）	2,933,212	1,461,373	410,000	597,659	416,342	323,199	211,344
平成27年（2015）	2,861,006	1,431,516	435,000	662,496	407,641	331,064	226,734
平成28年（2016）	2,843,717	1,357,609	435,000	577,045	395,507	491,245	230,329
平成29年（2017）	3,205,073	1,341,181	450,000	638,480	390,161	325,643	202,533
平成30年（2018）	2,666,962	1,328,728	473,000	671,973	317,079	385,458	206,111
平成31年/令和元年（2019）	2,214,675	1,257,060	790,000	736,818	375,289	460,712	187,764
令和2年（2020）	1,801,424	831,275	0	739,111	107,506	289,154	140,354
令和3年（2021）	1,636,717	721,089	0	731,256	133,002	333,604	135,920
令和4年（2022）	2,696,067	963,132	732,000	1,022,453	139,934	407,929	1,545,476
令和5年（2023）	2,599,101	1,120,391	1,077,928	1,047,672	208,235	487,563	1,746,350
令和6年（2024）	2,501,636	1,143,581	1,160,598	1,133,947	184,572	435,290	1,859,305



4. 延べ旅行者数

(単位：千人)

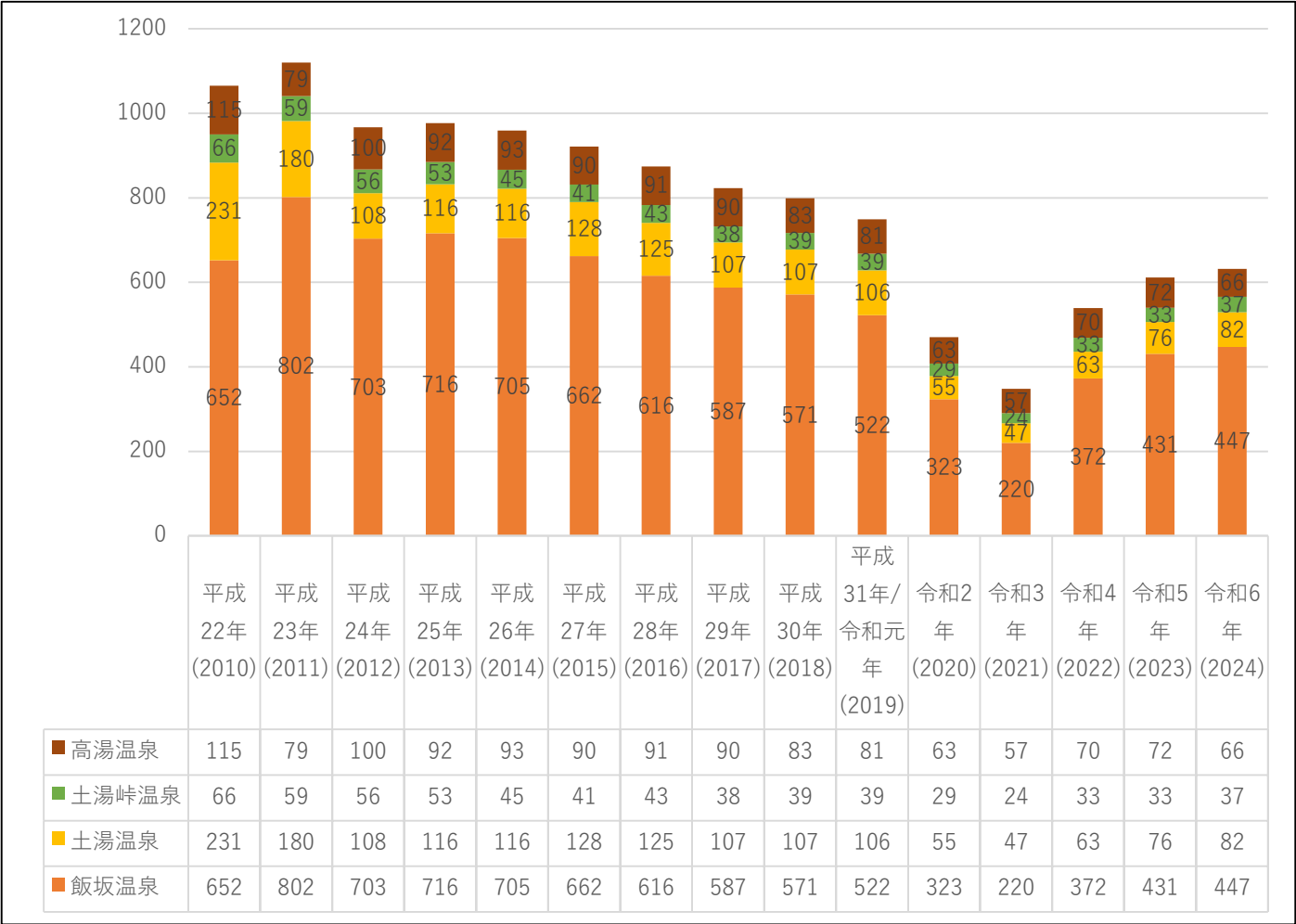
年（和暦/西暦）	延べ宿泊者数
平成22年（2010）	993
平成23年（2011）	891
平成24年（2012）	1,100
平成25年（2013）	897
平成26年（2014）	820
平成27年（2015）	866
平成28年（2016）	829
平成29年（2017）	804
平成30年（2018）	713
平成31年/令和元年（2019）	768
令和2年（2020）	561
令和3年（2021）	540
令和4年（2022）	641
令和5年（2023）	734
令和6年（2024）	686



5. 温泉地別宿泊者数

(単位：千人)

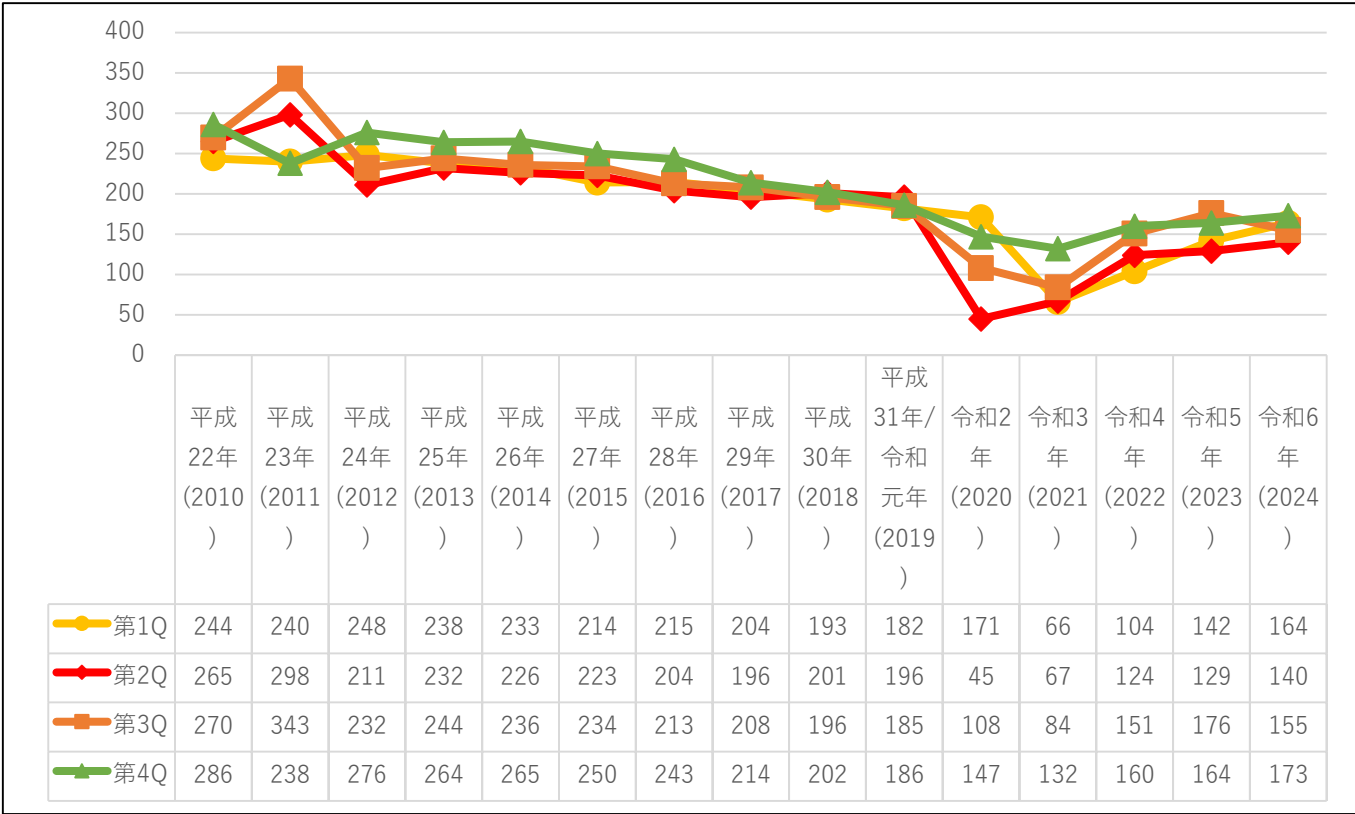
年（和暦/西暦）	飯坂温泉	土湯温泉	土湯峠温泉	高湯温泉	計
平成22年（2010）	652	231	66	115	1,065
平成23年（2011）	802	180	59	79	1,120
平成24年（2012）	703	108	56	100	967
平成25年（2013）	716	116	53	92	977
平成26年（2014）	705	116	45	93	959
平成27年（2015）	662	128	41	90	921
平成28年（2016）	616	125	43	91	874
平成29年（2017）	587	107	38	90	823
平成30年（2018）	571	107	39	83	799
平成31年/令和元年（2019）	522	106	39	81	749
令和2年（2020）	323	55	29	63	470
令和3年（2021）	220	47	24	57	348
令和4年（2022）	372	63	33	70	539
令和5年（2023）	431	76	33	72	611
令和6年（2024）	447	82	37	66	632



6. 四半期別の温泉地宿泊者数

(単位：千人)

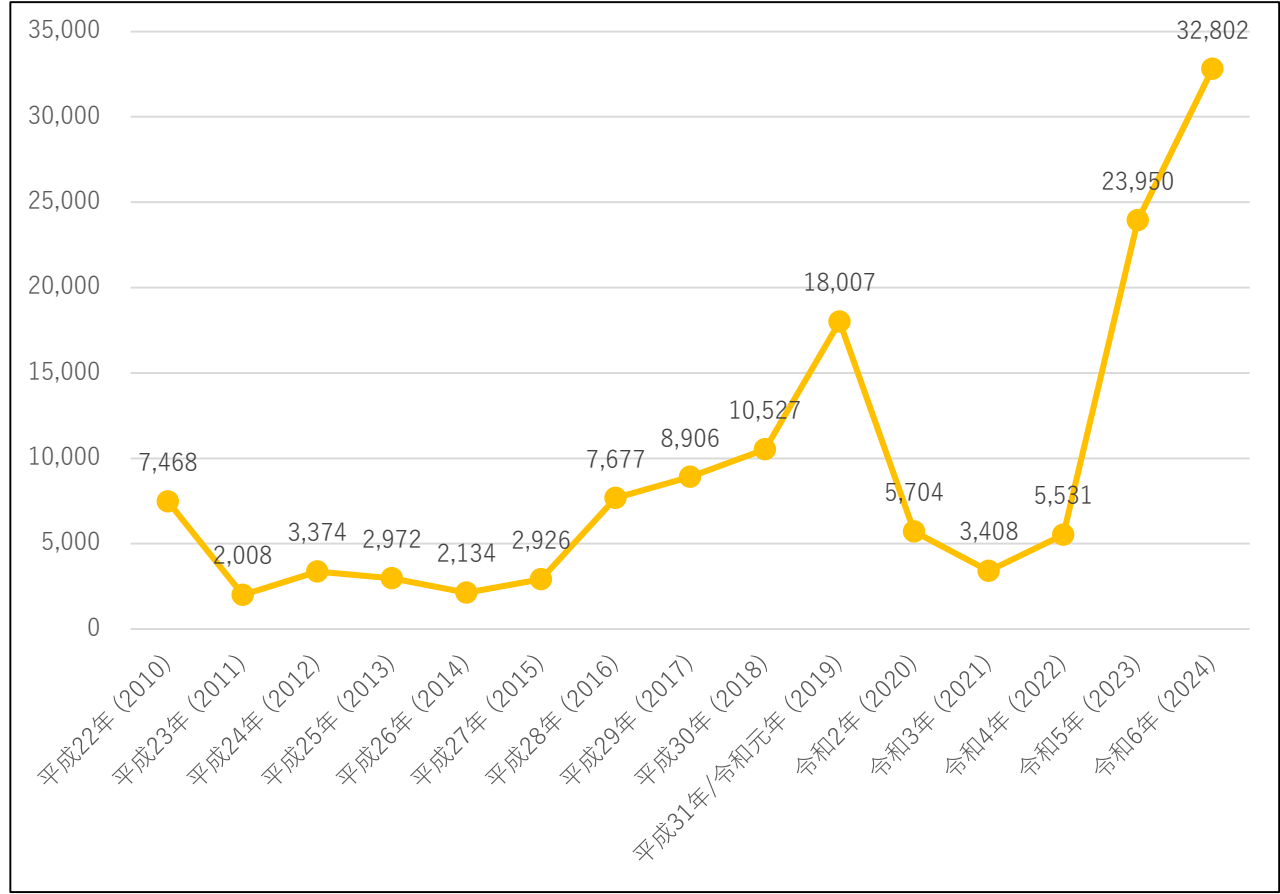
年（和暦/西暦）	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	計
平成22年（2010）	244	265	270	286	1,065
平成23年（2011）	240	298	343	238	1,119
平成24年（2012）	248	211	232	276	967
平成25年（2013）	238	232	244	264	978
平成26年（2014）	233	226	236	265	960
平成27年（2015）	214	223	234	250	921
平成28年（2016）	215	204	213	243	875
平成29年（2017）	204	196	208	214	822
平成30年（2018）	193	201	196	202	792
平成31年/令和元年（2019）	182	196	185	186	749
令和2年（2020）	171	45	108	147	471
令和3年（2021）	66	67	84	132	349
令和4年（2022）	104	124	151	160	539
令和5年（2023）	142	129	176	164	611
令和6年（2024）	164	140	155	173	632



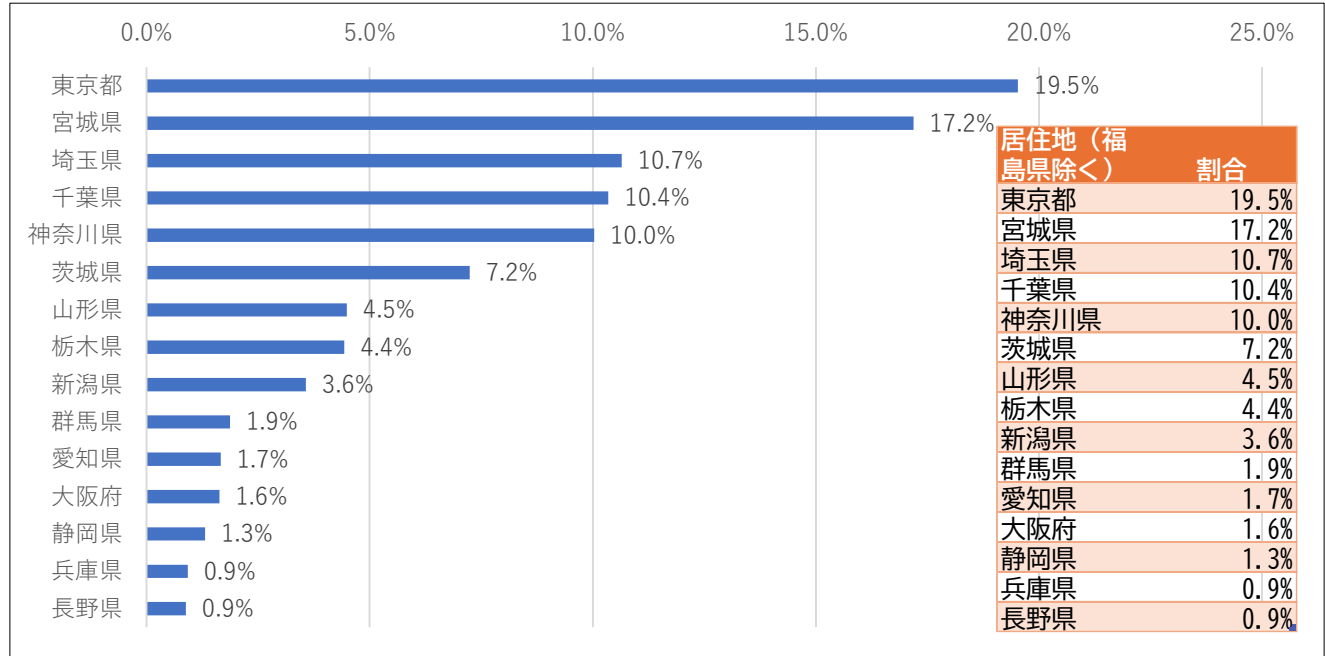
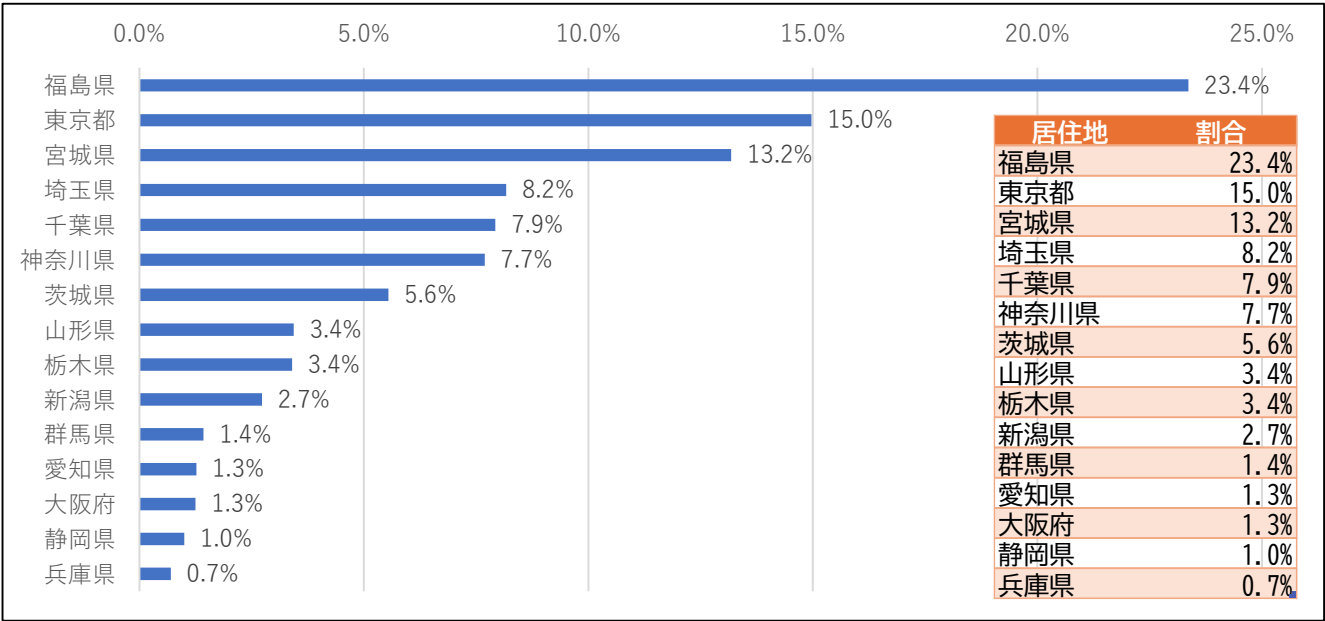
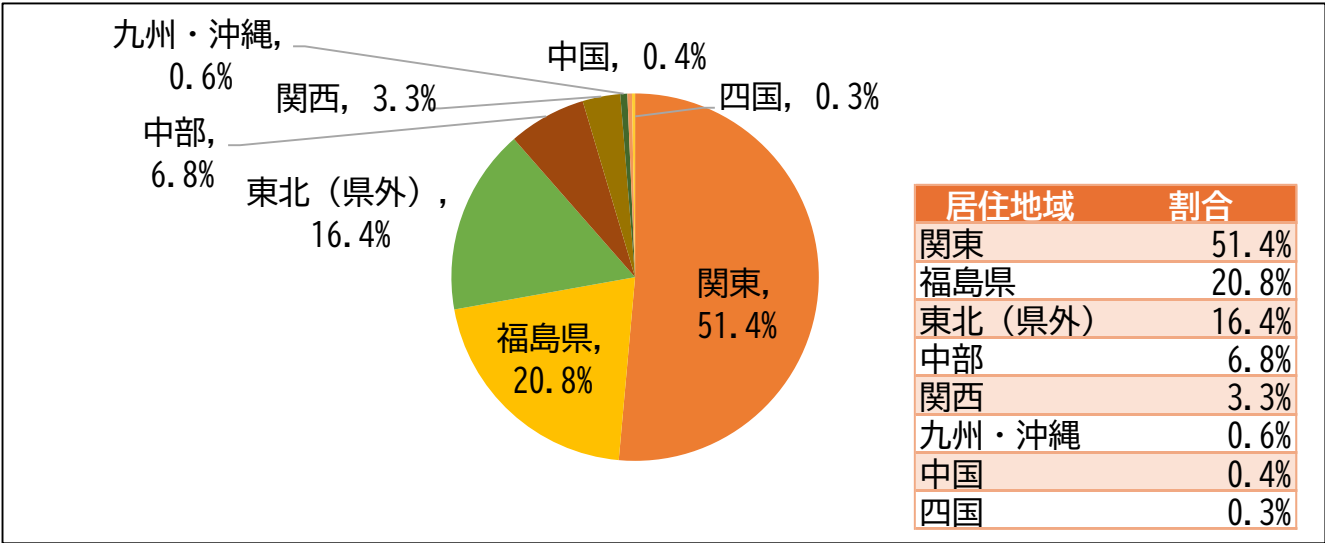
7. 外国人延べ宿泊者数

(単位：人)

年（和暦/西暦）	外国人延べ宿泊者数
平成22年（2010）	7,468
平成23年（2011）	2,008
平成24年（2012）	3,374
平成25年（2013）	2,972
平成26年（2014）	2,134
平成27年（2015）	2,926
平成28年（2016）	7,677
平成29年（2017）	8,906
平成30年（2018）	10,527
平成31年/令和元年（2019）	18,007
令和2年（2020）	5,704
令和3年（2021）	3,408
令和4年（2022）	5,531
令和5年（2023）	23,950
令和6年（2024）	32,802

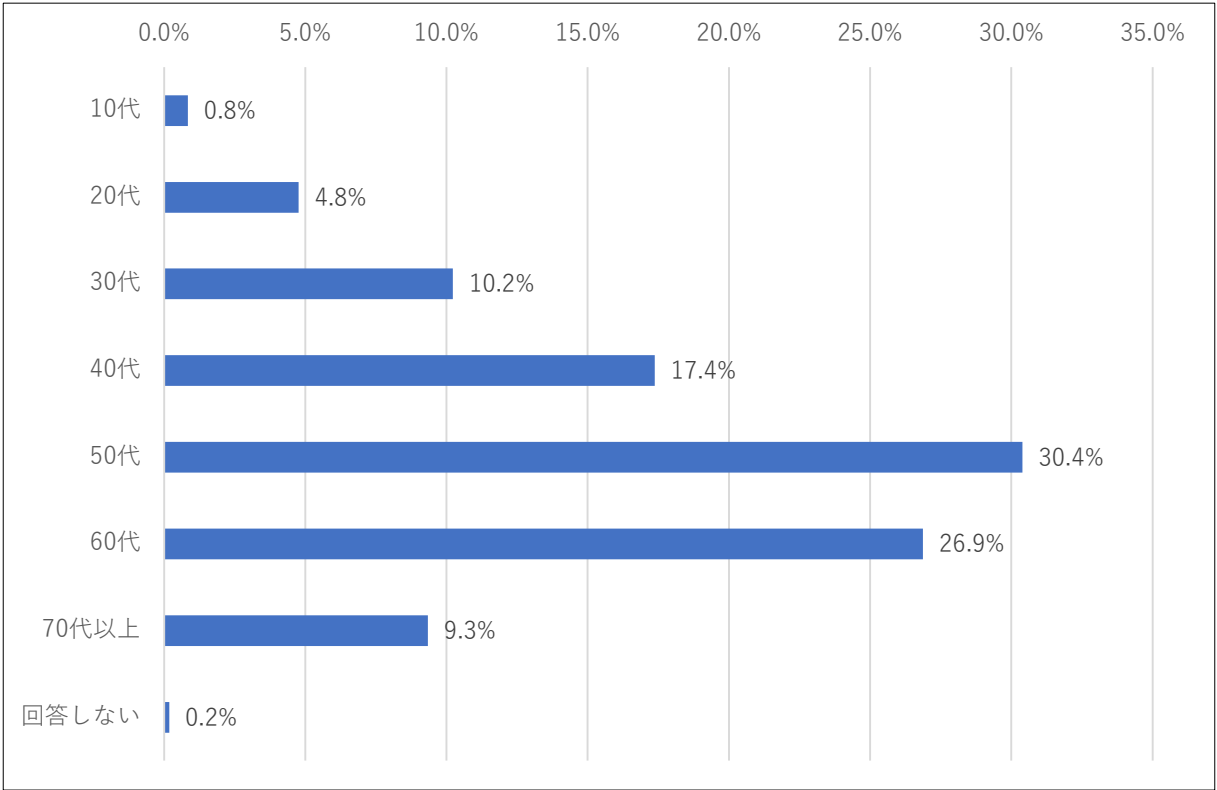


8. 福島市来訪者の居住地



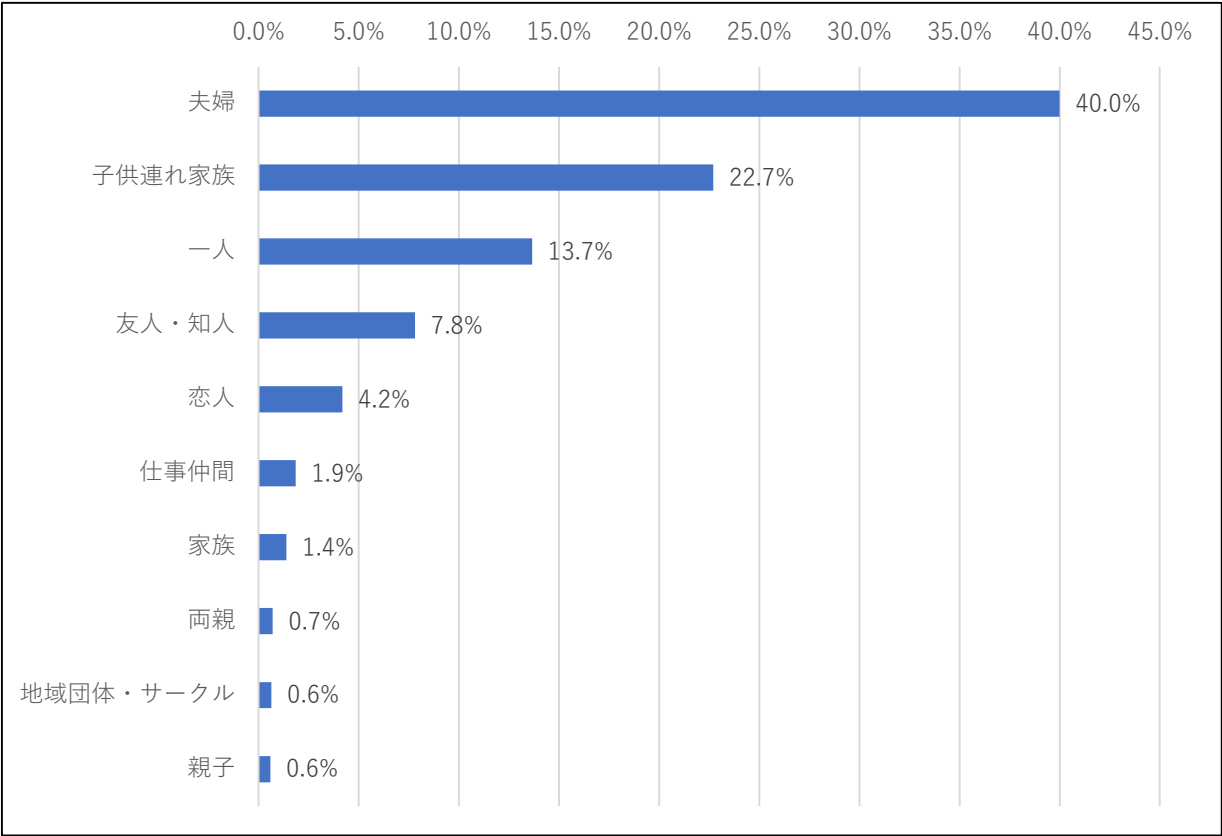
9. 福島市の来訪者の年齢

年代	割合
10代	0.8%
20代	4.8%
30代	10.2%
40代	17.4%
50代	30.4%
60代	26.9%
70代以上	9.3%
回答しない	0.2%



10. 福島市来訪者の同行者属性

グループ属性	割合
夫婦	40.0%
子供連れ家族	22.7%
一人	13.7%
友人・知人	7.8%
恋人	4.2%
仕事仲間	1.9%
家族	1.4%
両親	0.7%
地域団体・サークル	0.6%
親子	0.6%
親	0.5%



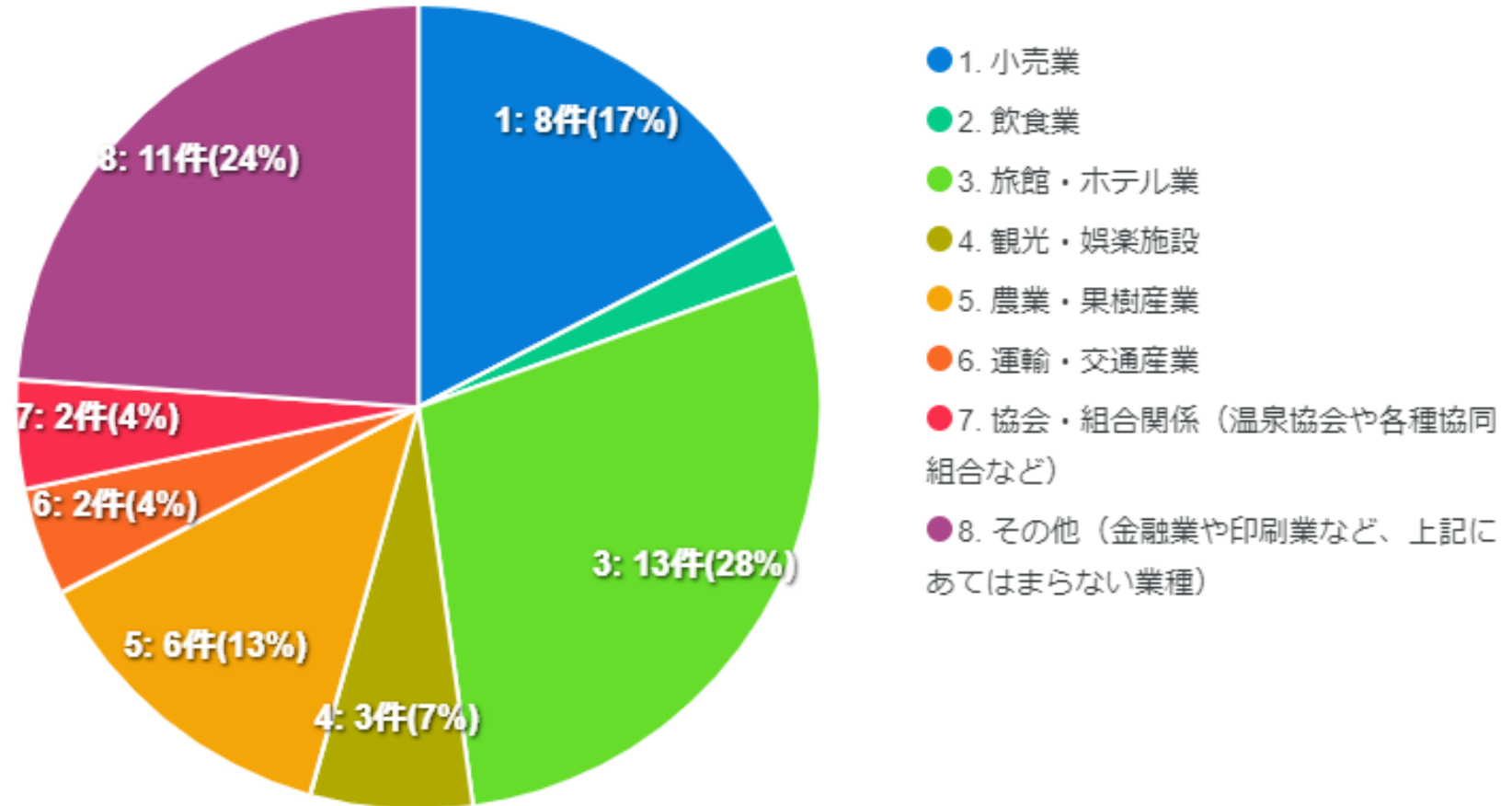
次期観光共創戦略策定 事業者アンケート

実施期間：令和7年6月6～18日

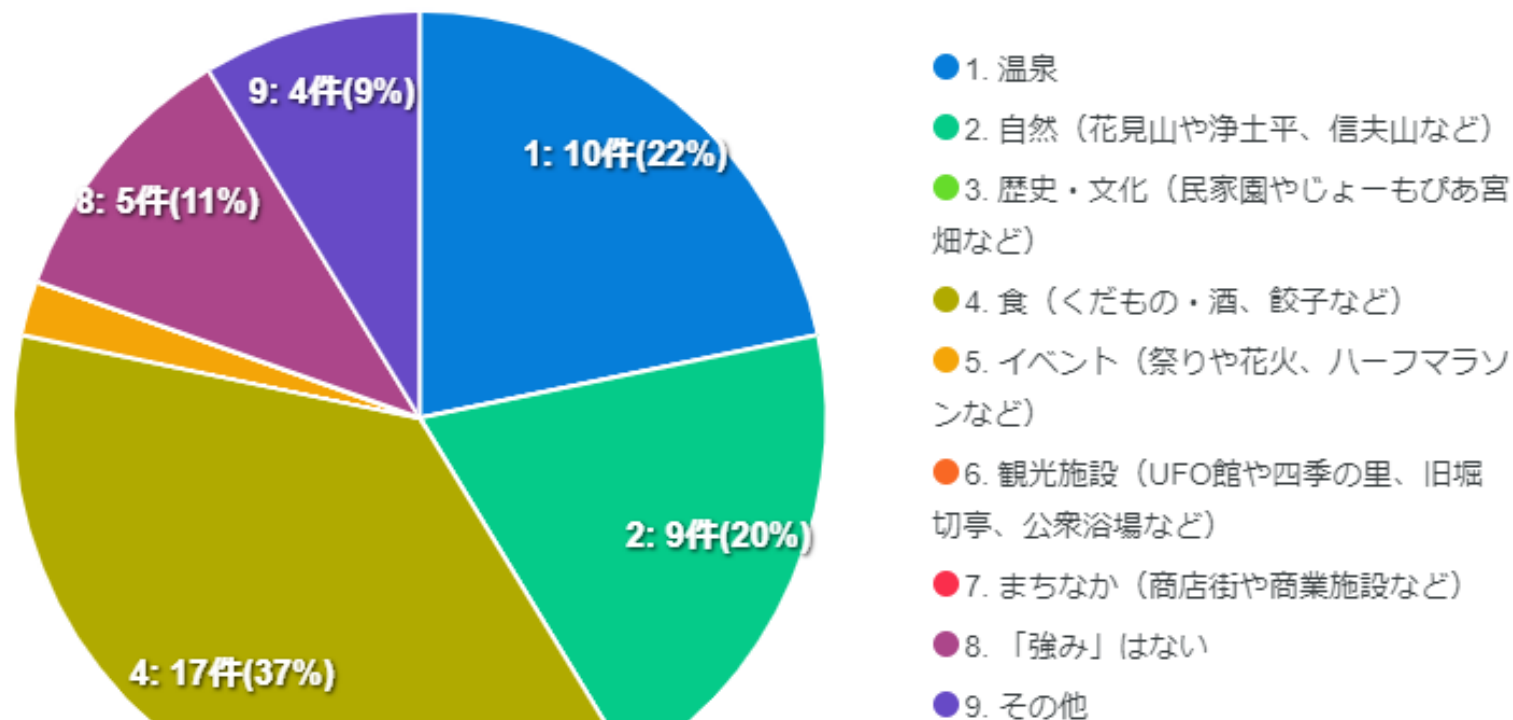
対 象：福島市観光コンベンション協会会員 ほか

回 答 数：46事業者

Q1. 業種を選択してください
※菓子など製造から販売まで行う事業者は「小売業」を、製造のみを行う事業者は「その他」を選択してください。



- Q2. 福島市の観光資源で1番の「強み」と考えられるもの
※観光地として目的（旅行のテーマ）となるものや他と比較して優位性があるもの。
※選択肢にないものや、具体的な観光施設・資源が考えられる場合は、「その他」に記入ください
（例：花見山、浄土平、盆栽など）。



【その他】

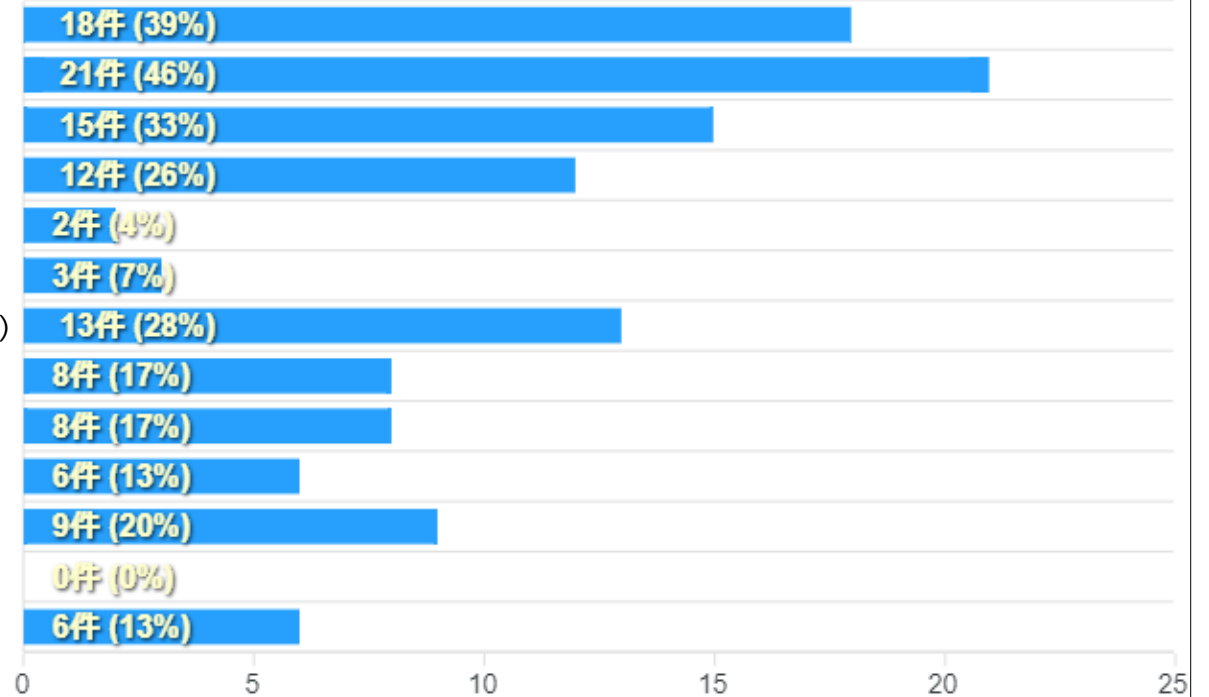
- ・「いで湯とくだものの里、福島市」。
- ・地理。
- ・温泉も花見山や浄土平、信夫山、食、イベントはいずれも魅力はあるが来る人々へのアピール不足、ホスピタリティ不足が目立つ。ずば抜けた「日本一」がない。
- ・養蚕と織物文化に関する歴史。

Q3. 上記で選択した「強み」について具体的な内容を記入ください（自由記入）。
※固有名詞やその魅力、理由について記入ください（固有名詞のみでも結構です）。

- ・「花見山」「浄土平」については観光資源として強みになると思う。桜の名所は数あれど、「花見山」の全体としての美しさ、をもっと前面に出していけば知名度があがるのではないのでしょうか。
- ・同じ市内で、高湯温泉、土湯温泉、飯坂温泉と、泉質の異なる温泉を楽しむことができる。
- ・果樹。苺、サクランボ、モモ、ブドウ、梨、洋梨、柿、リンゴなど様々な果樹を楽しむことができる。果物の無人販売機などもあちこちにあって手頃な値段で購入することも可能。
- ・単独で他地域よりも特別に秀でているかと問われれば微妙。しかし地域内にある複数のコンテンツを組み合わせることによって、他地域にも負けない強みが創出できると思います。
- ・くだもの、酒、餃子など、これという逸品はないが、それぞれにバラエティー豊富で観光客がそれぞれ自分のこのみの品種や店を探せるところ。
- ・冬を除いた季節それぞれに「山」を通じた自然環境に恵まれ、駅からの距離的なアクセスはよい。初心者から中級者向けの山が多く裾野が広い。
- ・海、山にも恵まれ、また新幹線、道路など地理的に東西南北をつなぐHUB的な地理条件。

Q 4. 福島市の観光地としての「弱み」や「課題」について（最大3つまで選択してください）。
※改善・解決の優先度が高いと思うものを選択してください。

1. 観光・娯楽施設の数・老朽化など（ハード面）
2. 観光・娯楽施設の魅力不足など（ソフト面）
3. 体験型観光商品の充実性
4. 観光情報の発信・プロモーション
5. 宿泊施設の数や質、多様性
6. 首都圏など地域外からのアクセス（運賃や所要時間、便数など）
7. 地域内での移動のしやすさ（公共交通機関やレンタカーの利便性など）
8. 滞在環境（多言語対応、案内表示の分かりやすさなど）
9. 飲食（多様性、魅力的な店舗の少なさなど）
10. 物産（魅力的な商品の開発、販売チャネルなど）
11. イベント・祭（集客力の独自性、情報発信など）
12. 「弱み」や「課題」はない
13. その他



【その他】

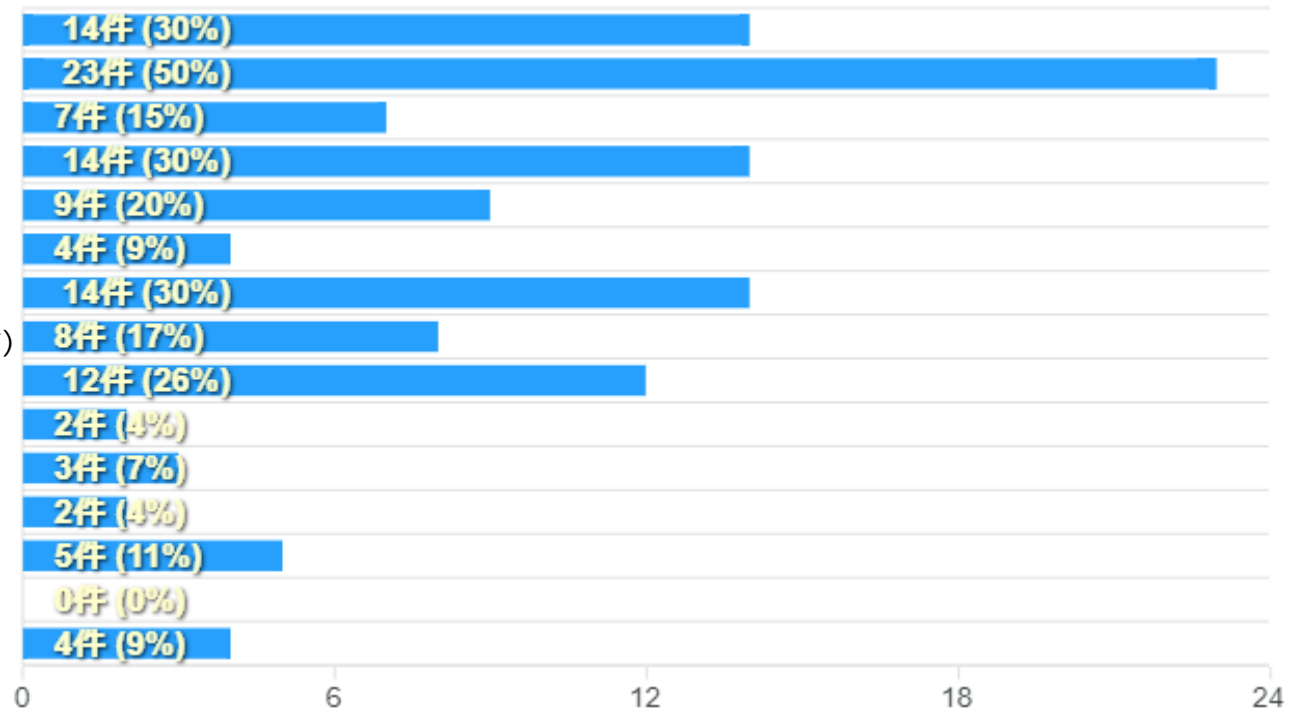
- ・観光資源が、自然の多いので、季節に左右される。
- ・まとまりがない。
- ・取り組みが続けられないこと。コロコロ目先のことに振り回されて、方針が変わること。
- ・何をしに福島へ行くのかの動機付けが少ない。観光地へ行って楽しむコンテンツが少ない。ソフトのストーリーが圧倒的に少ない。

Q5. 上記の質問で選択した「弱み」や「課題」について具体的な内容を記入ください（自由記入）。
※「弱み」や「課題」の現状のほか、その対応策・解決手段などありましたら記入ください。

- ・観光だけではなく、全体的に福島のプロモーションは弱いと思う。
- ・大規模な学会が出来るコンベンションホール、大規模なコンサートやミュージカルが出来るアリーナが全くなく、観光地もない。県外の方々が福島に来る目的となる施設を駅近辺につくって欲しい。
- ・イベント・祭りも当事者だけが楽しんでいるようで、見物客が楽しいイベント・祭りというものになっていないと思う。
- ・通年で提供できる観光資源が少ない。
- ・夜間や早朝のコンテンツも不足している。
- ・それぞれが魅力であっても点で存在していて面展開ができていないことや、それぞれの事業所などが他地域から学び、それをいかに活かして自施設に転嫁することが苦手なように感じます。
- ・冬のコンテンツの少なさ。駅から各観光地への公共的な移動手段が不足している。また、タクシー等の個人利用による移動手段と観光地との連携した施策やそのプロモーションにかけている。今後はF I T客向けの観光地と移動手段が一括りの施策やプロモーションが必要である。
- ・観光施設、イベントの規模感が中途半端。広報力が弱いのか中核で動いているところでしかイベントなど把握していない。
- ・キャッシュレス、多言語の拡充（人気のあるお店ほど）。
- ・旅館の老朽化、車移動を前提とした観光施設（道の駅など）、昼営業の飲食店の少なさ。

Q 6. 福島市における観光客の受け入れ・誘客で、どのような取り組みが重要と考えますか（最大3つまで選択してください）。

1. 観光・娯楽施設の数・老朽化など（ハード面）
2. 観光・娯楽施設の魅力不足など（ソフト面）
3. 体験型観光商品の充実性
4. 観光情報の発信・プロモーション
5. 宿泊施設の数や質、多様性
6. 首都圏など地域外からのアクセス（運賃や所要時間、便数など）
7. 地域内での移動のしやすさ（公共交通機関やレンタカーの利便性など）
8. 滞在環境（多言語対応、案内表示の分かりやすさなど）
9. 飲食（多様性、魅力的な店舗の少なさなど）
10. 物産（魅力的な商品の開発、販売チャネルなど）
11. イベント・祭（集客力の独自性、情報発信など）
12. 「弱み」や「課題」はない
13. その他

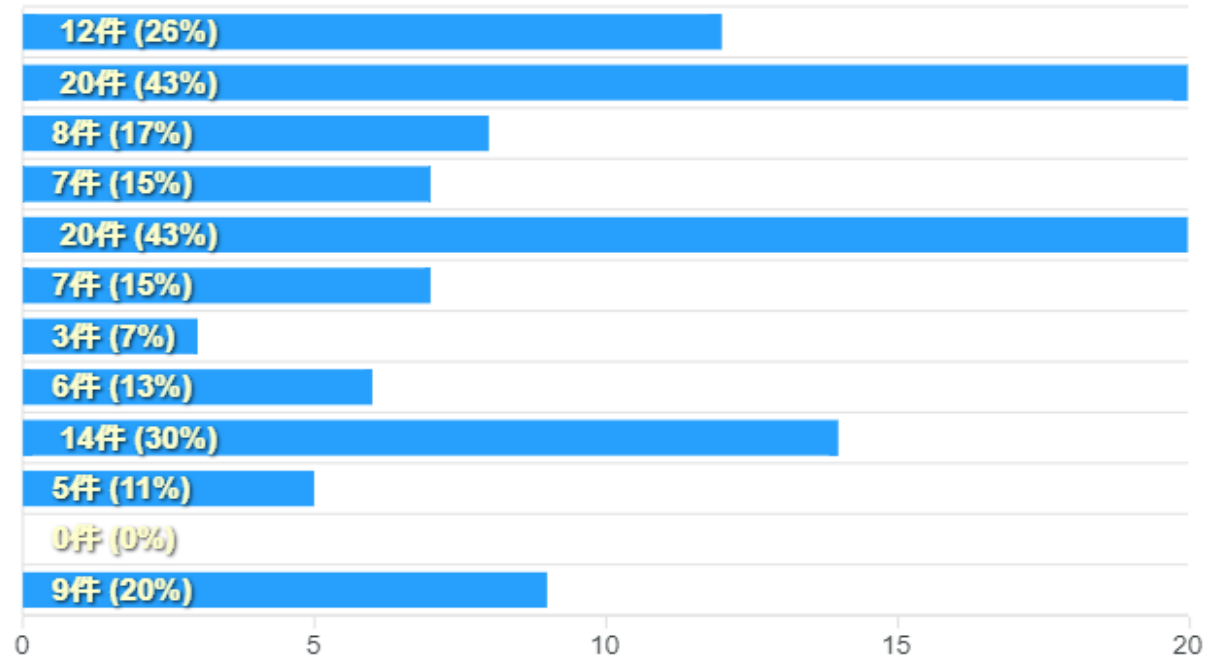


【その他】

- ・新幹線と高速道路がある高速交通網が完備されているがアピール不足。
- ・物産振興は観光資源の掘り起こし及びブランディングに該当する。さらに観光情報発信のコンテンツの一つでもあり、体験型（食）のコンテンツでもある。
- ・物産販売による他市町村との交流や話題性は関係人口・交流人口の観点からも狭いが強い情報発信力がある。
- ・SNSインフルエンサーとのコラボ。

Q 7. 福島市における外国人観光客の受け入れ環境整備において、最も優先的に取り組むべき課題は何だと考えますか（最大3つまで選択してください）。

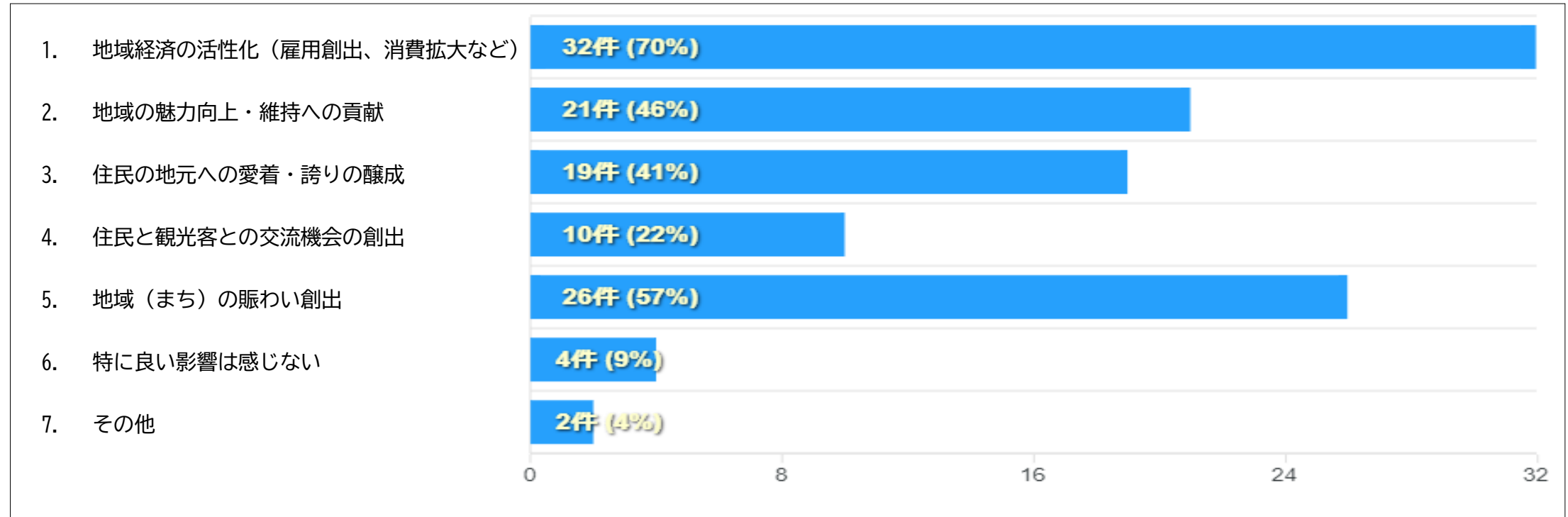
1. 多言語対応スタッフの育成・配置
2. 多言語表記の充実（案内看板、メニュー、パンフレット等）
3. 無料公衆Wi-Fi環境の整備・拡充
4. キャッシュレス決済手段の多様化・普及
5. 交通アクセス（二次交通含む）の多言語対応と利便性向上
6. ベジタリアン・ヴィーガン対応食の提供体制
7. ムスリムフレンドリー対応（礼拝スペース、ハラール食等）
8. 文化・習慣の違いへの理解促進（事業者・地域住民向け）
9. 外国人向け体験コンテンツの造成
10. 緊急時の多言語対応体制の構築
11. 特に課題はない
12. その他



【その他】

- ・インバウンドに頼る必要があるのか疑問がある
- ・外国人なら誰でもいいのか、国際交流都市や個人的な国際交流から真に来てほしい外国人を増やせないのか。
- ・前年比だと福島に来られたインバウンド数は増加している。なぜ福島に？福島に来てた目的は？等々情報収集が非常に弱いと感じる。
- ・まだその段階にない。強いていえば、まず発信力のある外国人との関係を深めることから。
- ・福島空港への外国便、lcc乗り入れ。
- ・日本文化の一つの形として、『福島はこういうところで、他にはないこんな日本が楽しめる』と独自性のあるコンテンツの造成と体系化及び情報発信。
- ・多言語対応したガイドアプリの構築。
- ・温泉の入り方や、お手洗いの使い方の表記などは必要だと思います。

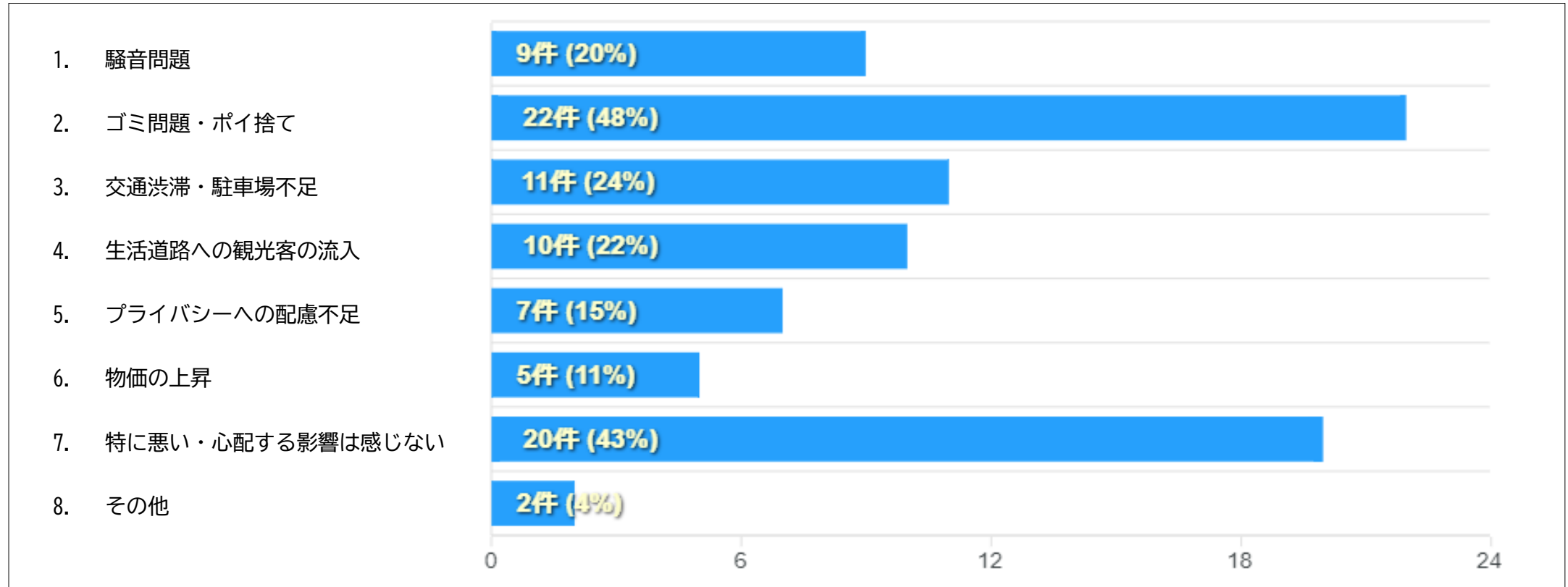
Q 8. 観光客の増加や観光活動が、地域住民の生活に与える『良い』影響について、どのように感じていますか（あてはまるものをすべて選択してください）。
また、その調和のために事業として意識していることがあれば教えてください（「その他」に記入してください）。



【その他】

- ・旅行者が使うカネが一部だけに還流していないか、市民一人ひとりが潤うようなことはできないのか。
- ・観光・物産共に外貨（福島市外のお金）を稼ぐ、流入する手段であり、付加価値・利益率の高い外貨を協力して稼ぐことができることが市の発展に繋がるものと感じている。

Q 9. 観光客の観光客の増加や観光活動が、地域住民の生活に与える『悪い・心配する』影響について、どのように感じていますか（あてはまるものをすべて選択してください）。
また、その調和のために事業として意識していることがあれば教えてください（「その他」に記入してください）。

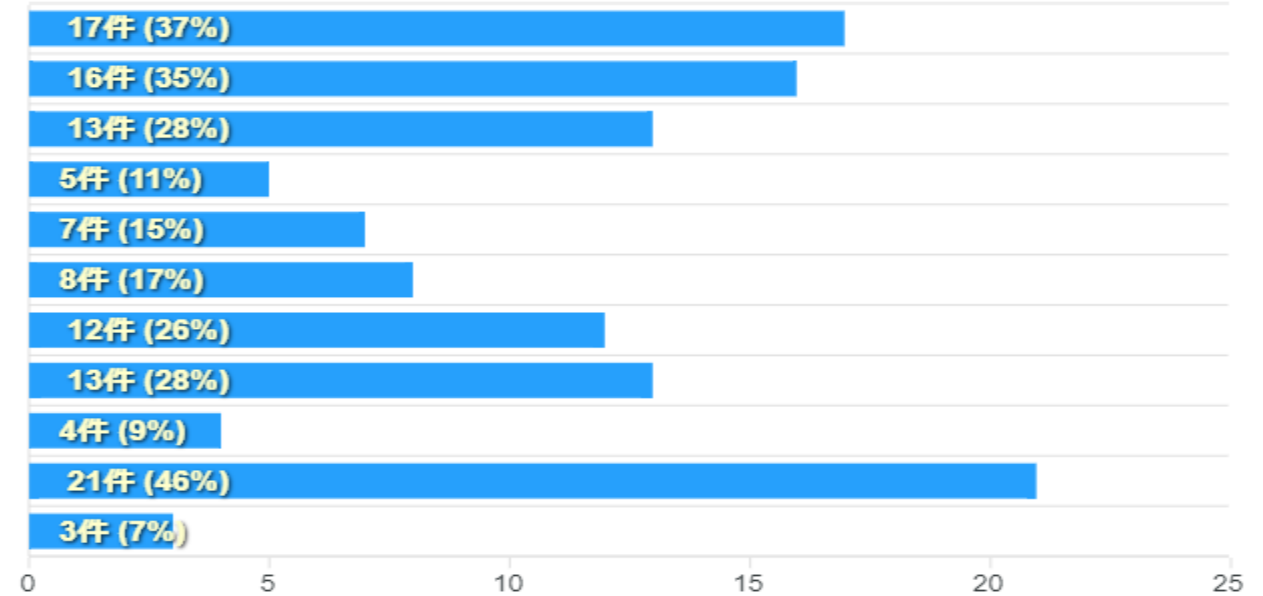


【その他】

- ・被害と賠償・投資と回収のような、相対する方策が考えられないのか。
- ・今のところ悪い影響が出る心配をするほどの訴求力はないものと感じている。

Q10. 今後、福島市が特に誘客に力を入れるべきと考えるターゲット層はどれですか（最大3つまで選択してください）。

1. 国内の若年層（20代～30代）
2. 国内のファミリー層
3. 国内のシニア層
4. 国内の富裕層
5. 修学旅行・教育旅行
6. 企業の研修・インセンティブ旅行（MICE）
7. 外国人観光客（アジア圏）
8. 外国人観光客（欧米豪圏）
9. 外国人観光客（富裕層）
10. 特定の趣味・関心を持つ層（例：歴史、アニメ、登山、サイクリングなど）
11. その他

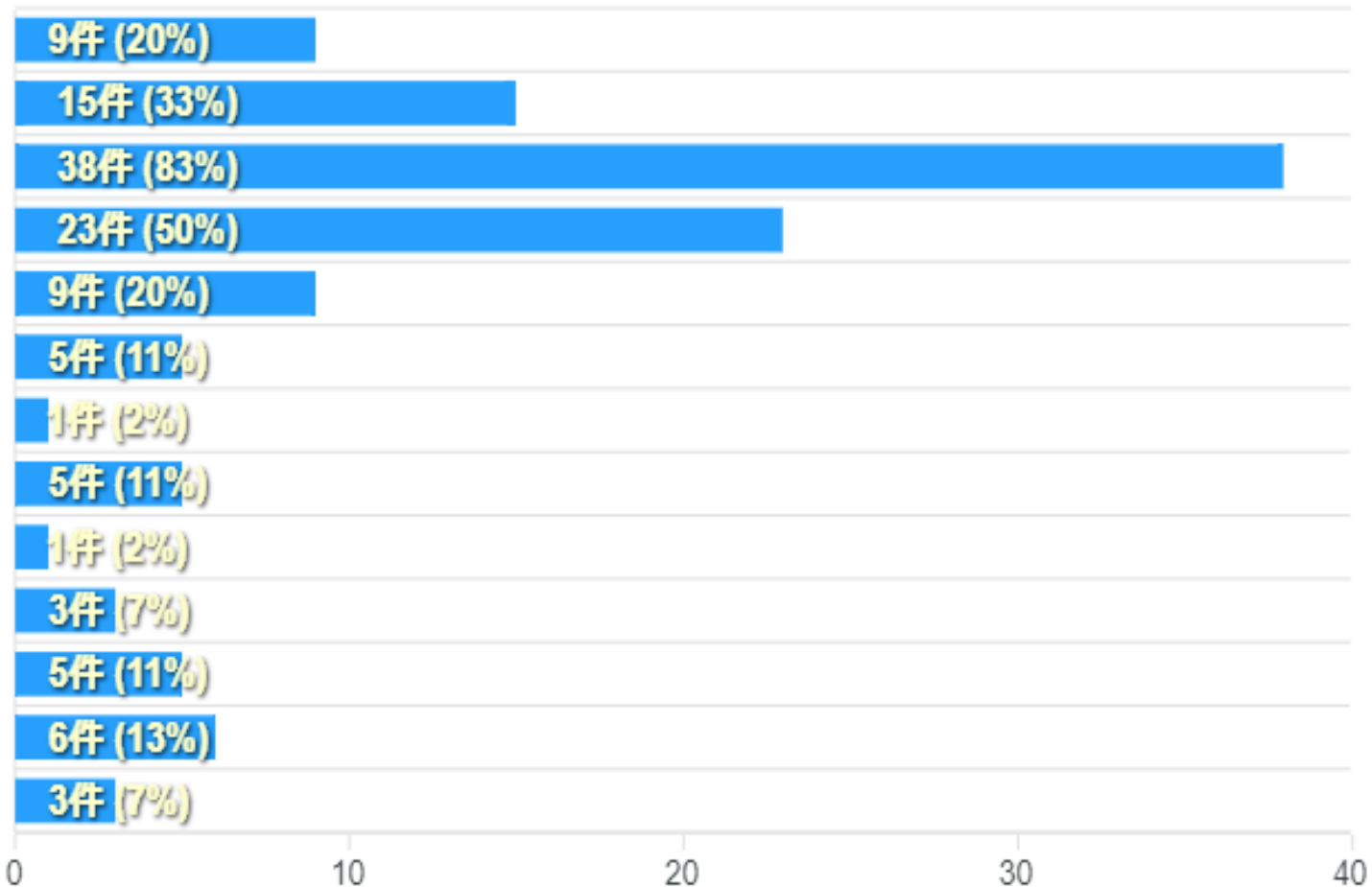


【その他】

- ・残念ながら富裕層に訴求できる観光資源は少ない。
- ・団体旅行の時代は終わっているにも関わらず、その感覚が抜けていない。
- ・個人が楽しめるコンテンツの造成があれば、福島のカパシティに対応しやすいと考える。その場合ターゲット層は福島にご縁があるか、興味を持ってくれる人になる。
- ・台湾人は本当に日本を好きでいてくれるので、台湾人の富裕層の方々に来てもらえたらと思います。飛行機も就航してるし(福島空港からはガッカリする程遠いけど)台湾人を誘致した方がいいと思います。

Q11. 福島市の観光情報を発信する上で、最も効果的だと考える情報発信チャネル・手法は何ですか（最大3つまで選択してください）。

1. 福島市公式観光ウェブサイト
2. 旅行予約サイト（じゃらん、楽天トラベルなど）
3. SNS（Instagram, X(旧Twitter), Facebook, TikTokなど）
4. 動画サイト（YouTubeなど）
5. インフルエンサーの活用
6. テレビCM・番組
7. 新聞・雑誌広告
8. 旅行会社との連携・ツアー造成
9. 観光案内所での情報提供
10. 国内外の旅行博・商談会への出展
11. 口コミ・レビューサイトの活用
12. 鉄道事業者と連携した駅などでのPR・プロモーション
13. その他

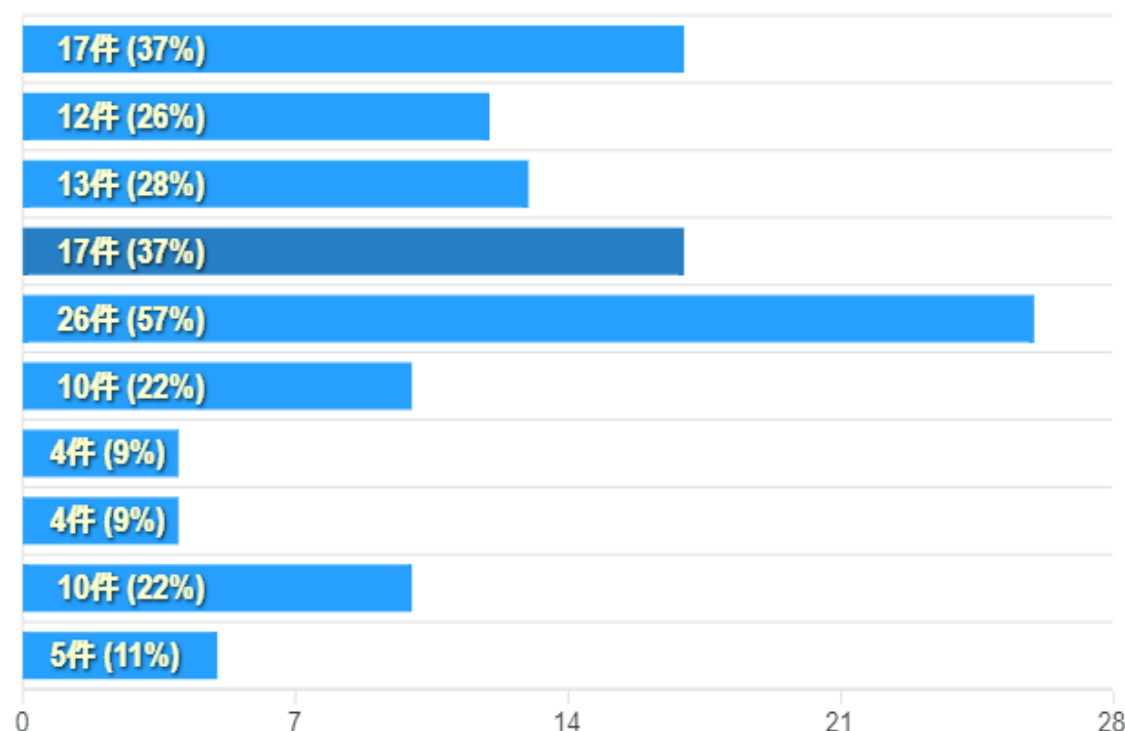


【その他】

- ・日本中の誘客成功事例を集めてAI分析できないか。
- ・ターゲットを絞るならその筋でのメディア、SNS露出。話題性が醸成出来た後に幅を広げていく。
- ・ツールの選択よりも内容の充実。

Q 1 2. 観光客の滞在時間を延ばし、周遊を促進するために有効な施策は何だと考えますか（最大3つまで選択してください）。

1. 魅力的な夜型観光コンテンツの開発（ナイトマーケット、ライトアップ等）
2. 魅力的な朝型観光コンテンツの開発（浄土平での朝日鑑賞等）
3. 複数の観光スポットを巡る周遊パスや割引クーポンの発行
4. 体験型アクティビティの充実（例：果物狩り、工芸体験、農業体験など）
5. テーマ性のある観光ルートの提案（例：歴史散策、温泉めぐり、酒蔵めぐりなど）
6. 宿泊施設と連携した地域ならではのプラン造成
7. 手荷物預かり・配送サービスの充実
8. レンタサイクルやカーシェアリングの拡充
9. 分かりやすい周遊マップや情報提供アプリの開発
10. その他

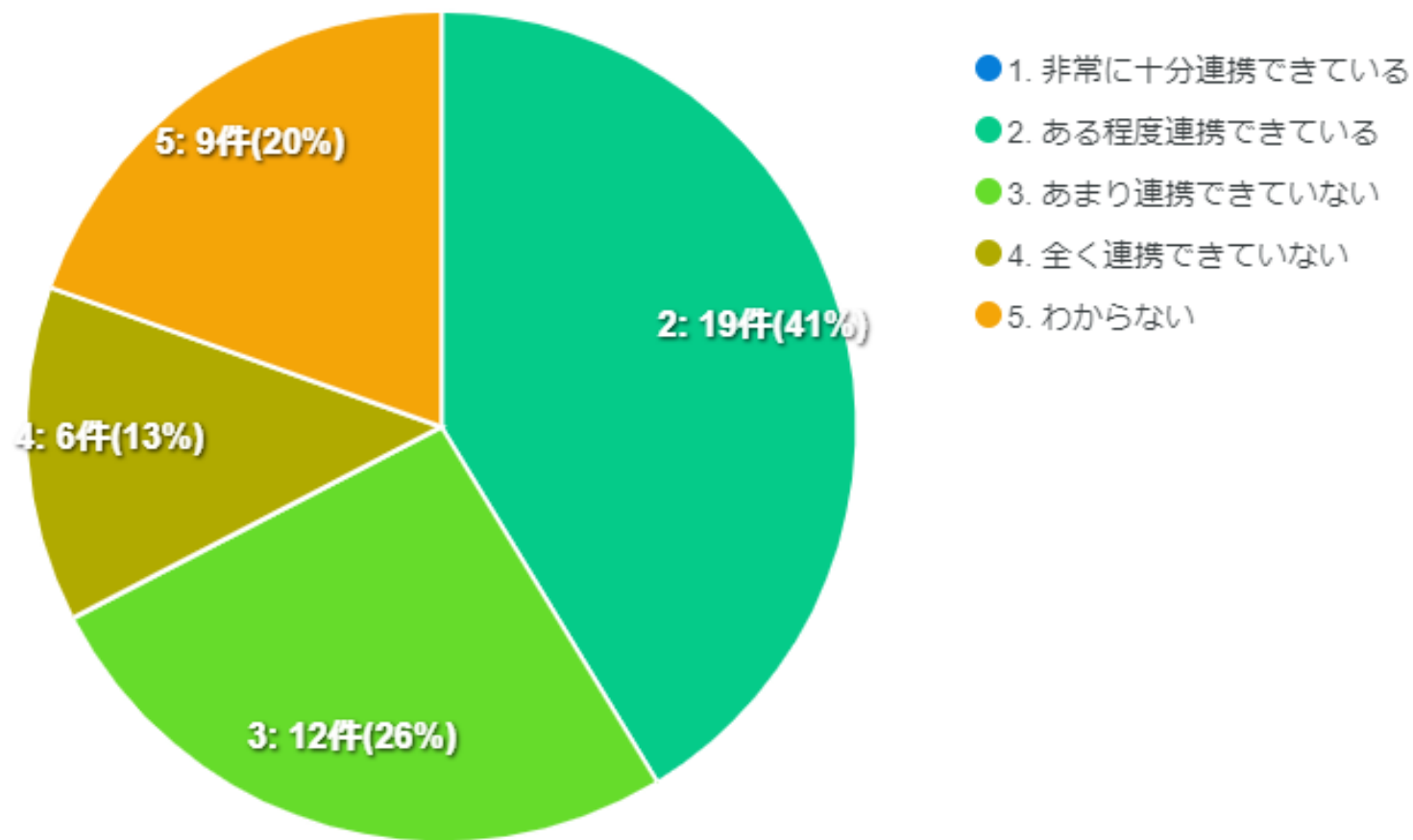


【その他】

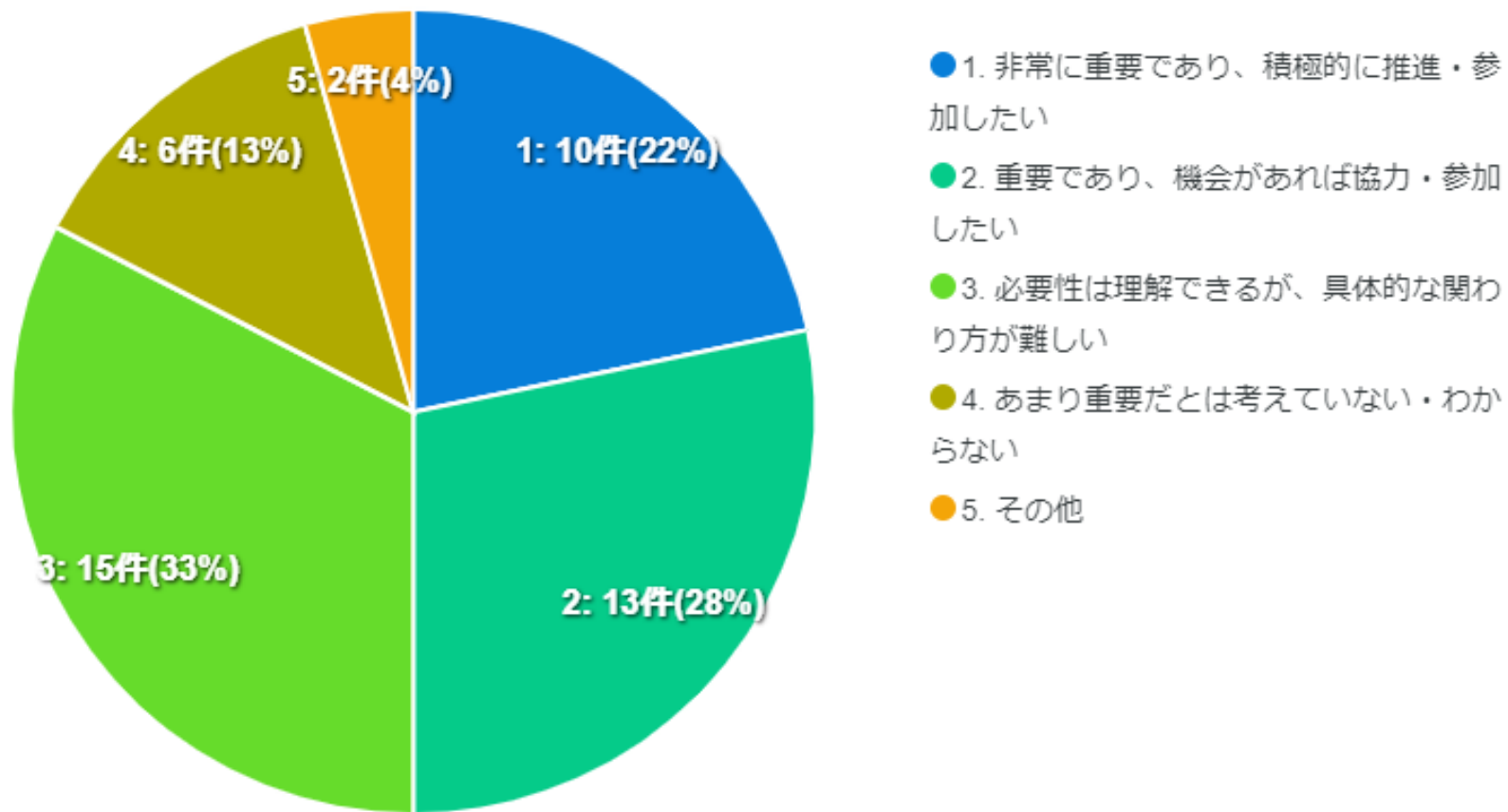
- ・周遊しても金を使わない周遊ならどうなのか。
- ・コンテンツは自分で探すもの、プランづくりよりも長期滞在しやすい宿泊環境の整備。
- ・小さなコンテンツの多様化、多種化をし、組み合わせることでもう少し泊まりたい、また来たいと思わせることができる。
- ・googleなどの情報にきちんと情報提供できているか、スマホで検索した時にカスタマーにきちんと露出できているか、観光DXに強い地域づくり。
- ・朝方観光コンテンツの朝日も素敵ですし、夜の星空観賞、夜にカブトムシを取りに行くとか、田舎でしかできない、自然体験満載なプログラムがいいと思います。

Q 1 3. 福島市の観光振興において、行政との連携や事業者同士（例：宿泊施設、飲食店、交通事業者、DMOなど）の連携は十分だと感じますか。

※DMO：観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人



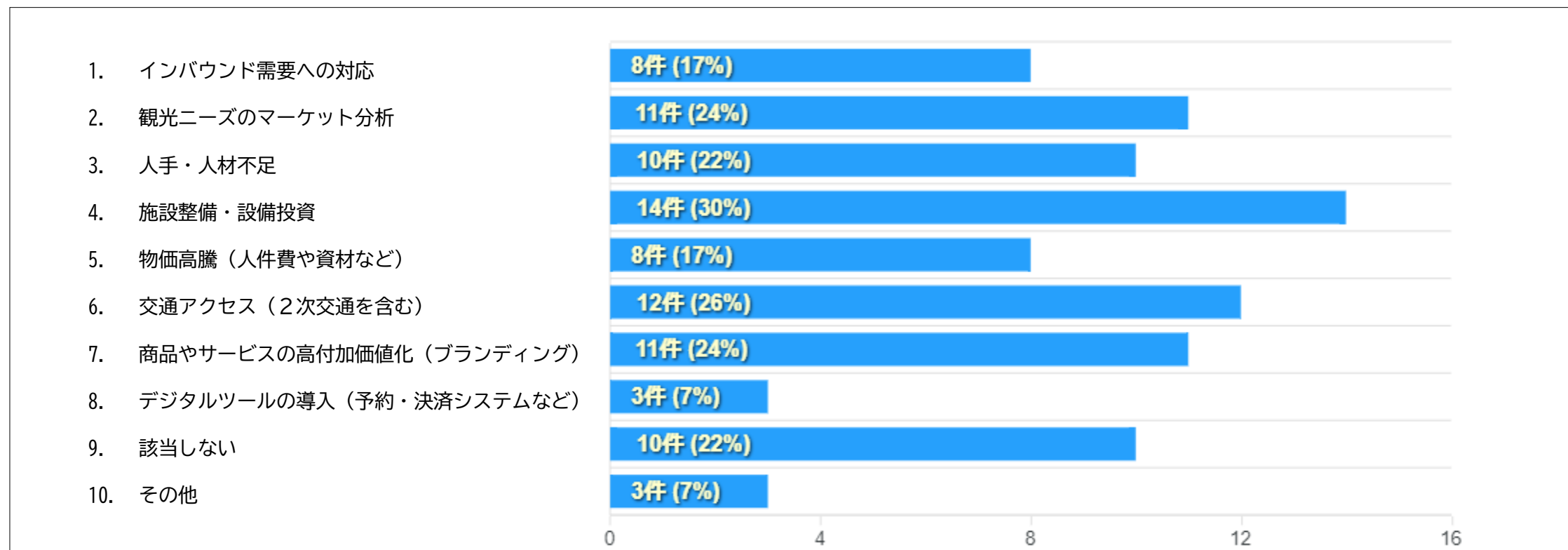
Q 1 4. 福島市の観光を盛り上げていく上で、地域住民との連携や住民参加型の取り組み（例：住民ガイド、地域イベントへの協力、ホームステイ等）について、どのようにお考えですか（最も近いものを1つ選択してください）。



【その他】

- ・まず必要なことは、旅行に行きたいというマインドになるための多様なニーズは具体的には何か、それに福島市のコンテンツは応えられるのか
- ・あちこちに半端に手を出す前に、観光地と呼ばれているところに力を注いで戴きたいです。

Q15. 貴施設・事業所の観光客の受け入れにあたっての課題について（最大3つまで選択してください）

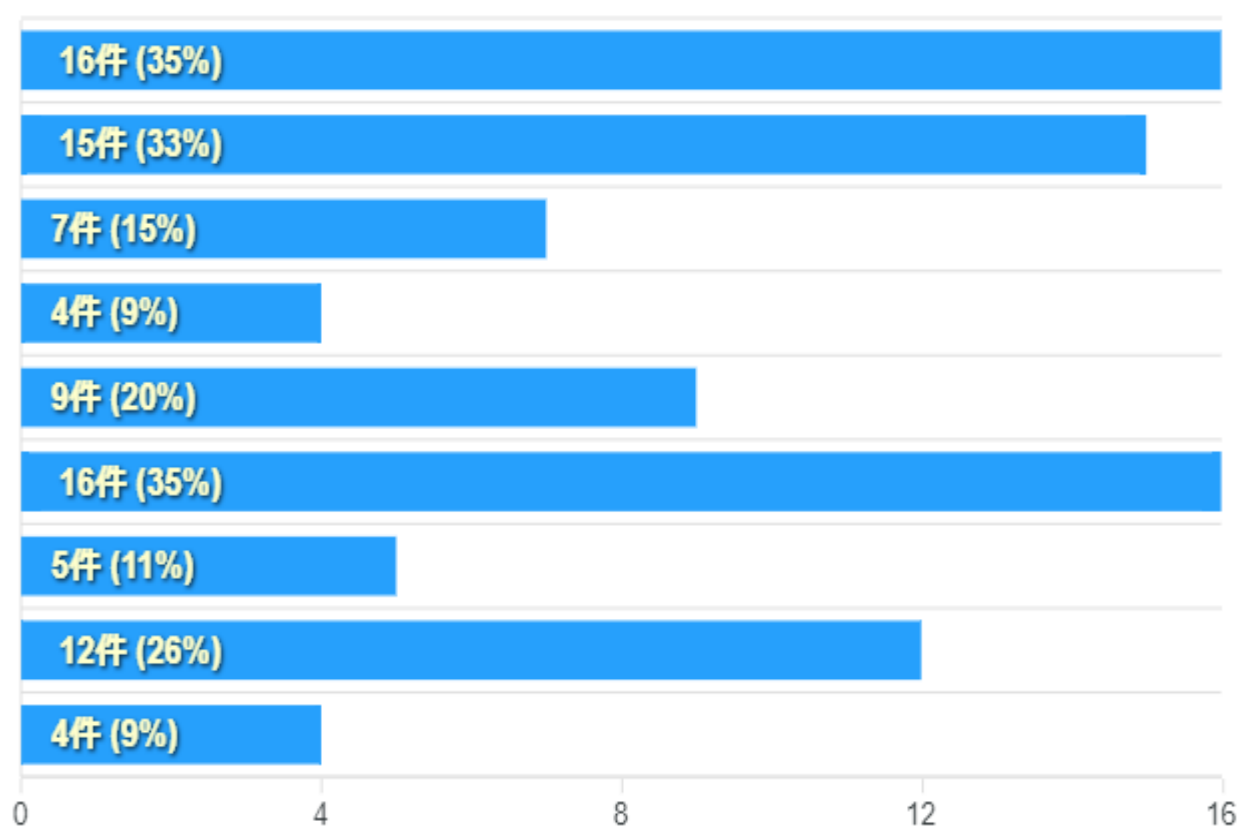


【その他】

- ・全ての資源においてできるもの、できないものを整理する。次にそれを組み合わせコーディネートする、異業種の組み合わせから新たなイノベーションを創り出す。
- ・高付加価値化ののち独自性の高いコンテンツとしての情報発信。

Q16. 貴施設・事業所におけるインバウンド需要の受け入れの課題等について（最大3つまで選択してください）。

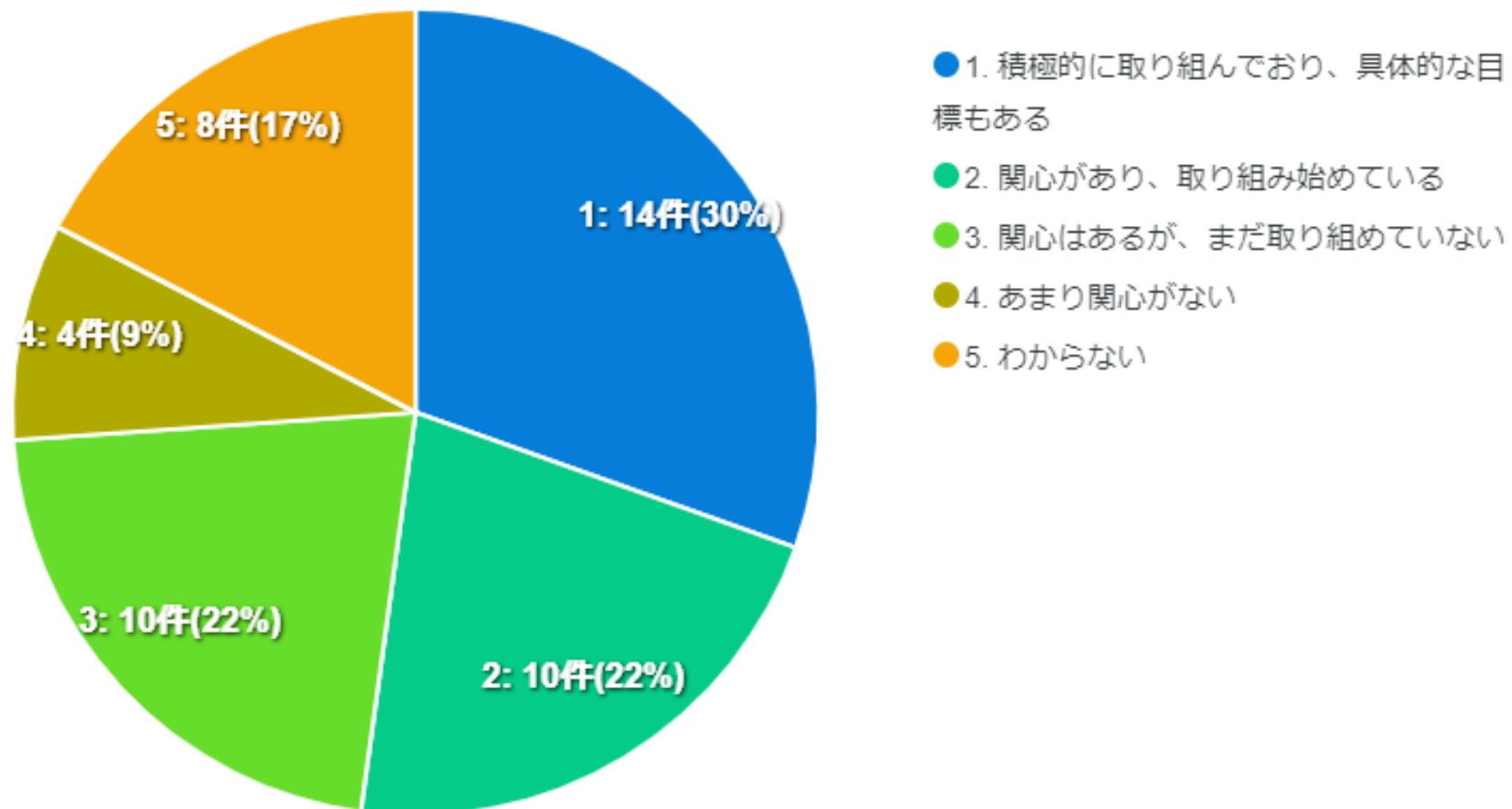
1. 人手・人材不足（外国語への対応など）
2. 多言語のインフラ整備（パンフレットやホームページ、店内表示など）
3. 食事の対応（宗教などによる食の多様性）
4. インバウンドのマーケット分析（外国人のニーズなど）
5. 商品の高付加価値化（ブランディング）
6. 外国人向けのプロモーション
7. インバウンドの受け入れはしていない
8. 該当しない
9. その他



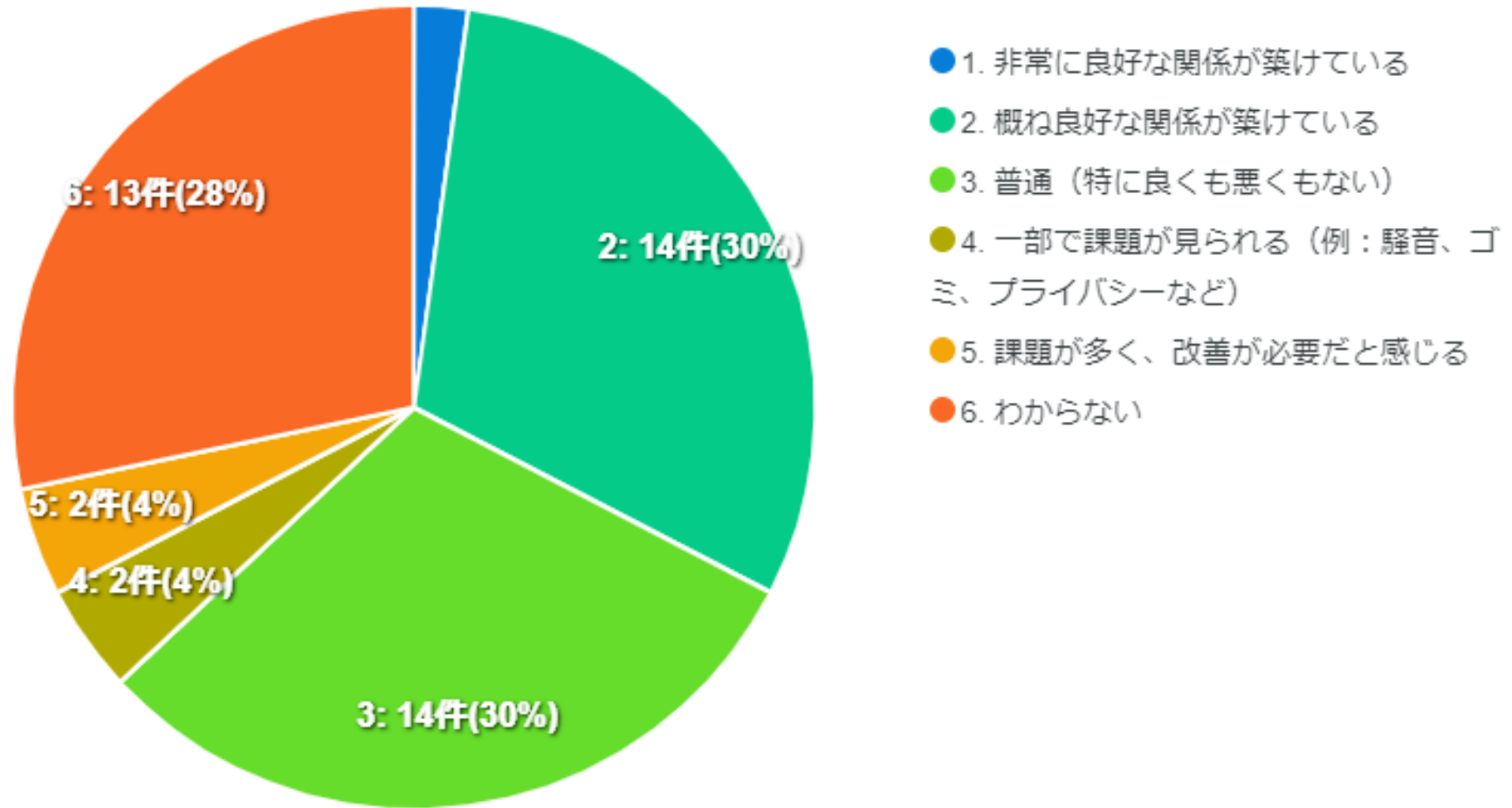
【その他】

- ・何がたりないのかわからない、わからないことが多すぎるのが課題。
- ・外国人という枠組みではなく、一お客様としての対応力を身に付ける。
- ・他県と比較しまだまだ残るFUKUSHIMAという言葉への風評払拭。

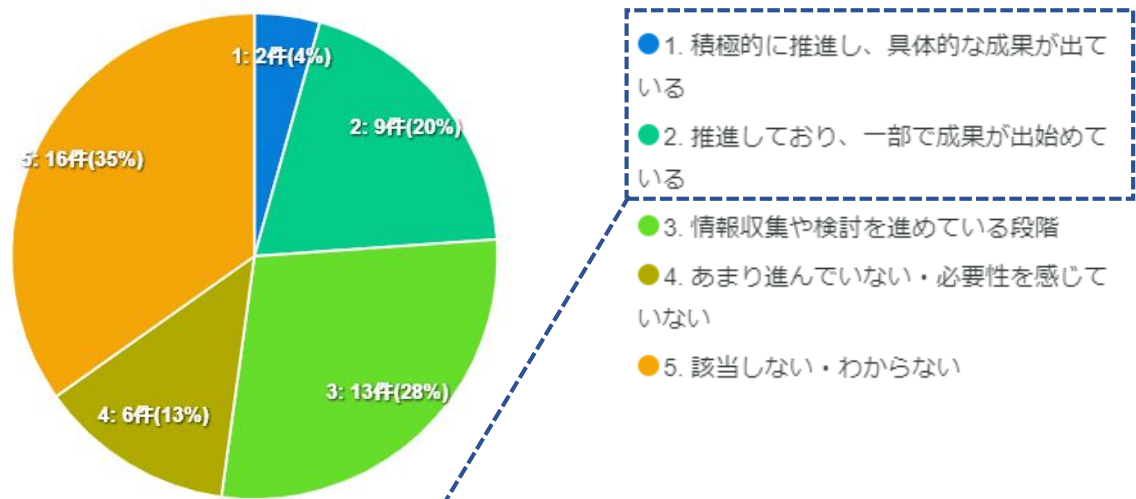
Q 1 7. 持続可能な観光（SDGsへの貢献、環境保全、文化財保護、地域住民の生活との調和など）の取り組みについて、貴施設・事業所ではどのように考えていますか。



Q 1 8. 貴施設・事業所の周辺地域において、観光客と地域住民との関係性について、現状をどのように認識されていますか。

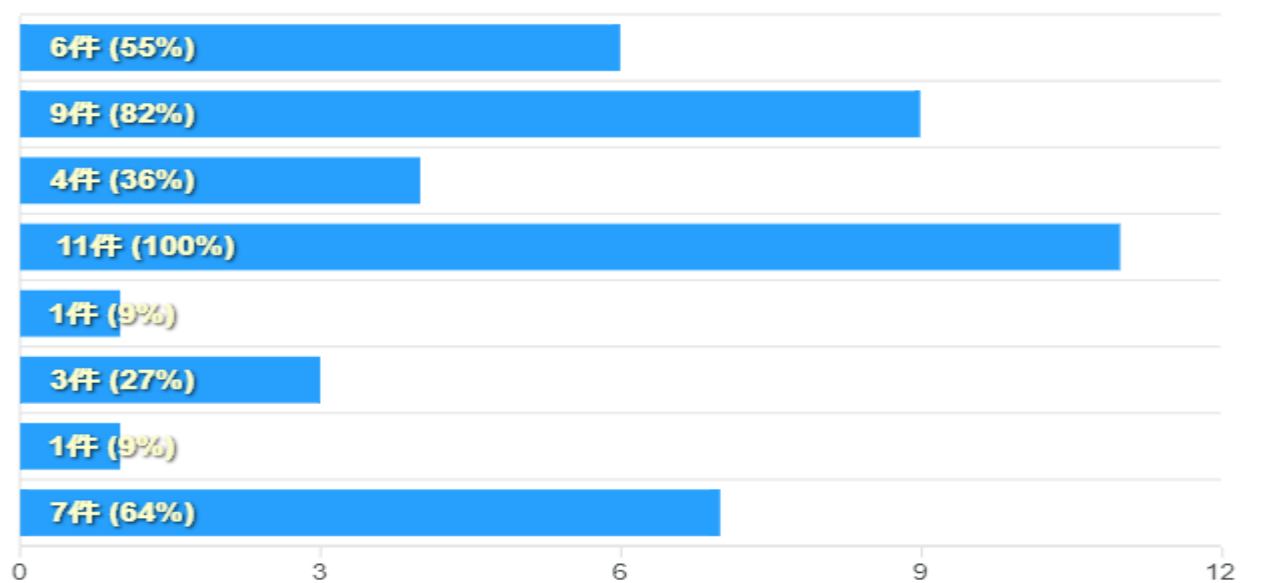


Q 1 9. 貴施設・事業所において、観光分野でのDX（デジタルトランスフォーメーション）はどの程度進んでいますか。

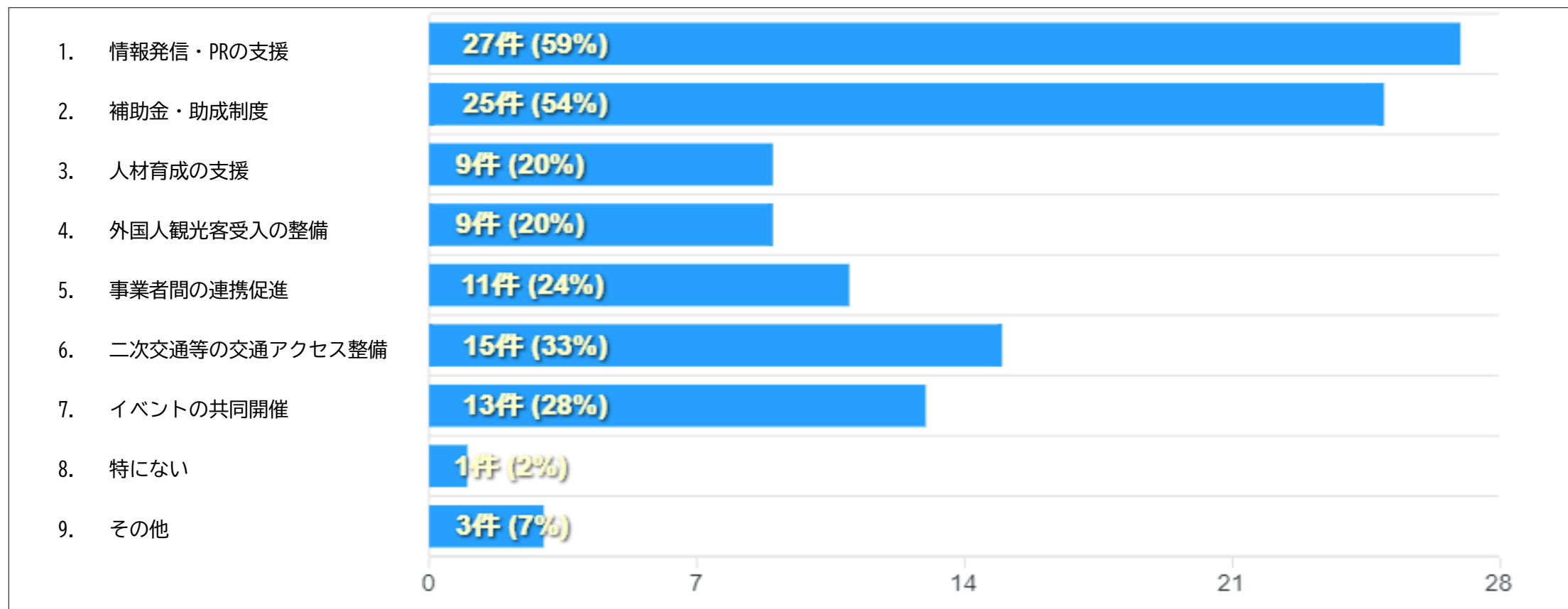


Q 2 0. 具体的にどのようなDXに取り組んでいますか（あてはまるものをすべて選択してください）。

1. オンライン予約システムの導入・高度化
2. キャッシュレス決済の導入・拡充
3. 顧客管理システム（CRM）の導入・活用
4. SNSやウェブサイトを活用したデジタルマーケティング
5. AIチャットボット等による問い合わせ対応の自動化
6. 館内・施設内でのデジタルサイネージ活用
7. VR・AR技術を活用した新しい観光体験の提供
8. データ分析に基づいた経営判断・サービス改善



Q 2 1. 観光産業に関する行政の支援・役割について、どのようなことを特に望みますか（最大3つまで選択してください）。

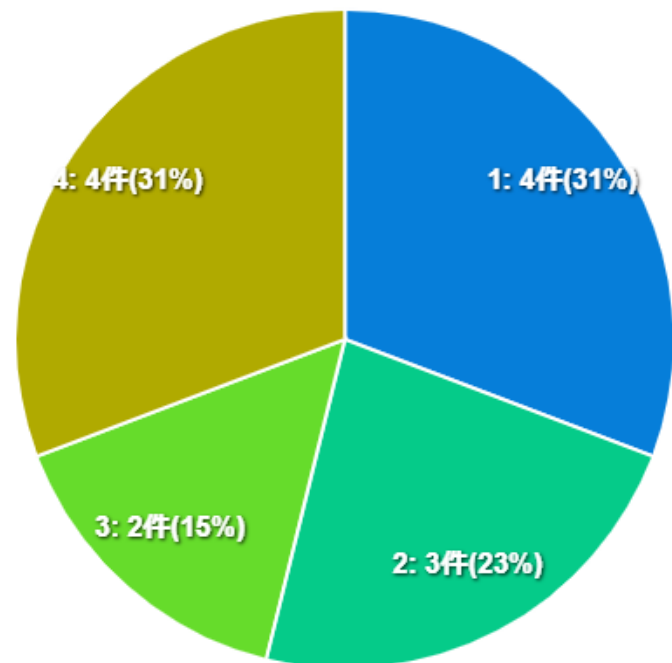


【その他】

- ・これからの世の中は、社会インフラを維持するのに精一杯で観光への行政支援は全く期待できない。自分たちでできることを各地域で始めること、それが全体調和して新しい観光が創られるかもしれない。
- ・広域連携。
- ・企画段階における積極的なヒアリングと企画と実働の擦り合わせ。

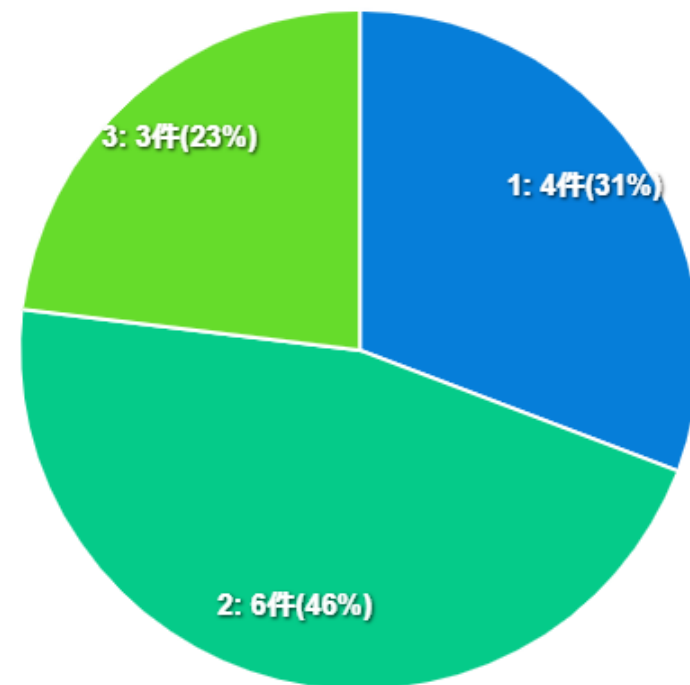
※Q22～26：旅館・ホテル業事業者のみ回答

Q22. 従業員規模（パート・アルバイトを含む）



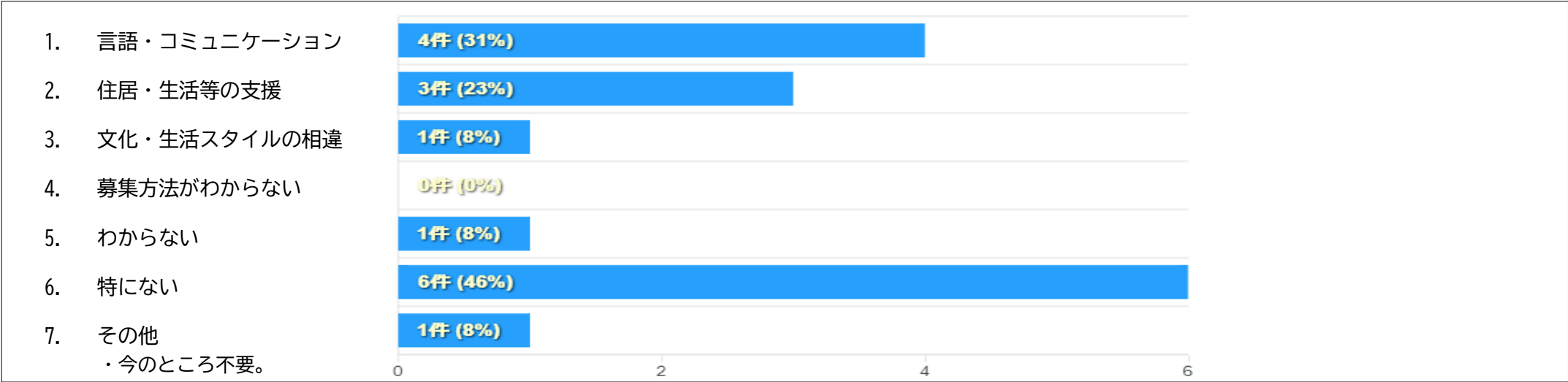
- 1. 9人以下
- 2. 10～19人
- 3. 20～29人
- 4. 30人以上

Q23. 外国人の雇用について

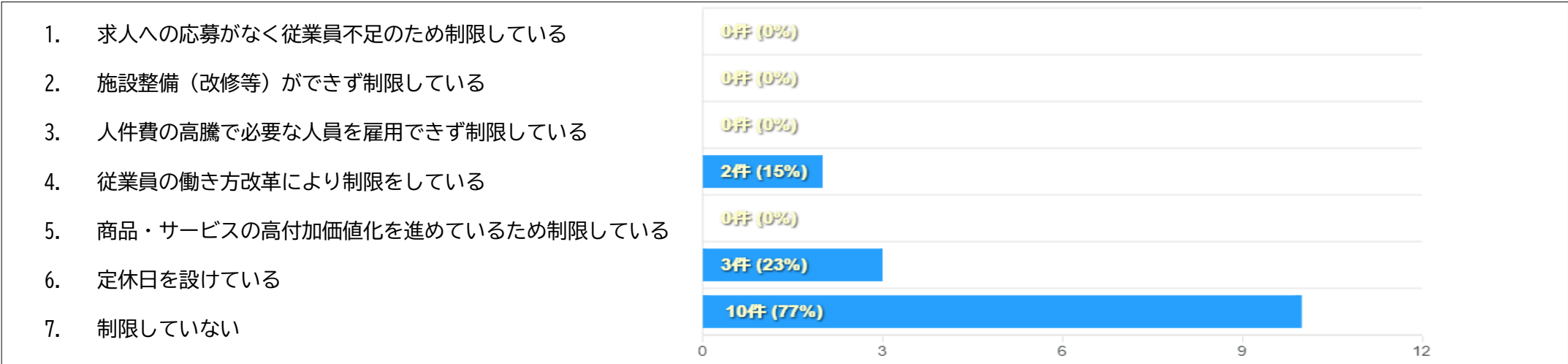


- 1. 雇用している
- 2. 雇用していない（受け入れ可）
- 3. 雇用できない（受け入れ不可）

Q 2 4. 外国人の雇用にあたっての課題について（あてはまるものをすべて選択してください）。

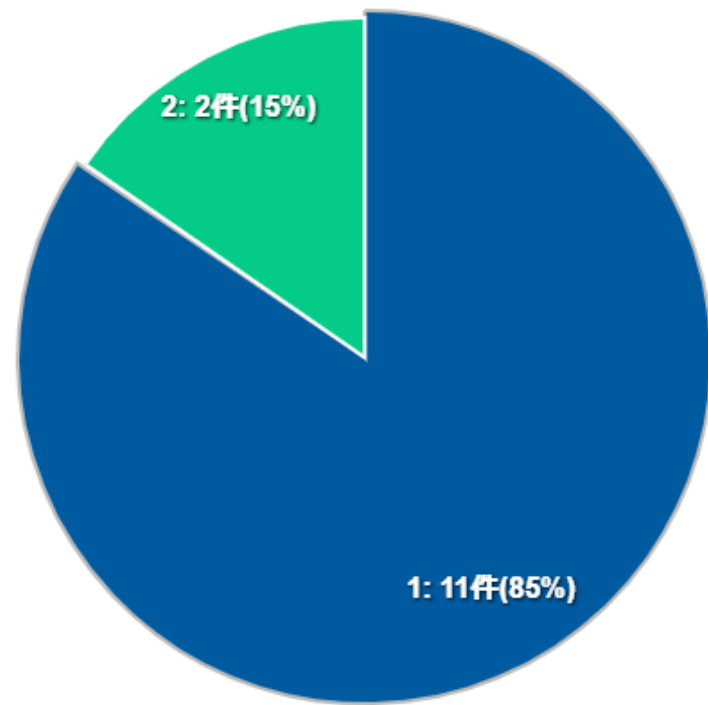


Q 2 5. 貴施設の営業日や部屋数を制限していますか（あてはまるものをすべて選択してください）※令和7年6月現在
例）従業員が不足し、部屋の稼働率を抑えている場合など
※選択肢以外の理由で営業日等制限している場合は、「その他」を選択し具体的な理由を記入ください。



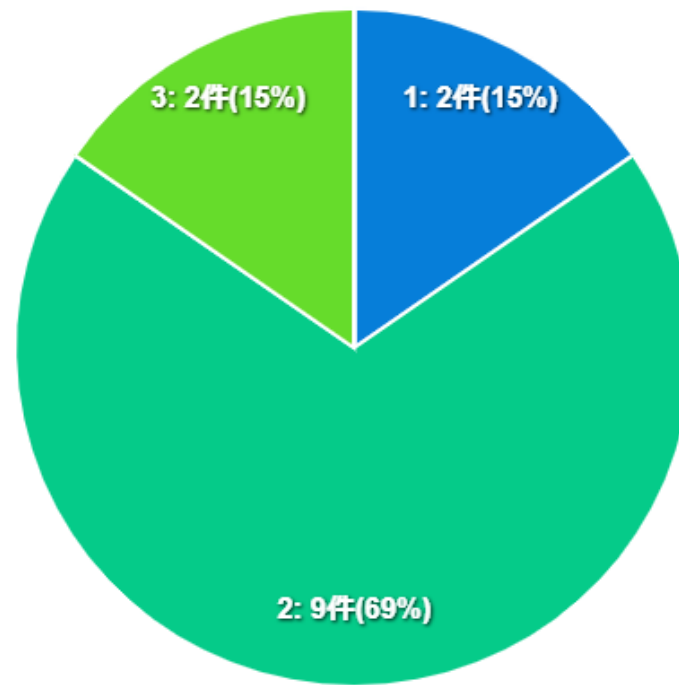
Q 2 6. 宿泊の予約手段とその内訳について

(1) 旅行会社経由



- 1. 〇 (取り入れている)
- 2. × (取り入れていない)

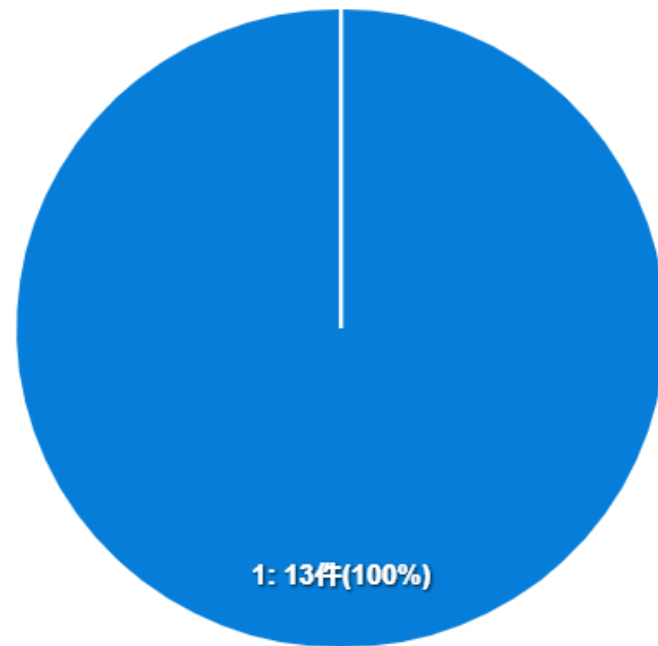
予約全体に占める割合



- 1. 0% (xの場合も選択)
- 2. 20%未満 (少ない)
- 3. 20%～39% (比較的少ない)
- 4. 40%～59% (半分程度)
- 5. 60%～79% (比較的多い)
- 6. 80%以上 (多い)
- 7. 100%
- 8. わからない

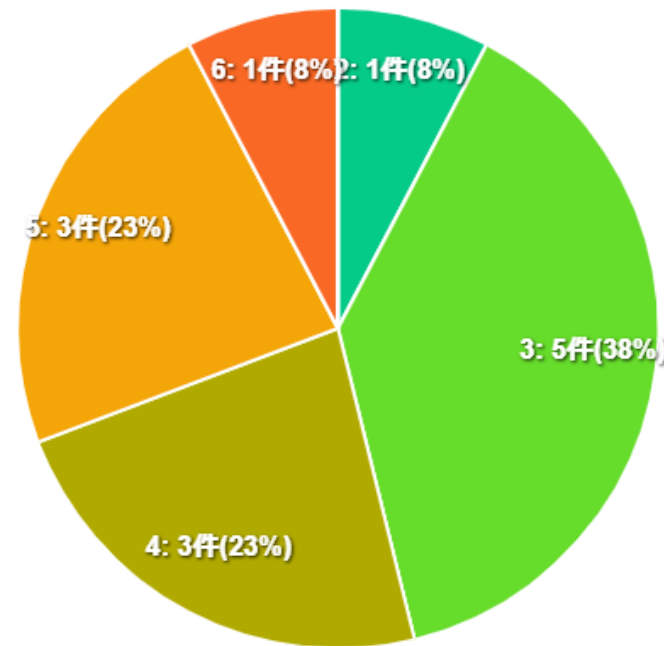
Q26. 宿泊の予約手段とその内訳について

(2) 国内OTA



- 1. ○ (取り入れている)
- 2. × (取り入れていない)

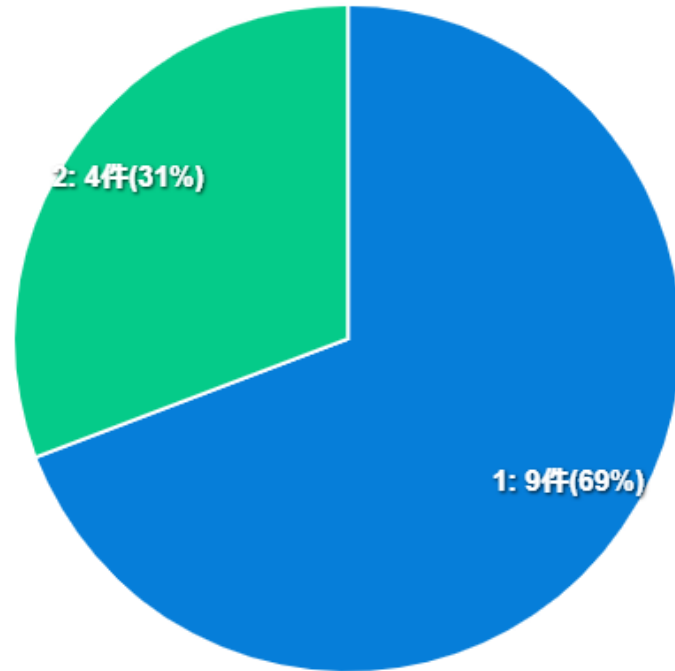
予約全体に占める割合



- 1. 0% (xの場合も選択)
- 2. 20%未満 (少ない)
- 3. 20~39% (比較的少ない)
- 4. 40~59% (半分程度)
- 5. 60~79% (比較的多い)
- 6. 80%以上 (多い)
- 7. 100%
- 8. わからない

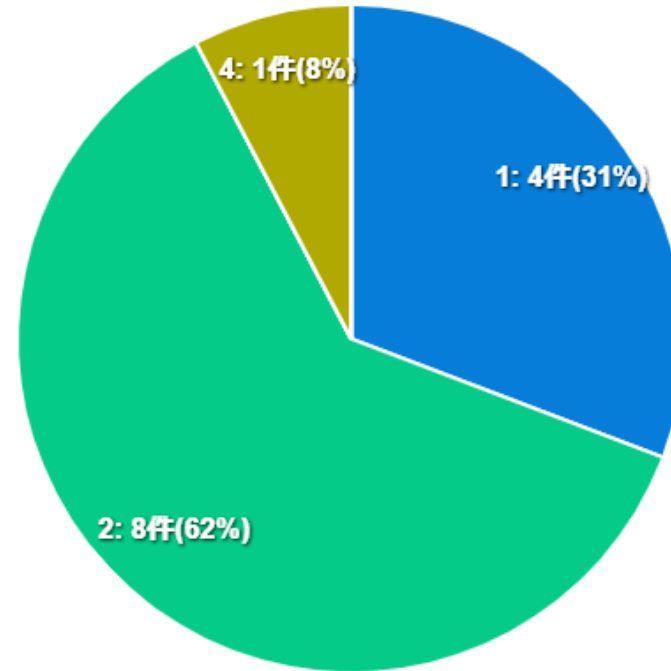
Q 2 6. 宿泊の予約手段とその内訳について

(3) 海外OTA



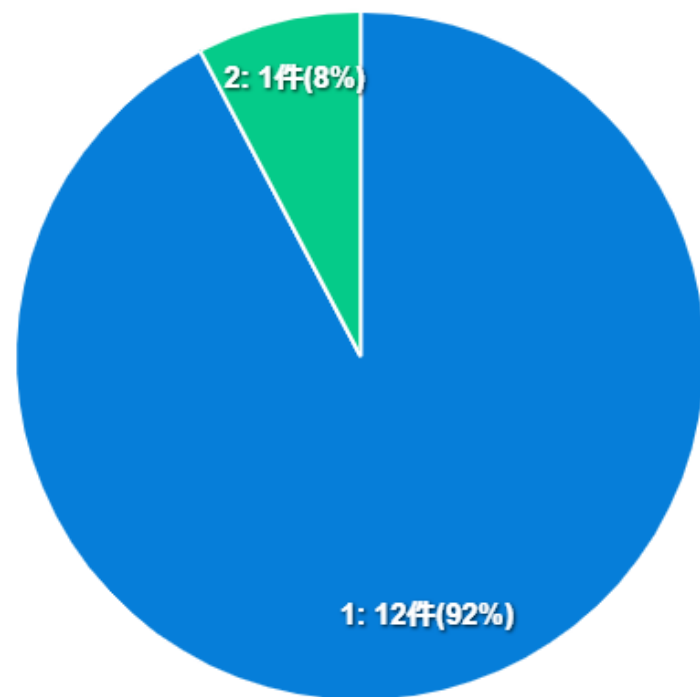
- 1. ○ (取り入れている)
- 2. × (取り入れていない)

予約全体に占める割合



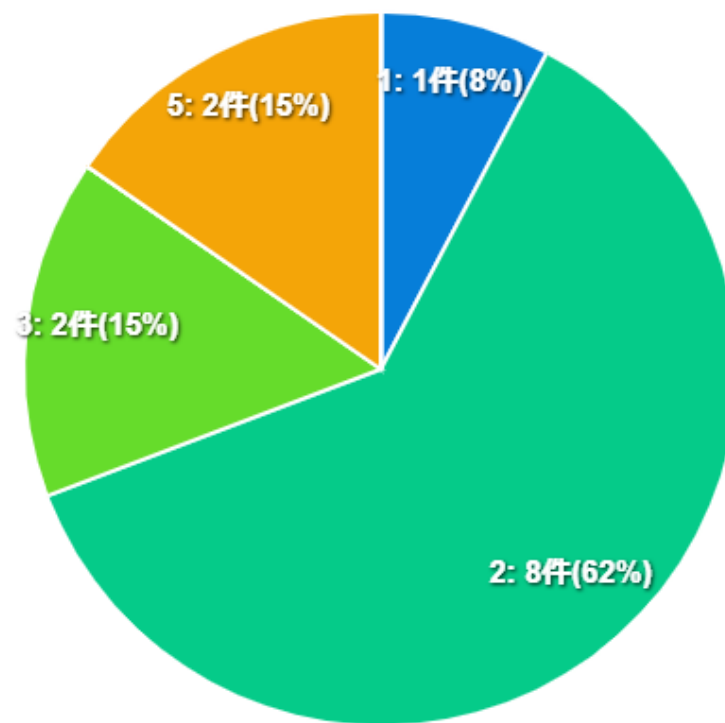
- 1. 0% (×の場合も選択)
- 2. 20%未満 (少ない)
- 3. 20~39% (比較的少ない)
- 4. 40~59% (半分程度)
- 5. 60~79% (比較的多い)
- 6. 80%以上 (多い)
- 7. 100%
- 8. わからない

Q 2 6. 宿泊の予約手段とその内訳について
(4) 自社WEBシステム



- 1. ○ (取り入れている)
- 2. × (取り入れていない)

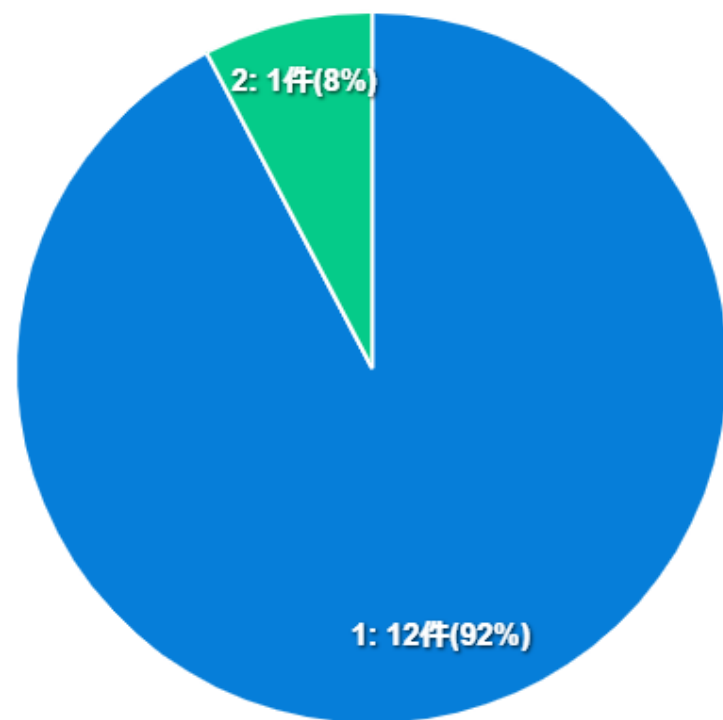
予約全体に占める割合



- 1. 0% (xの場合も選択)
- 2. 20%未満 (少ない)
- 3. 20~39% (比較的少ない)
- 4. 40~59% (半分程度)
- 5. 60~79% (比較的多い)
- 6. 80%以上 (多い)
- 7. 100%
- 8. わからない

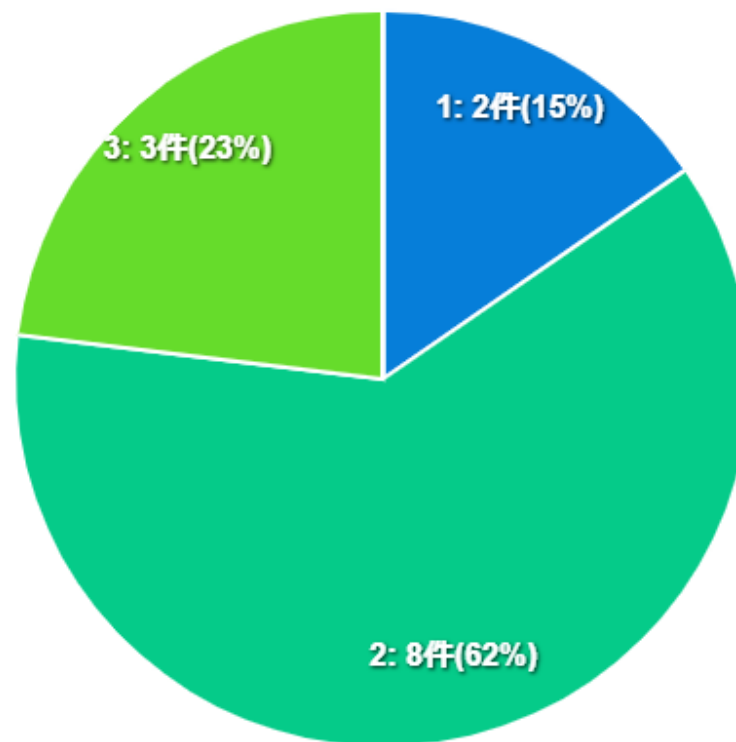
Q26. 宿泊の予約手段とその内訳について

(5) 電話予約



- 1. ○ (取り入れている)
- 2. × (取り入れていない)

予約全体に占める割合



- 1. 0% (xの場合も選択)
- 2. 20%未満 (少ない)
- 3. 20~39% (比較的少ない)
- 4. 40~59% (半分程度)
- 5. 60~79% (比較的多い)
- 6. 80%以上 (多い)
- 7. 100%
- 8. わからない

Q 2 7.福島市の観光振興・観光産業に対するご意見・要望のほか、貴施設・事業所の課題などについても自由に記入ください。

- ・首都圏からも地理的に微妙な場所にあり、本当にインバウンドの受け入れが必要なのか疑問に感じる。インバウンドを呼び込むために経営資源を割くなら、国内の観光客に絞るのもまた一つの手だと思う。
- ・果物がうまい、温泉であったまるなどの差別化できないPRでなく、人の心をわしづかみする「物語」を観光客は求めている。
- ・わらじ祭りや山車フェスティバルへの外国人参加を促す戦略を練るべき。浴衣や法被を貸し出して直接、参加してもらうなど。
- ・福島市はいまだに縦割り行政で横の連携が取れていないため、大きなイベント同士がぶつかることが多い。担当が違うとイベントについて開催自体も把握していないことが多く、観光業に携わるものとしては頼りがいがない印象が強い。
- ・福島市においては、自助・公助・共助の分別があやふやになっている。
- ・観光の戦略策定においては、まず最優先で「自治体／DMO／協会など、公的な団体と、個別の事業者との役割分担」を明確にする必要がある。
- ・福島市に関して観光資源がなく温泉街以外に観光客が来ることはほぼ無いのが現状、福島市に関しては旅行の中間地点での宿泊などが多く福島市に観光を求めて来る旅行者が少ないことが問題（花見・競馬時期は除く）。
- ・福島にはメインとなるコンテンツが薄い。歴史や文化、史跡なども強くかつ一貫性のあるコンテンツが少ないと感じている。
- ・強いランドマーク的なコンテンツはないものの、興味をそそる、気になるものは多くあるものと感じている。
- ・『ノスタルジックふくしま』『車がなくても遊べるふくしま』『ホッとするふくしま』などをテーマにつなぎ合わせた提案型の観光商品を作ることが今の福島観光政策にあっていてるものと感じている。

【概要版】

新しい福島市総合計画の策定に向けた
「市民アンケート調査」結果報告書

2024年11月

福島市

目次

I. 調査の概要	3
II. アンケート調査結果	4
1回答者の属性について	5
(1)性別	5
(2)年齢	5
(3)居住地区	6
(4)居住年数	7
(5)居住するきっかけ	8
(6)家族構成	9
(7)お勤め状況	10
(8)職業	11
2就職について	12
(1)将来就きたいと思う職業(学生)	12
(2)将来就職希望地(学生)	13
(3)就職希望地理由(学生)	14
3まちづくりについて	15
(1)福島市の魅力	15
(2)福島市の不足	16
(3)福島市優先すべきこと	17
(4)福島市の目指すまち	18
(5)市民と行政の関係	20
(6)行政サービスと負担の関係	21
4結婚・子育てについて	22
(1)結婚状況	22
(2)結婚希望	23
(3)結婚条件	24
(4)子どもの有無	25
(5)子どもの希望人数	26
(6)子どもを持つうえで重視すること	27
5自由意見	29
(1)福島市の誇り・自慢	29
(2)市政に関する意見	31

I. 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、新しい福島市総合計画(第7次福島市総合計画)の策定にあたり、本市がこれまで行ってきた施策に対する市民のニーズや意見等を明確に把握し、本市が目指すべき将来の姿やまちづくりの方向性等を検討するうえでの基礎資料とします。

2. 調査設計

- A) 調査対象地域 福島市全域
- B) 調査対象 市内全域より抽出した3,000人を対象
- C) 調査数 3,000人
- D) 調査方法 郵送による配布・郵送およびインターネットによる回収
- E) 調査期間 2024年7月16日(火)～2024年8月6日(火)
- F) 回収結果 回収数(人):1,595
回収率:53.2%
有効回収数(人):1,550
有効回収率:51.7%

※一般的に用いられる標本調査の信頼水準、標本誤差の条件に照らした場合に、母集団に対して妥当な標本データ数となっています。

3. 報告書の見方

- A) 図表の中の n は、構成比を表す際の母数を示し、設問の内容によって母数は変わります。
- B) 各設問の構成比(%)は百分率で表し、小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表記しています。そのため、合計が100.0%にならない場合があります。
- C) 複数回答をお願いしている設問は、全体(回答者数)を100.0%として選択肢ごとの回答件数の割合を示しています。そのため、各先選択肢の構成比(%)の合計は100.0%になりません。
- D) 集計結果の「不明」の件数は、お願いした回答を記入していなかった件数及び、回答数の上限を超えて回答していた件数の合計値です。
- E) クロス集計の図表については、表側(縦軸)となる設問に「不明」がある場合、これを表示していません。ただし、全体の件数には含めているため、各分析項目の件数の合計が全体と一致しないことがあります。
- F) クロス集計の結果については、有意検定による統計的な有意差を確認したものではありませんが、参考として記載しています。

Ⅱ. アンケート調査結果

1

回答者の属性について

(1)性別

問. あなたの性別を教えてください。

- 回答者の全体は1,550人で、「男性」が655人、「女性」が870人、「回答しない」が19人になります。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
男性	655	42.3
女性	870	56.1
回答しない	19	1.2
不明	6	0.4

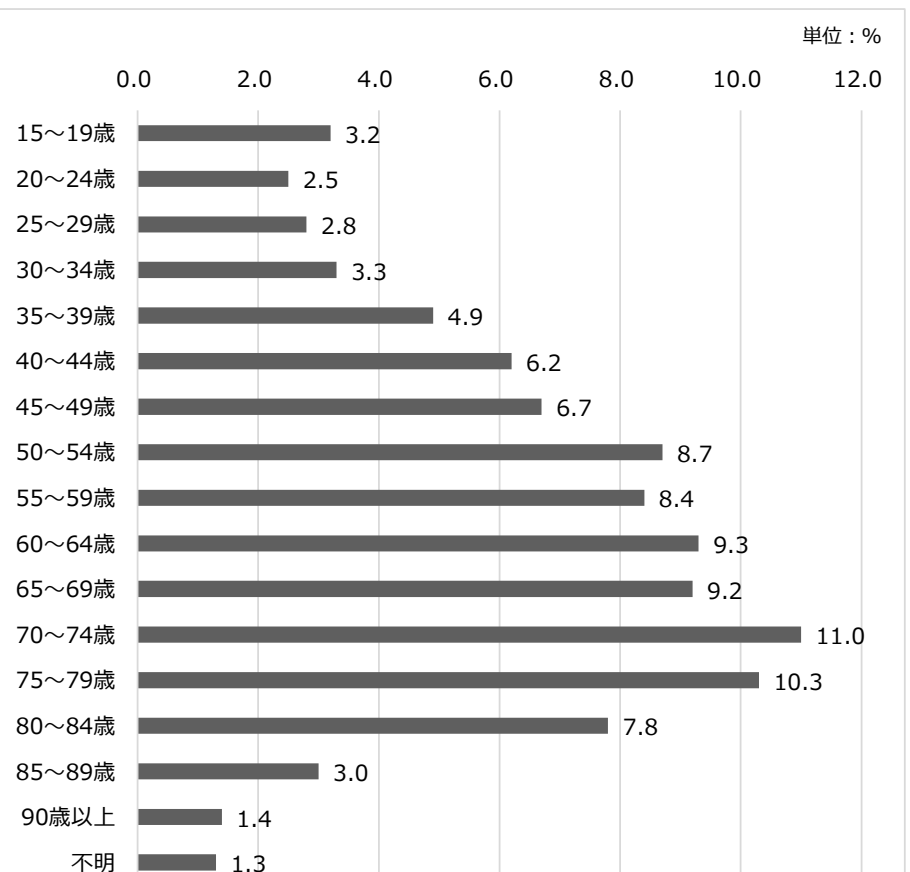
(2)年齢

問. あなたの年齢は、何歳ですか。

- 年代別に見ると、「70代以上」が33.5%と最も多く、次いで「60代」が18.5%、「50代」が17.1%などとなっており、50代以上が全体の7割近くに上っています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
15～19歳	49	3.2
20～24歳	39	2.5
25～29歳	43	2.8
30～34歳	51	3.3
35～39歳	76	4.9
40～44歳	96	6.2
45～49歳	104	6.7
50～54歳	135	8.7
55～59歳	130	8.4
60～64歳	144	9.3
65～69歳	143	9.2
70～74歳	170	11.0
75～79歳	160	10.3
80～84歳	121	7.8
85～89歳	47	3.0
90歳以上	22	1.4
不明	20	1.3



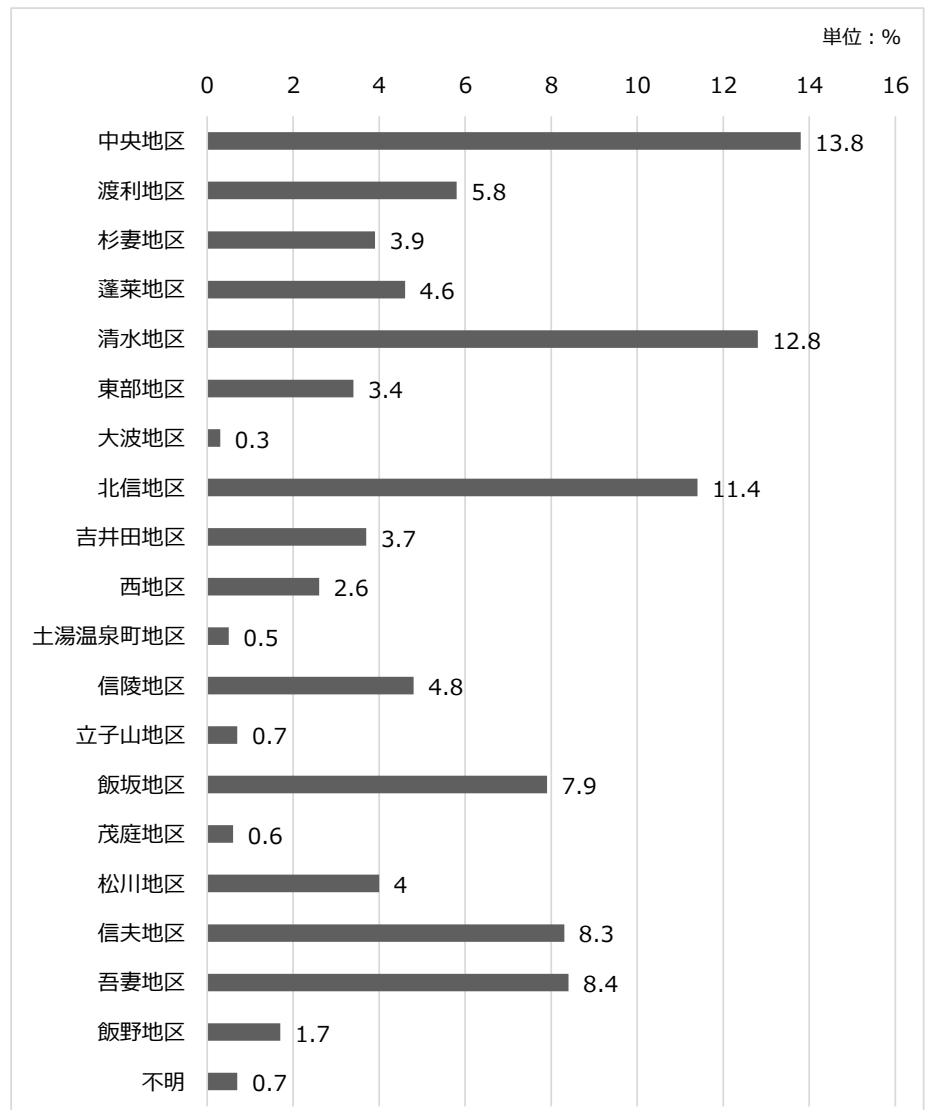
(3)居住地区

問. あなたのお住まいの地区は、どちらですか。

- 回答者の居住地区をみると、「中央地区」が214人で最も多く、次いで「清水地区」が198人、北信地区」が177人となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
中央地区	214	13.8
渡利地区	90	5.8
杉妻地区	60	3.9
蓬萊地区	71	4.6
清水地区	198	12.8
東部地区	53	3.4
大波地区	4	0.3
北信地区	177	11.4
吉井田地区	58	3.7
西地区	40	2.6
土湯温泉町地区	8	0.5
信陵地区	75	4.8
立子山地区	11	0.7
飯坂地区	122	7.9
茂庭地区	10	0.6
松川地区	62	4.0
信夫地区	129	8.3
吾妻地区	130	8.4
飯野地区	27	1.7
不明	11	0.7



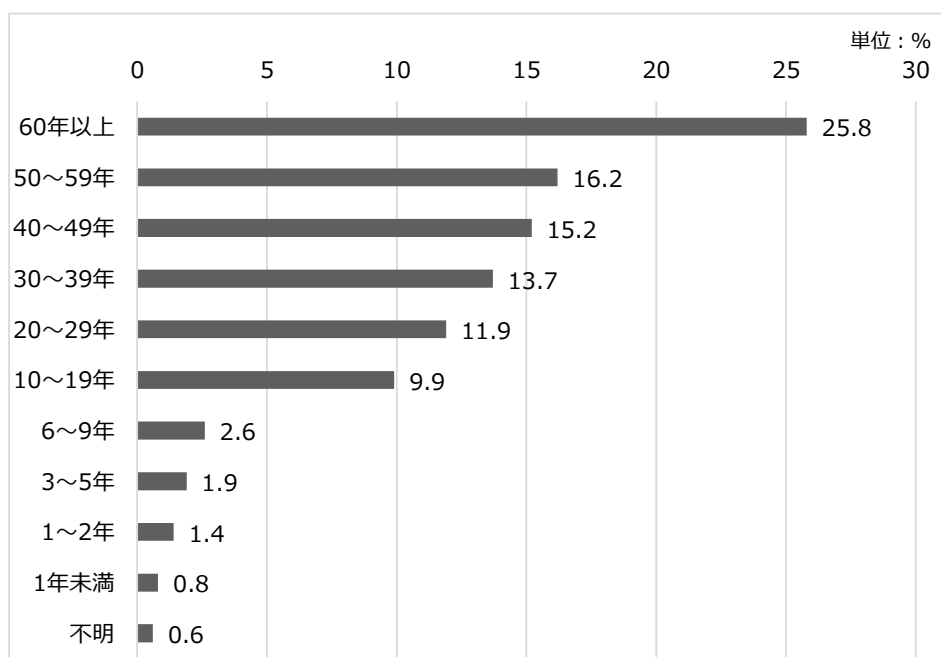
(4)居住年数

問. あなたは福島市に通算して何年住んでいますか。

- 回答者の居住年数は、「60年以上」が400人と最も多く、次いで「50年～59年」251人、「40～49年」236人の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
60年以上	400	25.8
50～59年	251	16.2
40～49年	236	15.2
30～39年	213	13.7
20～29年	185	11.9
10～19年	153	9.9
6～9年	40	2.6
3～5年	30	1.9
1～2年	21	1.4
1年未満	12	0.8
不明	9	0.6



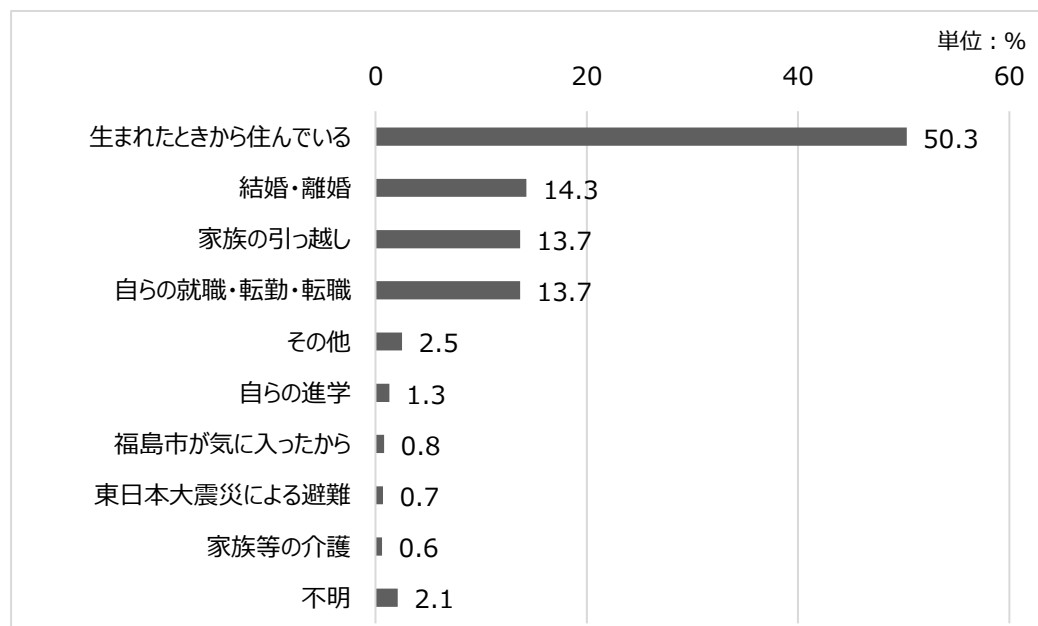
(5)居住するきっかけ

問. あなたが福島市に居住することになったきっかけは何ですか。

- 居住するきっかけを全体でみると、「生まれたときから住んでいる」が50.3%で最も多く、次いで「結婚・離婚」14.3%、「家族の引っ越し」「自らの就職・転勤・転職」13.7%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
生まれたときから住んでいる	779	50.3
結婚・離婚	221	14.3
家族の引っ越し	213	13.7
自らの就職・転勤・転職	212	13.7
その他	38	2.5
自らの進学	20	1.3
福島市が気に入ったから	13	0.8
東日本大震災による避難	11	0.7
家族等の介護	10	0.6
不明	33	2.1



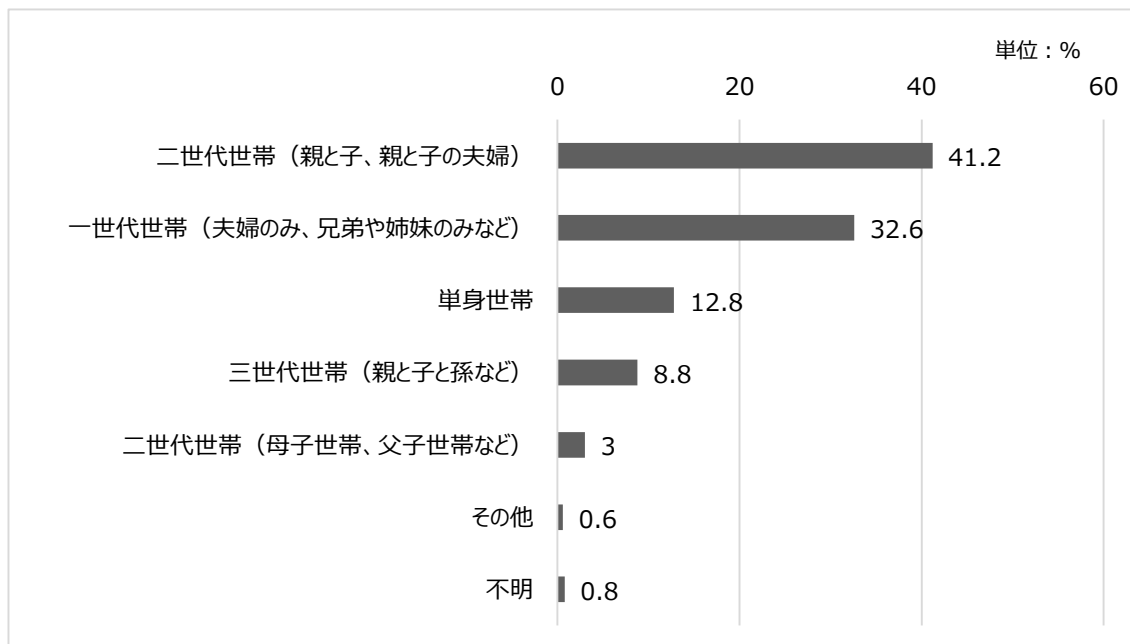
(6) 家族構成

問. あなたの家族構成は、次のどれですか。

- 家族構成を全体でみると、「二世世代世帯(親と子、親と子の夫婦)」が4割、「一世世代世帯(夫婦のみ、兄弟や姉妹のみなど)」が3割になっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
二世世代世帯（親と子、親と子の夫婦）	639	41.2
一世世代世帯（夫婦のみ、兄弟や姉妹のみなど）	506	32.6
単身世帯	199	12.8
三世世代世帯（親と子と孫など）	137	8.8
二世世代世帯（母子世帯、父子世帯など）	47	3.0
その他	10	0.6
不明	12	0.8



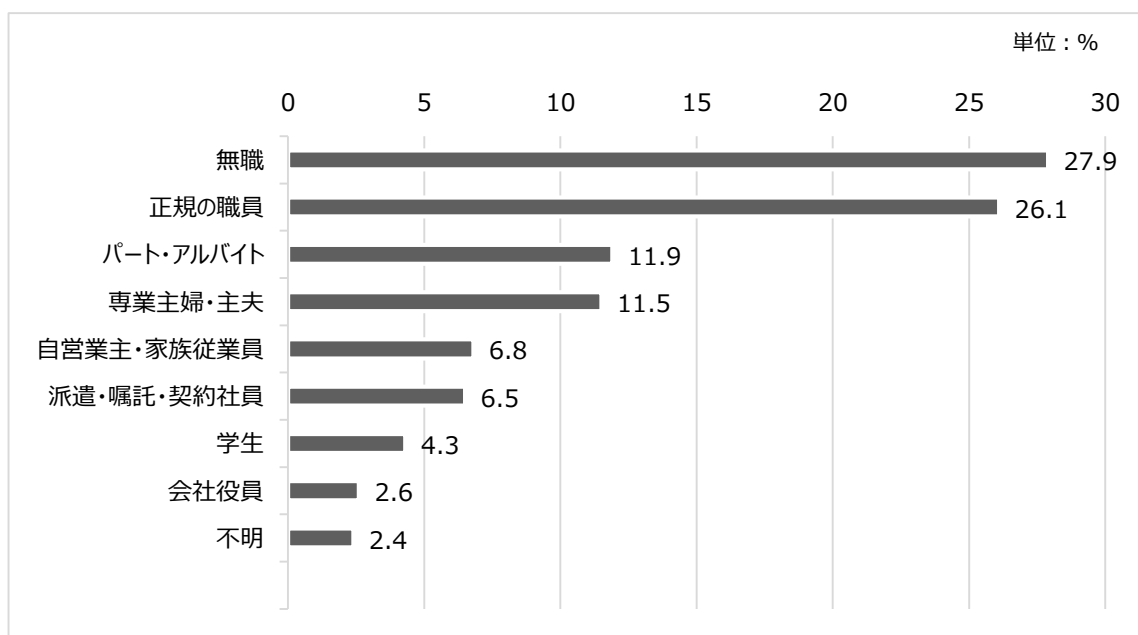
(7)お勤め状況

問. あなたの主なお勤め状況は、何ですか。

- 全体のお勤め状況は、「無職」が27.9%、「正規の職員」26.1%となっています。何らかの形態で働いている方は53.9%となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
無職	432	27.9
正規の職員	404	26.1
パート・アルバイト	185	11.9
専業主婦・主夫	179	11.5
自営業主・家族従業員	105	6.8
派遣・嘱託・契約社員	100	6.5
学生	66	4.3
会社役員	41	2.6
不明	38	2.4



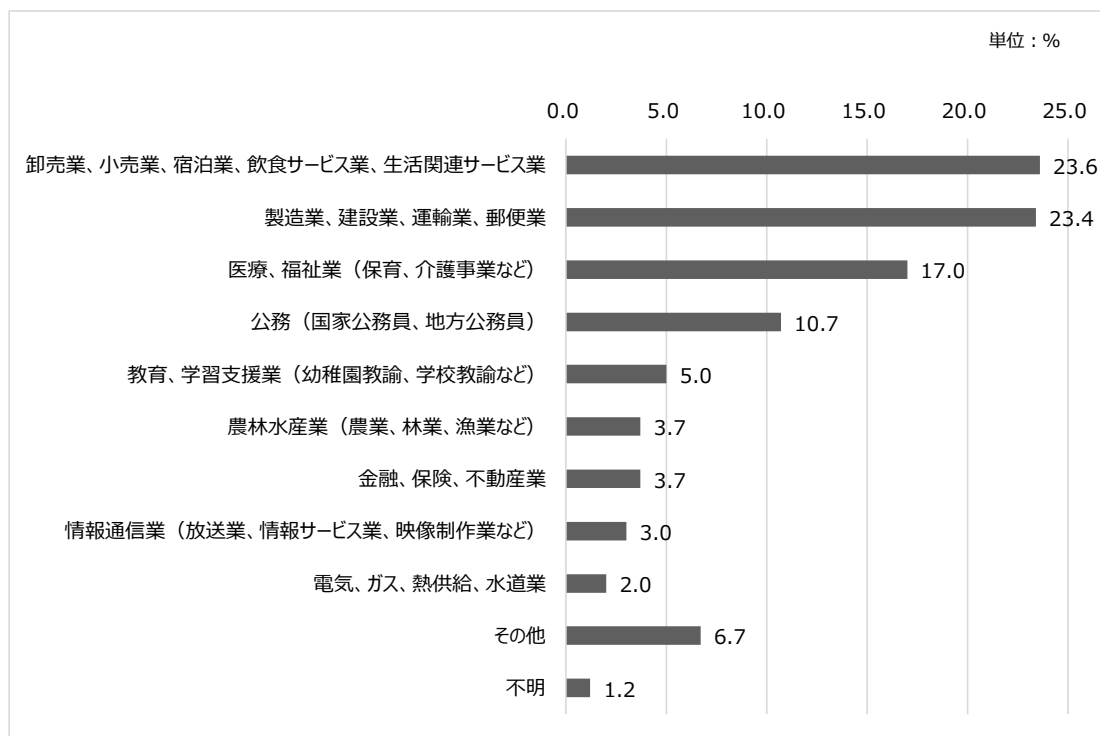
(8)職業

問. あなたのご職業は何ですか。兼業の方は、主な職業のみお答えください。
【 1-(7)お勤め状況で、「正規の職員」、「派遣・嘱託・契約社員」、「パート・アルバイト」、「自営業主・家族従業員」、「会社役員」と回答した方に対する設問 】

- 職業を全体でみると、「卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業」が23.6%と最も多く、次いで「製造業、建設業、運輸業、郵便業」が23.4%、「医療、福祉業（保育、介護事業など）」17.0%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	835	100.0
卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業	197	23.6
製造業、建設業、運輸業、郵便業	195	23.4
医療、福祉業（保育、介護事業など）	142	17.0
公務（国家公務員、地方公務員）	89	10.7
教育、学習支援業（幼稚園教諭、学校教諭など）	42	5.0
農林水産業（農業、林業、漁業など）	31	3.7
金融、保険、不動産業	31	3.7
情報通信業（放送業、情報サービス業、映像制作業など）	25	3.0
電気、ガス、熱供給、水道業	17	2.0
その他	56	6.7
不明	10	1.2



2

就職について

(1)将来就きたいと思う職業(学生)

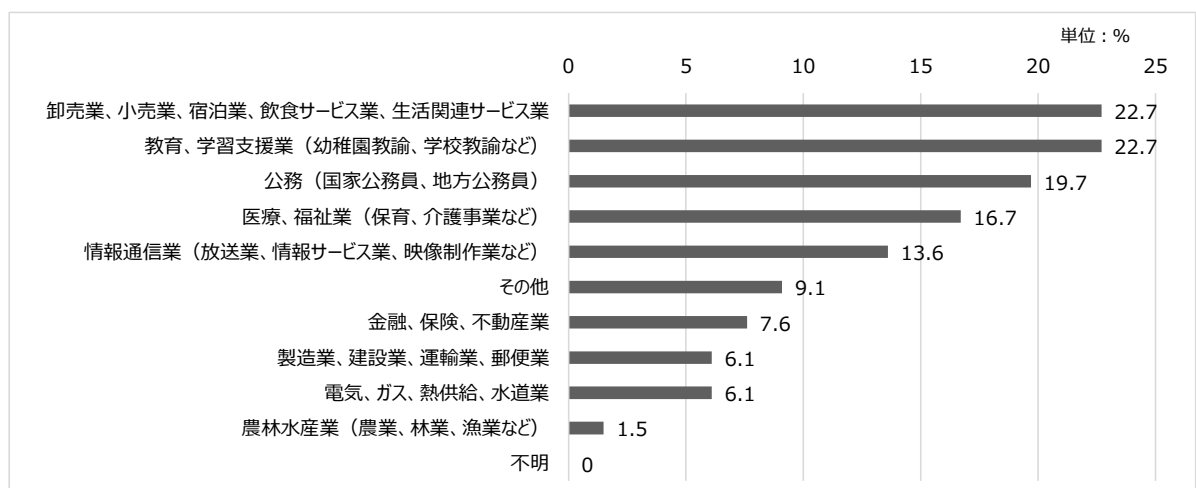
問. あなたが将来就きたいと思う職業は、どれですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

【 1-(7)主なお勤め状況で、「学生」と回答した方に対する設問 】

- 学生が将来就きたいと思う職業は、全体で「卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業」と「教育、学習支援業」が22.7%で最も多く、次いで「公務(国家公務員、地方公務員)」19.7%、「医療、福祉業(保育、介護事業)」16.7%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	66	100
卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業	15	22.7
教育、学習支援業（幼稚園教諭、学校教諭など）	15	22.7
公務（国家公務員、地方公務員）	13	19.7
医療、福祉業（保育、介護事業など）	11	16.7
情報通信業（放送業、情報サービス業、映像制作業など）	9	13.6
金融、保険、不動産業	5	7.6
製造業、建設業、運輸業、郵便業	4	6.1
電気、ガス、熱供給、水道業	4	6.1
農林水産業（農業、林業、漁業など）	1	1.5
その他	6	9.1
不明	0	0



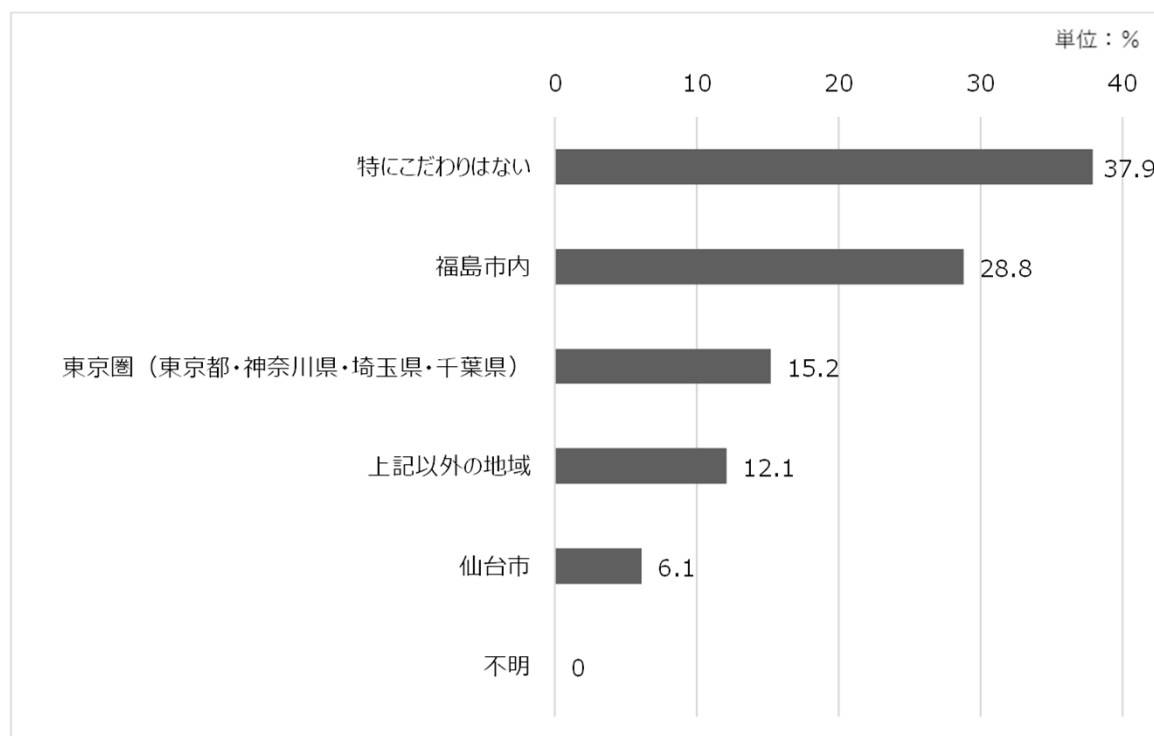
(2)将来就職希望地(学生)

問. あなたが将来どの地域での就職を希望しますか。
【 1-(7)主なお勤め状況で、「学生」と回答した方に対する設問 】

- 学生の将来就職希望地を全体でみると、「特にこだわりはない」が37.9%で最も多く、次いで「福島市内」28.8%、「東京圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)」15.2%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	66	100.0
特にこだわりはない	25	37.9
福島市内	19	28.8
東京圏（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）	10	15.2
上記以外の地域	8	12.1
仙台市	4	6.1
不明	0	0.0



(3)就職希望地理理由(学生)

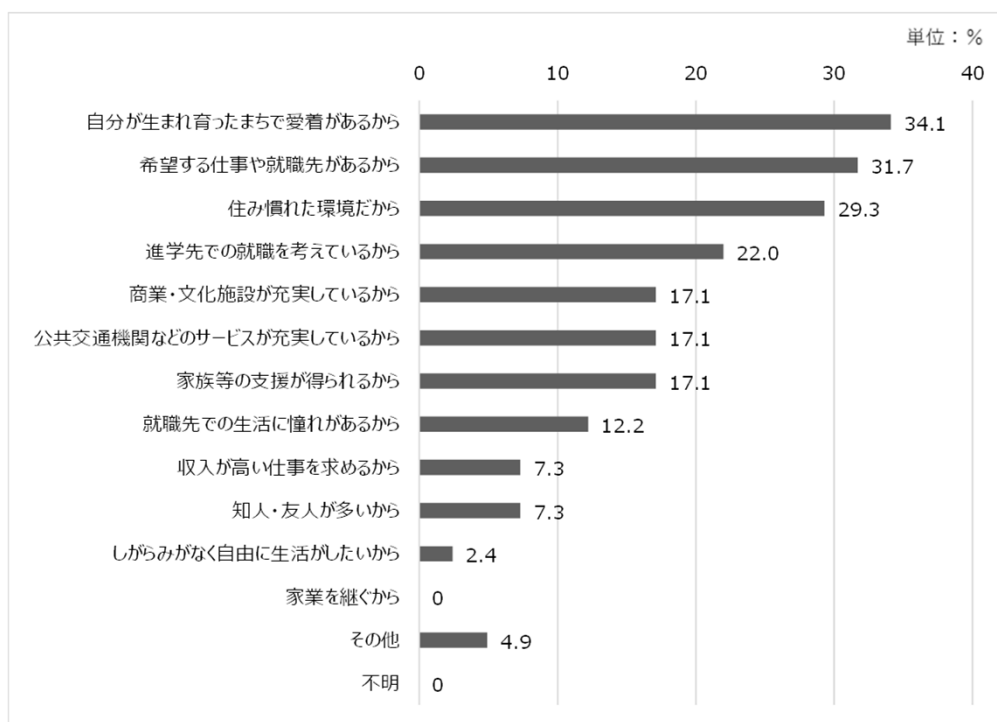
問. あなたがその地域で就職を希望する理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

【 2-(2)将来就職希望地で、「福島市内」、東京圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)、「仙台市」、「上記以外の地域」と回答した方に対する設問 】

- 就職希望地の理由を全体でみると、「自分が生まれ育ったまちで愛着があるから」が34.1%で最も多く、次いで「希望する仕事や就職先があるから」31.7%、「住み慣れた環境だから」29.3%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	41	100.0
自分が生まれ育ったまちで愛着があるから	14	34.1
希望する仕事や就職先があるから	13	31.7
住み慣れた環境だから	12	29.3
進学先での就職を考えているから	9	22.0
商業・文化施設が充実しているから	7	17.1
公共交通機関などのサービスが充実しているから	7	17.1
家族等の支援が得られるから	7	17.1
就職先での生活に憧れがあるから	5	12.2
収入が高い仕事を求めるから	3	7.3
知人・友人が多いから	3	7.3
しがらみがなく自由に生活がしたいから	1	2.4
家業を継ぐから	0	0.0
その他	2	4.9
不明	0	0.0



3

まちづくりについて

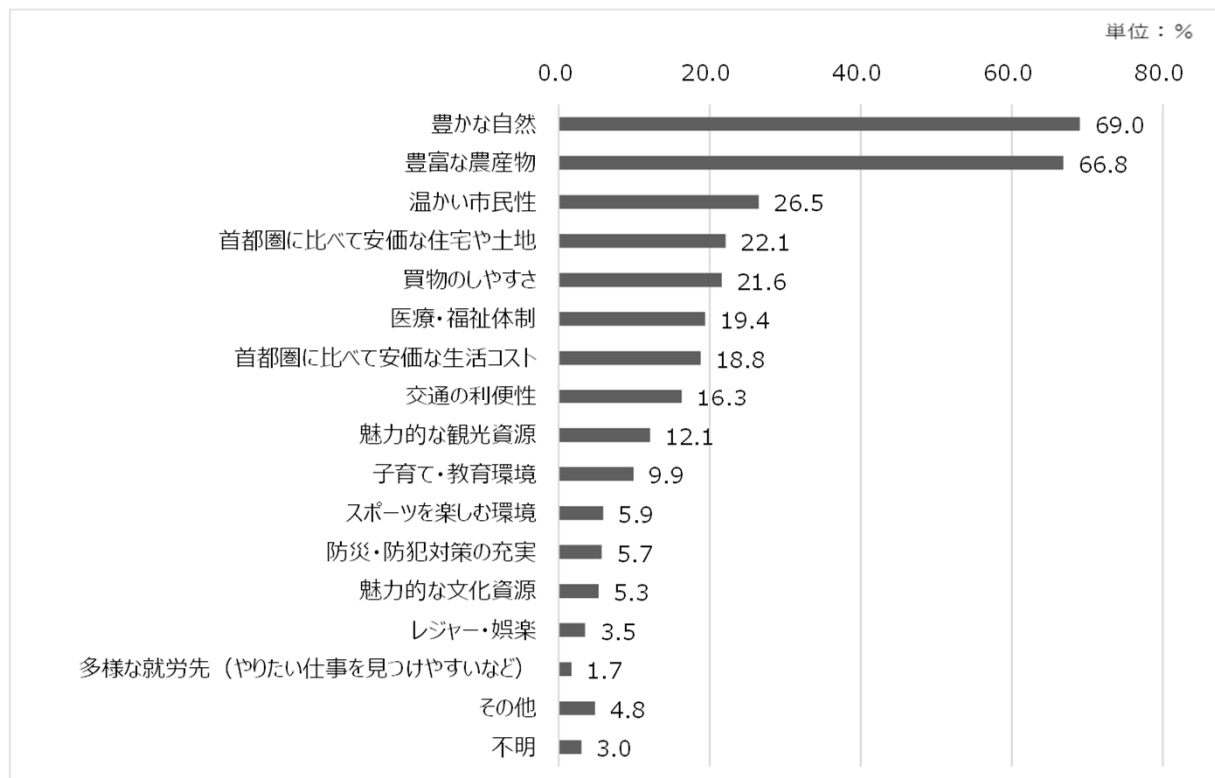
(1)福島市の魅力

問. あなたは、福島市で暮らしていて、どのような点に”魅力“を感じますか。
あてはまるもの5つまで○をつけてください。

- 福島市の魅力は全体では、「豊かな自然」が69.0%で最も多く、次いで「豊富な農産物」66.8%、「温かい市民性」26.5%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
豊かな自然	1,070	69.0
豊富な農産物	1,035	66.8
温かい市民性	411	26.5
首都圏に比べて安価な住宅や土地	343	22.1
買物のしやすさ	335	21.6
医療・福祉体制	301	19.4
首都圏に比べて安価な生活コスト	292	18.8
交通の利便性	252	16.3
魅力的な観光資源	188	12.1
子育て・教育環境	154	9.9
スポーツを楽しむ環境	92	5.9
防災・防犯対策の充実	89	5.7
魅力的な文化資源	82	5.3
レジャー・娯楽	55	3.5
多様な就労先（やりたい仕事を見つけやすいなど）	26	1.7
その他	75	4.8
不明	46	3.0



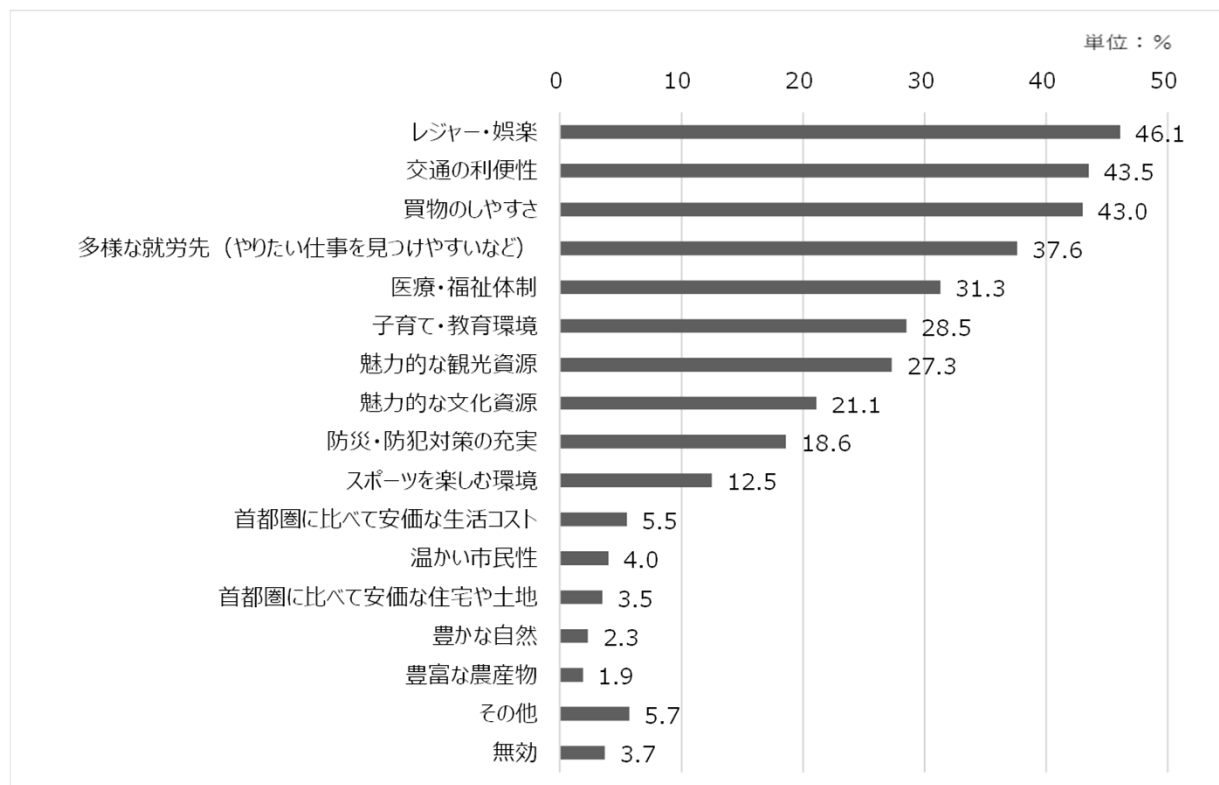
(2)福島市の不足

問. あなたは、福島市で暮らしていて、どのような点が”不足“と感じますか。
あてはまるもの5つまで○をつけてください。

- 福島市で不足していると感じる点は、全体では「レジャー・娯楽」、「交通の利便性」、「買物のしやすさ」が4割を超えています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
レジャー・娯楽	714	46.1
交通の利便性	675	43.5
買物のしやすさ	666	43.0
多様な就労先（やりたい仕事を見つけやすいなど）	583	37.6
医療・福祉体制	485	31.3
子育て・教育環境	441	28.5
魅力的な観光資源	423	27.3
魅力的な文化資源	327	21.1
防災・防犯対策の充実	289	18.6
スポーツを楽しむ環境	194	12.5
首都圏に比べて安価な生活コスト	85	5.5
温かい市民性	62	4.0
首都圏に比べて安価な住宅や土地	55	3.5
豊かな自然	36	2.3
豊富な農産物	29	1.9
その他	89	5.7
不明	57	3.7



(3)福島市優先すべきこと

問. 福島市が主に推進している次の取り組みの中から、あなたが特に優先すべきと思うものを順に5つ選び、番号を記入してください。

福島市が主に推進している取り組みの中から、特に優先すべきと回答した項目に、1点から5点までの得点をつけ、優先度を算出し指数化しました。

①選択肢の指数の基数

優先度	5点	4点	3点	2点	1点
指数	1位	2位	3位	4位	5位

* 優先度算出例(子育て支援の充実)

【1位(271件×5点)+2位(140件×4点)+3位(109件×3点)+4位(68件×2点)+5位(63件×1点)】
÷1,550件(回答総数)=1.575

- 福島市の優先すべきことを全体でみると、1位が「中心市街地の魅力と回遊性の向上」で、2位が「健康・医療・福祉の推進」、3位「子育て支援の充実」の順となっています。

	項目	回答総数	5点	4点	3点	2点	1点	優先度
			1位	2位	3位	4位	5位	
1	子育て支援の充実	1,550	271	140	109	68	63	1.575
2	教育と学びの環境の充実	1,550	94	180	123	97	69	1.175
3	放射線対策と風評払拭の推進	1,550	80	68	40	59	62	0.627
4	災害対策の強化	1,550	78	120	110	108	98	0.977
5	健康・医療・福祉の推進	1,550	230	197	175	142	100	1.837
6	文化・芸術の振興	1,550	14	46	45	50	52	0.349
7	地球温暖化やごみの減量などの環境対策の推進	1,550	92	98	127	107	114	1.007
8	農業や林業の振興	1,550	22	57	75	83	47	0.501
9	商業や工業の振興	1,550	74	105	103	93	54	0.864
10	中心市街地の魅力と回遊性の向上	1,550	376	181	153	127	111	2.212
11	観光の振興	1,550	24	62	88	95	92	0.590
12	スポーツの振興	1,550	6	12	28	31	27	0.162
13	移住・定住の促進	1,550	17	34	55	64	94	0.392
14	性別や年齢、国籍等に関わらず活躍できるまちづくり	1,550	11	31	32	48	50	0.272
15	市民と行政が一体となったまちづくり	1,550	35	56	93	100	118	0.643
16	都市ブランド力の向上と情報発信の強化	1,550	24	54	62	84	98	0.508
17	デジタル化の推進	1,550	11	20	18	30	45	0.190
18	効率的な行財政経営の推進	1,550	29	20	33	67	145	0.389
	全体平均	27,900	1,488	1,481	1,469	1,453	1,439	0.793

(4)福島市の目指すまち

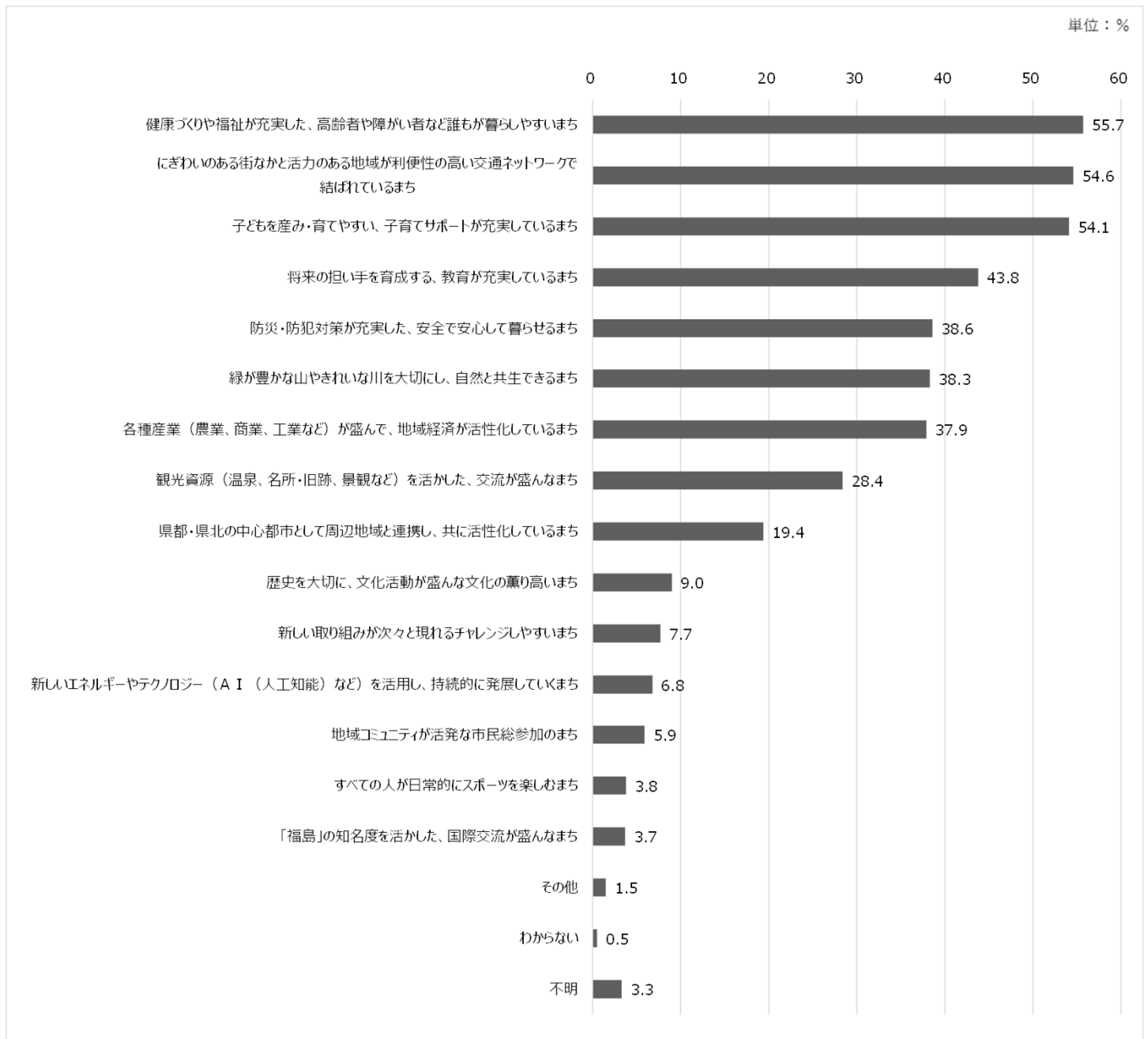
問. あなたは、福島市は将来どのようなまちを目指していくことが大切だと思いますか。
あてはまるもの5つまで○をつけてください。

- 福島市の目指すまちを全体でみると、「健康づくりや福祉が充実した、高齢者や障がい者などが暮らしやすいまち」、「にぎわいのある街なかと活力のある地域が利便性の高い交通ネットワークで結ばれているまち」、「子どもを産み・育てやすい、子育てサポートが充実しているまち」の上位3項目は5割を超えています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
健康づくりや福祉が充実した、高齢者や障がい者などが暮らしやすいまち	864	55.7
にぎわいのある街なかと活力のある地域が利便性の高い交通ネットワークで結ばれているまち	847	54.6
子どもを産み・育てやすい、子育てサポートが充実しているまち	839	54.1
将来の担い手を育成する、教育が充実しているまち	679	43.8
防災・防犯対策が充実した、安全で安心して暮らせるまち	599	38.6
緑が豊かな山やきれいな川を大切にし、自然と共生できるまち	594	38.3
各種産業（農業、商業、工業など）が盛んで、地域経済が活性化しているまち	588	37.9
観光資源（温泉、名所・旧跡、景観など）を活かした、交流が盛んなまち	440	28.4
県都・県北の中心都市として周辺地域と連携し、共に活性化しているまち	300	19.4
歴史を大切に、文化活動が盛んな文化の薫り高いまち	139	9.0
新しい取り組みが次々と現れるチャレンジしやすいまち	119	7.7
新しいエネルギーやテクノロジー（AI（人工知能）など）を活用し、持続的に発展していくまち	106	6.8
地域コミュニティが活発な市民総参加のまち	92	5.9
すべての人が日常的にスポーツを楽しむまち	59	3.8
「福島」の知名度を活かした、国際交流が盛んなまち	58	3.7
その他	23	1.5
わからない	8	0.5
不明	52	3.3

(4)福島市の目指すまち



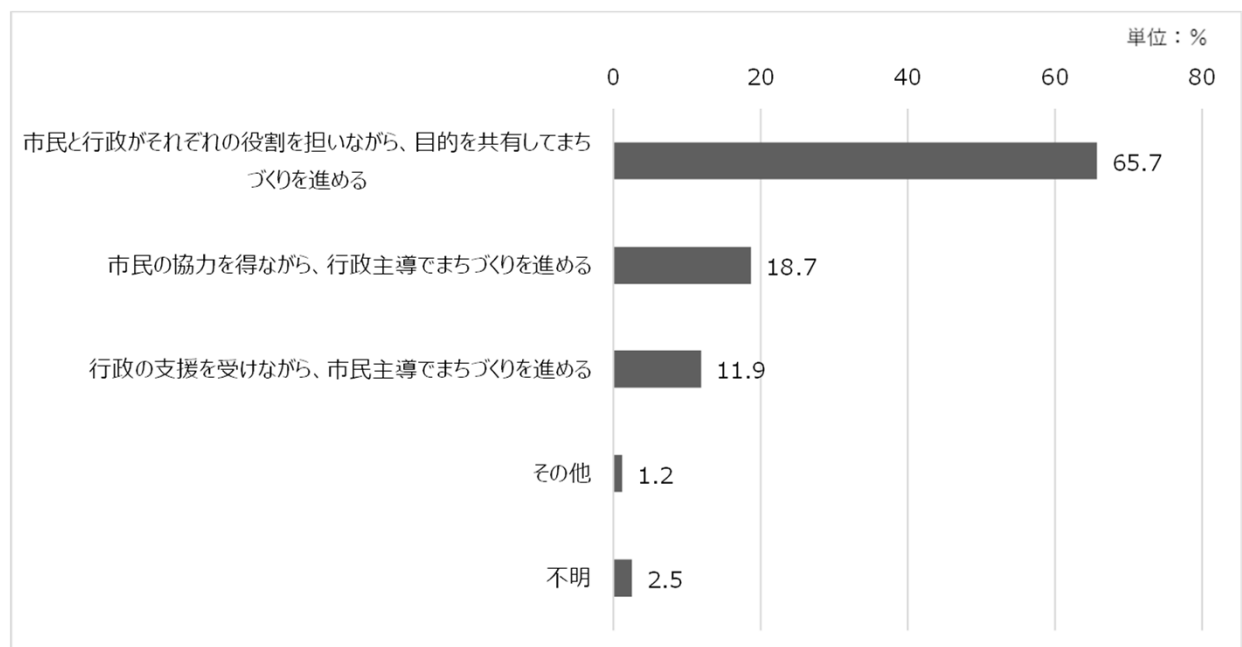
(5)市民と行政の関係

問. あなたは、「まちづくり」について、市民と行政の関係がどうあるべきだと思いますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 市民と行政の関係を全体でみると、「市民と行政がそれぞれの役割を担いながら、目的を共有して街づくりを進める」が65.7%で最も多く、次いで「市民の協力を得ながら、行政主導でまちづくりを進める」18.7%、「行政の支援を受けながら、市民主導でまちづくりを進める」11.9%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
市民と行政がそれぞれの役割を担いながら、目的を共有してまちづくりを進める	1,018	65.7
市民の協力を得ながら、行政主導でまちづくりを進める	290	18.7
行政の支援を受けながら、市民主導でまちづくりを進める	185	11.9
その他	18	1.2
不明	39	2.5



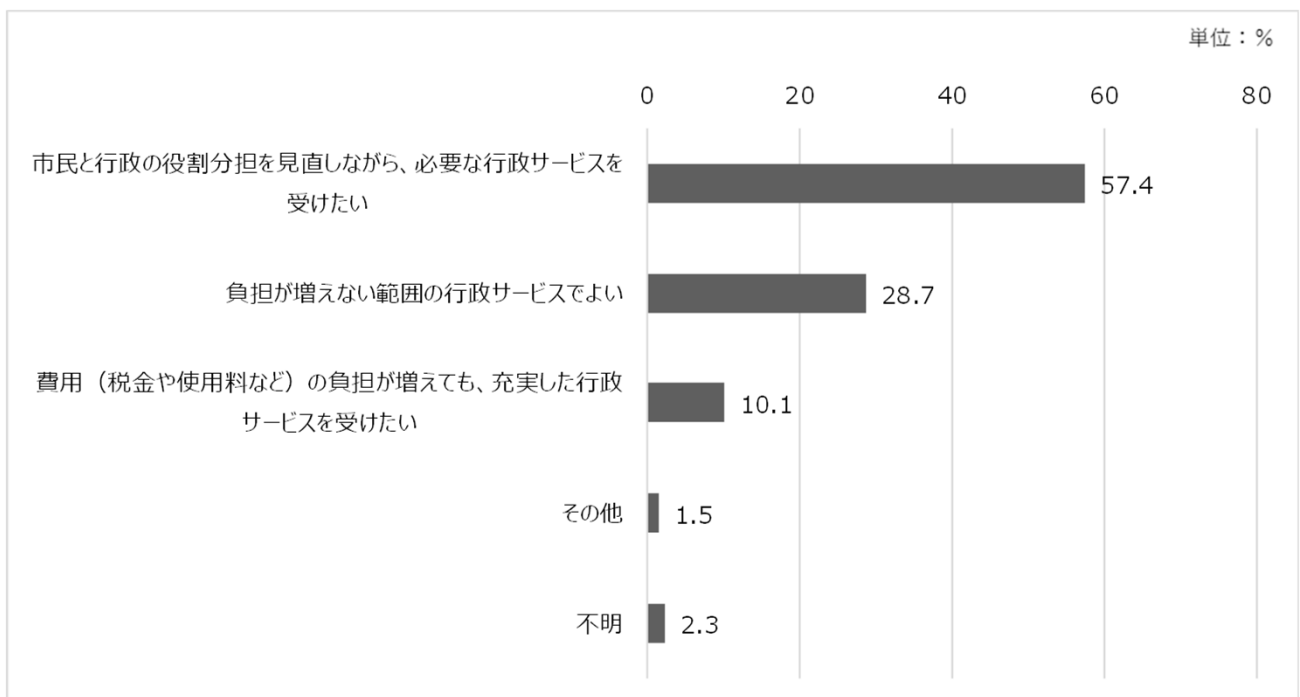
(6)行政サービスと負担の関係

問. あなたは、行政サービスと負担の関係について、どうあるべきだと思いますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 行政サービスと負担の関係を全体でみる、「市民と行政の役割分担を見直しながら、必要なサービスを受けたい」が57.4%で最も多く、次いで「負担が増えない範囲の行政サービスでよい」28.7%、「費用(税金や使用料など)の負担が増えても、充実したサービスを受けたい」10.1%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
市民と行政の役割分担を見直しながら、必要な行政サービスを受けたい	890	57.4
負担が増えない範囲の行政サービスでよい	445	28.7
費用（税金や使用料など）の負担が増えても、充実した行政サービスを受けたい	156	10.1
その他	24	1.5
不明	35	2.3



4

結婚・子育てについて

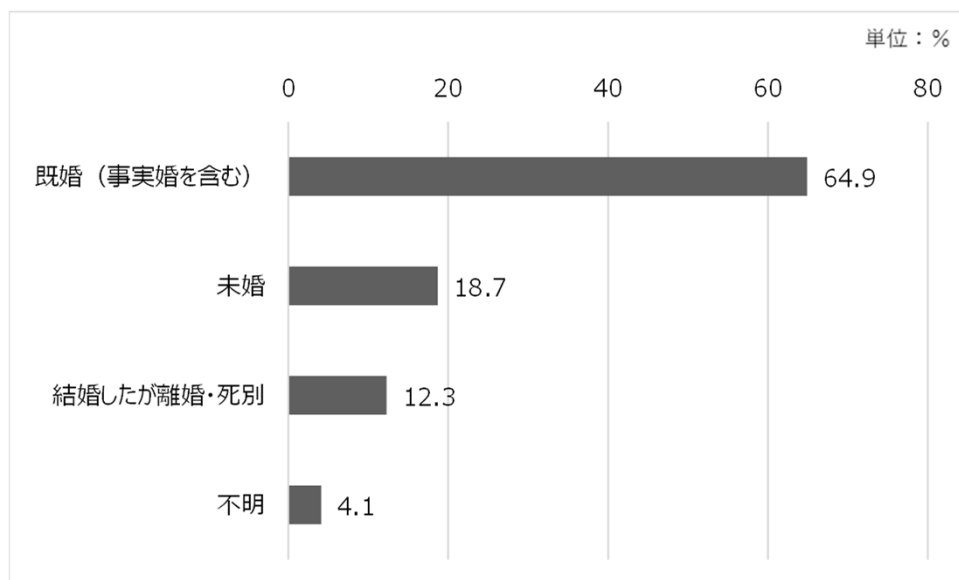
(1)結婚状況

問. あなたは結婚していますか。

- 結婚の状況を全体で見ると、既婚(事実婚を含む)が64.9%で最も多く、次いで「未婚」18.7%、「結婚したが離婚・死別」が12.3%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
既婚（事実婚を含む）	1,006	64.9
未婚	290	18.7
結婚したが離婚・死別	191	12.3
不明	63	4.1



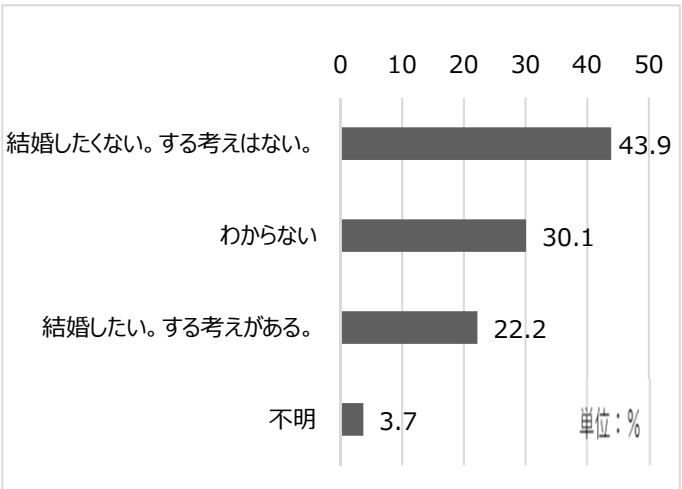
(2)結婚希望(未婚、結婚したが離別・死別の方)

問. あなたは将来結婚したいと思いますか。
【 4-(1)結婚状況で、「未婚」、「結婚したが離別・死別」と回答した方に対する設問 】

- 結婚希望を全体でみると、「結婚したくない。する考えはない。」が43.9%と最も多く、次いで「わからない」30.1%、「結婚したい。する考えがある。」22.2%となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	481	100.0
結婚したい。する考えがある。	107	22.2
結婚したくない。する考えはない。	211	43.9
わからない	145	30.1
不明	18	3.7



※参考 【結婚希望×年齢】(報告書詳細版61ページ)

n=		結婚したい。 する考えがある。	結婚したくない。 する考えはない。	わからない	不明
全体	(481)	22.2	43.9	30.1	3.7
年齢	15～19歳	(49)	42.9	12.2	44.9
	20～24歳	(39)	51.3	2.6	46.2
	25～29歳	(31)	58.1	19.4	22.6
	30～34歳	(24)	50.0	20.8	29.2
	35～39歳	(25)	36.0	16.0	48.0
	40～44歳	(33)	21.2	33.3	45.5
	45～49歳	(37)	18.9	37.8	43.2
	50～54歳	(27)	14.8	37.0	40.7
	55～59歳	(36)	5.6	55.6	38.9
	60～64歳	(26)	7.7	65.4	23.1
	65～69歳	(25)	4.0	80.0	12.0
	70～74歳	(26)	11.5	76.9	3.8
	75～79歳	(40)		85.0	7.5
	80～84歳	(31)		74.2	12.9
	85～89歳	(15)	6.7	53.3	20.0
	90歳以上	(13)		69.2	15.4

1%未満のデータラベルは非表示 (％)

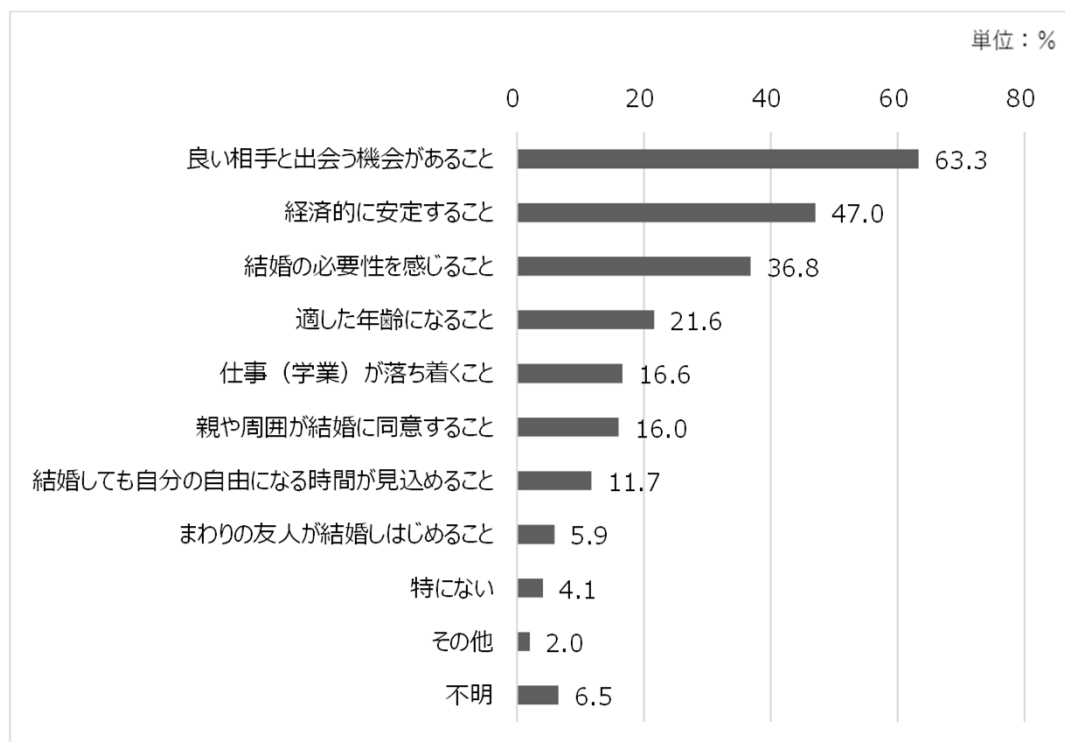
(3)結婚条件

問. あなたは、どのような状況になれば結婚すると思いますか。
結婚経験のある方はどのような状況で結婚を決心しましたか。
あてはまるすべてに○をつけてください。

- 結婚条件を全体でみると、「良い相手と出会う機会があること」が63.3%と最も多く、次いで「経済的に安定すること」47.0%、「結婚の必要性を感じること」36.8%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,339	100.0
良い相手と出会う機会があること	848	63.3
経済的に安定すること	629	47.0
結婚の必要性を感じること	493	36.8
適した年齢になること	289	21.6
仕事（学業）が落ち着くこと	222	16.6
親や周囲が結婚に同意すること	214	16.0
結婚しても自分の自由になる時間が見込めること	157	11.7
まわりの友人が結婚しはじめること	79	5.9
特にない	55	4.1
その他	27	2.0
不明	88	6.5



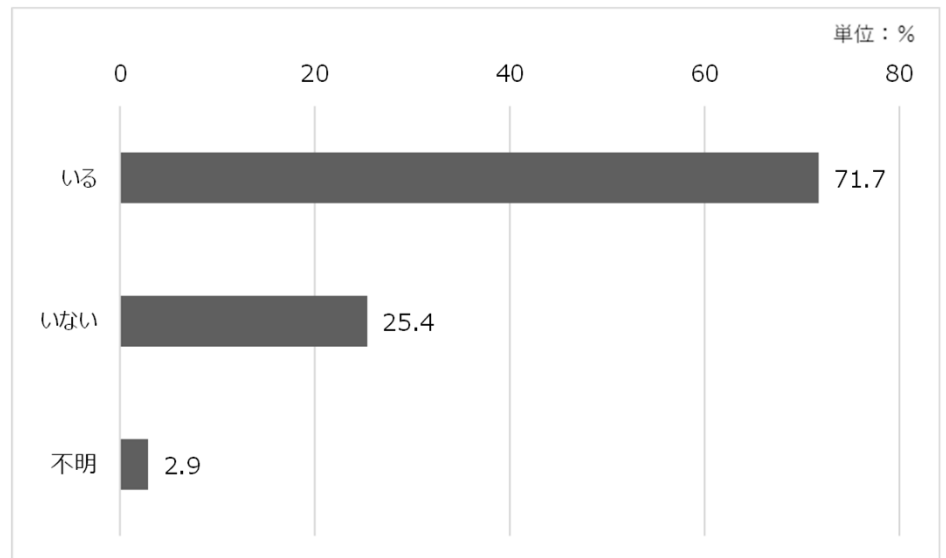
(4)子どもの有無

問. あなたに子どもはいますか。

- 子どもの有無を全体でみると、「いる」が71.7%、「いない」が25.4%となっています。

【全体（単純集計）】

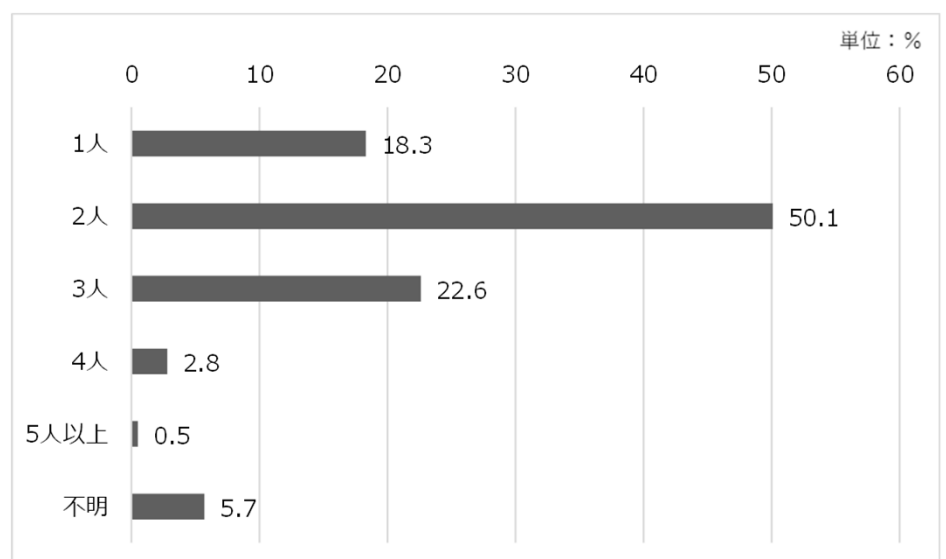
項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
いる	1,112	71.7
いない	393	25.4
不明	45	2.9



- 子どもがいる方の子どもの数は、「2人」が50.1%で最も多く、次いで「3人」22.6%、「1人」18.3%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,112	100.0
1人	204	18.3
2人	557	50.1
3人	251	22.6
4人	31	2.8
5人以上	6	0.5
不明	63	5.7



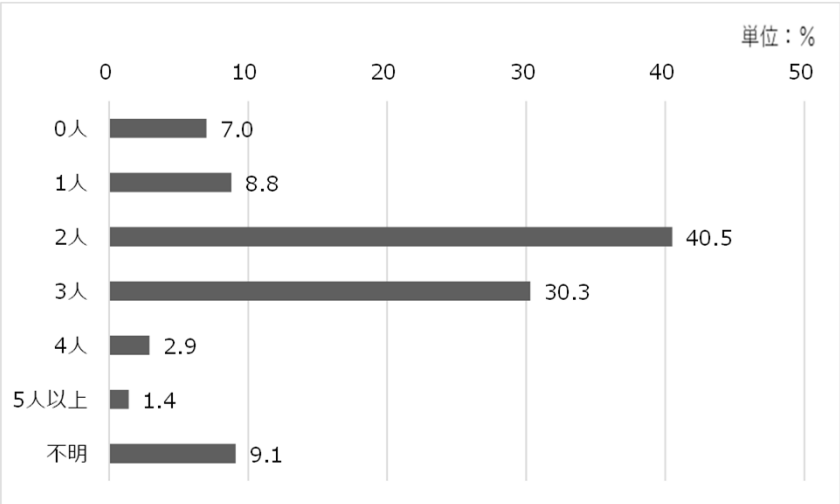
(5)子どもの希望人数
(子どもをお持ちの方は、現在の子どもの人数を含む)

問. あなたが子どもを持つとしたら、持ちたいと思う子どもの数は何人ですか。
(お子さんをお持ちの方は、現在のお子さんを含めたすべてのの人数をお答えください。)

- 子どもの希望人数を全体でみると、「2人」が40.5%で最も多く、次いで「3人」30.3%、「1人」8.8%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
0人	109	7.0
1人	137	8.8
2人	627	40.5
3人	469	30.3
4人	45	2.9
5人以上	22	1.4
不明	141	9.1



※参考 【子どもの希望人数×年齢】(報告書詳細版71ページ)

n=		0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	不明
全体	(1,550)	7.0	8.8	40.5	30.3	2.9	1.4	9.1
年齢	15～19歳	(49)	20.4	8.2	55.1	12.2	4.1	1.3
	20～24歳	(39)	17.9	12.8	48.7	20.5	1.0	1.0
	25～29歳	(43)	23.3	18.6	44.2	14.0	1.0	1.0
	30～34歳	(51)	7.8	13.7	45.1	29.4	3.9	1.3
	35～39歳	(76)	5.3	13.2	48.7	26.3	2.6	1.0
	40～44歳	(96)	16.7	16.7	47.9	15.6	2.1	1.0
	45～49歳	(104)	10.6	19.2	45.2	18.3	1.0	1.0
	50～54歳	(135)	3.0	14.8	45.2	27.4	3.0	1.5
	55～59歳	(130)	9.2	11.5	46.9	26.9	2.3	1.5
	60～64歳	(144)	9.0	4.9	41.7	30.6	4.9	6.9
	65～69歳	(143)	2.8	5.6	36.4	37.8	7.0	7.7
	70～74歳	(170)	4.7	3.5	32.4	44.7	4.1	8.8
	75～79歳	(160)	0.6	2	32.5	40.0	3.8	18.8
	80～84歳	(121)	3.3	3.3	26.4	36.4	2.5	25.6
	85～89歳	(47)	2.1	6.4	40.4	34.0	17.0	1.0
	90歳以上	(22)			50.0	22.7	27.3	

1%未満のデータラベルは非表示 (%)

(6)子どもを持つうえで重視すること

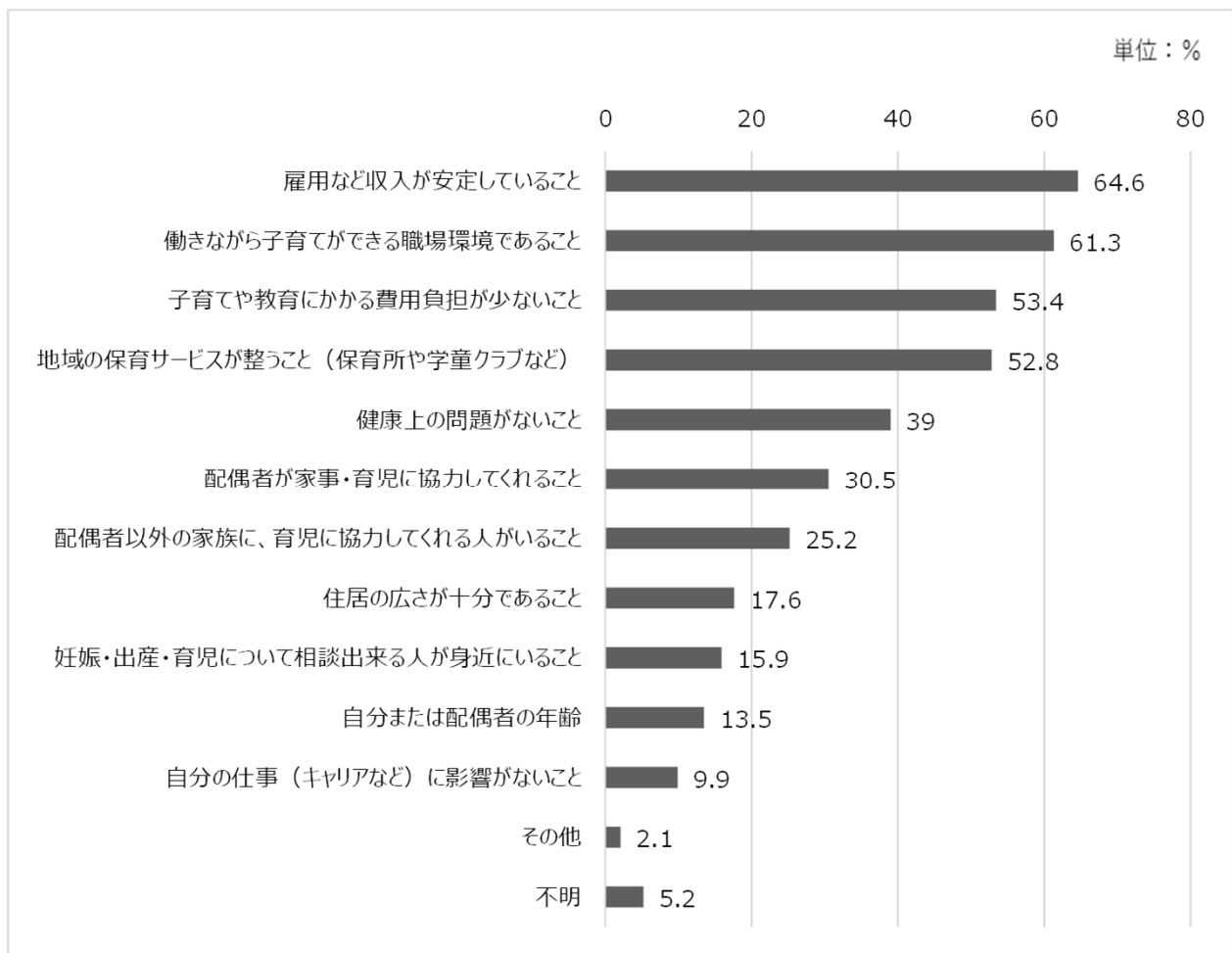
問. あなたがは子どもを持つとしたら、どのようなことを重視しますか。
(お子さんをお持ちの方は、どのようなことを重視しましたか。)
あてはまるものを5つまで○をつけてください。

- 子どもを持つうえで重視することを全体でみると、「雇用など収入が安定していること」が64.6%で最も多く、次いで「働きながら子育てができる職場環境であること」61.3%、「子育てや教育にかかる費用負担が少ないこと」53.4%の順となっています。

【全体（単純集計）】

項目	件数	(全体)%
全体	1,550	100.0
雇用など収入が安定していること	1,001	64.6
働きながら子育てができる職場環境であること	950	61.3
子育てや教育にかかる費用負担が少ないこと	827	53.4
地域の保育サービスが整うこと（保育所や学童クラブなど）	818	52.8
健康上の問題がないこと	605	39.0
配偶者が家事・育児に協力してくれること	473	30.5
配偶者以外の家族に、育児に協力してくれる人がいること	390	25.2
住居の広さが十分であること	273	17.6
妊娠・出産・育児について相談出来る人が身近にいること	246	15.9
自分または配偶者の年齢	209	13.5
自分の仕事（キャリアなど）に影響がないこと	154	9.9
その他	32	2.1
不明	81	5.2

(6)子どもを持つうえで重視すること



5

自由意見

(1)福島県の誇り・自慢

- 福島市の誇りや自慢できることについて、自由意見欄を設けて記述していただきました。主な項目にまとめ、一覧を以下の表に示しています(1人で複数を書いている場合を含む)。

①性別

No.	コメント	合計	男性	女性	回答しない
1	山や川などの自然が豊富である	258	85	172	1
2	温泉が豊富である	98	33	64	0
3	くだもののどの農産物が豊富である	72	25	47	0
4	水がおいしい	31	13	17	1
5	記念館や美術館などの芸術や文化	22	10	12	0
6	食べ物やお酒が美味しい	17	4	13	0
7	競馬場や公園などのレジャー施設	17	6	11	0
8	人柄がよい・温かい市民	16	4	12	0
9	県庁所在地である	16	9	7	0
10	史跡や神社などの歴史	12	4	8	0
11	首都圏などへのアクセスがよい・交通機関が充実している	10	4	6	0
12	医療施設や制度が充実している	10	5	5	0
13	祭りや花火大会などのイベント	8	5	3	0
14	自然災害が少ない	8	4	4	0
15	市政や復興への取り組み	7	2	5	0
16	暮らしやすい	6	3	3	0
17	公共施設が充実している	2	0	2	0
18	子育てがしやすい	2	1	1	0
19	犯罪が少ない	1	0	1	0
20	教育施設（大学など）が充実している	1	1	0	0

②年齢

No.	コメント	合計	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
1	山や川などの自然が豊富である	258	10	4	8	10	10	16	8
2	温泉が豊富である	98	1	1	3	4	4	8	2
3	くだもののどの農産物が豊富である	72	2	1	0	0	3	5	3
4	水がおいしい	31	2	0	0	0	0	0	1
5	記念館や美術館などの芸術や文化	22	0	1	0	1	0	3	0
6	食べ物やお酒が美味しい	17	0	0	1	1	1	0	1
7	競馬場や公園などのレジャー施設	17	0	0	1	0	0	0	3
8	人柄がよい・温かい市民	16	1	0	0	1	0	2	1
9	県庁所在地である	16	0	0	0	0	0	1	0
10	史跡や神社などの歴史	12	0	1	0	1	0	1	1
11	首都圏などへのアクセスがよい・交通機関が充実している	10	1	0	0	2	2	1	0
12	医療施設や制度が充実している	10	0	1	0	1	0	0	1
13	祭りや花火大会などのイベント	8	0	0	1		0	1	1
14	自然災害が少ない	8	0	0	0	0	0	0	1
15	市政や復興への取り組み	7	0	1	0	0	0	1	0
16	暮らしやすい	6	0	0	0	0	0	0	0
17	公共施設が充実している	2	0	0	0	0	0	1	0
18	子育てがしやすい	2	0	0	0	1	0	0	0
19	犯罪が少ない	1	0	0	0	0	0	0	0
20	教育施設（大学など）が充実している	1	0	0	0	0	1	0	0

No.	コメント	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	不明
1	山や川などの自然が豊富である	24	19	27	30	36	24	30	2
2	温泉が豊富である	9	12	8	14	9	8	14	1
3	くだもののどの農産物が豊富である	4	8	9	11	13	6	6	1
4	水がおいしい	2	3	4	3	6	4	5	1
5	記念館や美術館などの芸術や文化	1	1	2	4	5	2	2	0
6	食べ物やお酒が美味しい	1	4	3	1	3	1	0	0
7	競馬場や公園などのレジャー施設	2	2	3	1	4	1	0	
8	人柄がよい・温かい市民	5	1	1	2	0	1	1	0
9	県庁所在地である	2	2	3	2	2	1	3	0
10	史跡や神社などの歴史	0	0	0	3	3	2	0	0
11	首都圏などへのアクセスがよい・交通機関が充実している	0	3	0	0	0	1	0	0
12	医療施設や制度が充実している	0	1	1	1	1	1	2	0
13	祭りや花火大会などのイベント	1	0	0	0	1	2	1	0
14	自然災害が少ない	0	1	0	3	1	1	1	0
15	市政や復興への取り組み	0	0	0	1	1	0	3	0
16	暮らしやすい	0	0	1	3	2	0	0	0
17	公共施設が充実している	0	0	1	0	0	0	0	0
18	子育てがしやすい	0	0	1	0	0	0	0	0
19	犯罪が少ない	0	0	0	0	0	0	1	0
20	教育施設（大学など）が充実している	0	0	0	0	0	0	0	0

(2)市政に関する意見

- 市政に関する意見について、自由意見欄を設けて記述していただきました。主な項目にまとめ、一覧を以下の表に示しています(1人で複数进行記述している場合を含む)。

①性別

No.	意見内容（分類）	合計	男性	女性	回答しない
1	子どもたちの未来が広がる子育て・教育の新ステージの実現	85	22	62	1
	(1) 子育て支援の充実（待機児童や保育施設、遊び場などに関する意見）	61	16	44	1
	(2) 学びの環境と教育の質の充実（学力の向上や学校設備などに関する意見）	24	6	18	0
2	復興・創生のための放射線対策と風評払拭の推進	1	1	0	0
	(1) 放射線対策の推進（放射線による健康管理や心のケアなどに関する意見）	1	1	0	0
	(2) 風評払拭の推進（放射線に関する不安の解消と風評払拭などに関する意見）	0	0	0	0
3	災害対策の強化	13	4	9	0
	(1) 災害対策の強化（台風等による災害対策や地域防災などに関する意見）	10	5	5	0
4	安心して暮らせる健康・医療・福祉の総合的な推進	115	37	76	2
	(1) 健康・医療体制の推進（健康づくりや検診、医療体制などに関する意見）	15	6	8	1
	(2) 高齢者福祉の充実（高齢者が安心して暮らせるための支援などに関する意見）	68	17	50	1
	(3) 障がい者福祉の充実（障がい者が安心して暮らせるための支援などに関する意見）	11	2	9	0
	(4) 安心安全な市民生活の確保（防犯や交通安全、救急体制などに関する意見）	21	12	9	0
5	豊かな文化芸術の振興と構築	29	9	20	0
	(1) 「古閑裕而のまち」の取り組み（古閑裕而氏を活かした文化振興などに関する意見）	3	1	2	0
	(2) 市民文化芸術の環境整備（文化芸術関連施設などに関する意見）	26	8	18	0
6	脱炭素社会の実現と循環型社会の構築	71	21	49	1
	(1) ふくしまの自然環境の保全（福島市の自然を保護する取り組みなどに関する意見）	44	15	28	1
	(2) ごみの減量に関する取り組み（ごみの排出削減などに関する意見）	27	6	21	0
7	「人」と「活力」であふれる農業・商工業の実現	51	19	31	1
	(1) 農業や林業の振興（農業や林業の取り組みに関する意見）	10	4	6	0
	(2) 商業や工業の振興（商業や工業の取り組みや、商店、企業誘致などに関する意見）	41	15	25	1
8	福島らしい個性とにぎわいのあるまちづくり	295	109	185	1
	(1) 東口再開発と東西一体のまちづくり（駅前再開発事業に関する意見）	179	66	113	0
	(2) 街なかの魅力と回遊性の向上（街なかの賑わいや郊外部間の交通などに関する意見）	59	18	41	0
	(3) 観光の振興（観光事業や観光資源に関する意見）	17	8	9	0
	(4) 個性のある地域づくり（地域ならではの自然・文化・産業等に関する意見）	22	13	8	1
	(5) スポーツの振興（スポーツ事業やスポーツ施設に関する意見）	18	4	14	0
9	移住・定住に向けた支援・受入体制の強化（移住に向けた支援・受入体制に関する意見）	11	5	6	0
10	市民総活躍と市民共創のまちづくり	7	4	3	0
	(1) 女性が活躍できる地域社会の形成（女性視点や男女共同参画に関する意見）	2	1	1	0
	(2) 地域コミュニティの活性化（町内会や地域団体に関する意見）	5	3	2	0
11	新たな施策への挑戦と発信による都市ブランド力の向上	39	17	21	1
	(1) 市民とのコミュニケーションと情報発信の充実（市民からの意見・要望を把握する機会や市政の情報発信に関する意見）	39	17	21	1
12	ICTを活用した行政・経済・社会の変革	19	2	17	0
	(1) デジタルを活用した市民サービスの向上（行政手続きのデジタル化に関する意見）	8	0	8	0
	(2) デジタルを活用した市民生活を豊かにするまちづくりの推進（地域社会のデジタル化に関する意見）	11	2	9	0

①性別

その他の意見

No.	意見内容（分類）	合計	男性	女性	回答しない
1	行財政経営の推進	131	59	69	3
	（1）市政に関する意見	32	16	16	0
	（2）窓口や手続きに関する意見	21	7	14	0
	（3）予算の使い方への意見	2	2	0	0
	（4）税金や公共料金への意見	22	11	10	1
	（5）公共施設の管理や建替えなどへの意見	18	8	10	0
	（6）その他の意見や提案など	36	15	19	2
2	市職員・市議会	42	15	26	1
	（1）市職員への意見	30	11	18	1
	（2）市議会への意見	12	4	8	0
3	その他	36	19	16	1
	（1）本アンケートへの意見	12	5	6	1
	（2）その他の意見	24	14	10	0

②年齢

意見内容（分類）	合計	20歳未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
子どもたちの未来が広がる子育て・教育の新ステージの実現	85	0	1	4	6	14	12	4
（1）子育て支援の充実（待機児童や保育施設、遊び場などに関する意見）	61	0	1	4	6	11	8	3
（2）学びの環境と教育の質の充実（学力の向上や学校設備などに関する意見）	24	0	0	0	0	3	4	1
復興・創生のための放射線対策と風評払拭の推進	1	0	0					
（1）放射線対策の推進（放射線による健康管理や心のケアなどに関する意見）	1	0	0	0	0	0	0	0
（2）風評払拭の推進（放射線に関する不安の解消と風評払拭などに関する意見）	0	0	0	0	0	0	0	0
災害対策の強化	10	0	0	0	0	0	0	0
（1）災害対策の強化（台風等による災害対策や地域防災などに関する意見）	10	0	0	0	0	0	0	0
安心して暮らせる健康・医療・福祉の総合的な推進	115	1	1	1	1	2	6	8
（1）健康・医療体制の推進（健康づくりや検診、医療体制などに関する意見）	15	0	0	1	1	1	0	2
（2）高齢者福祉の充実（高齢者が安心して暮らせるための支援などに関する意見）	68	1	0	0	0	0	2	5
（3）障がい者福祉の充実（障がい者が安心して暮らせるための支援などに関する意見）	11	0	0	0	0	0	2	0
（4）安心安全な市民生活の確保（防犯や交通安全、救急体制などに関する意見）	21	0	1	0	0	1	2	1
豊かな文化芸術の振興と構築	29	0	2	1	1	0	1	1
（1）「古閑裕而のまち」の取り組み（古閑裕而氏を活かした文化振興などに関する意見）	3	0	0	0	0	0	0	0
（2）市民文化芸術の環境整備（文化芸術関連施設などに関する意見）	26	0	2	1	1	0	1	1
脱炭素社会の実現と循環型社会の構築	72	0	0	1	4	1	2	0
（1）ふくしまの自然環境の保全（福島市の自然を保護する取り組みなどに関する意見）	45	0	0	1	2	0	1	0
（2）ごみの減量に関する取り組み（ごみの排出削減などに関する意見）	27	0	0	0	2	1	1	0
「人」と「活力」であふれる農業・商工業の実現	51	3	0	2	4	4	2	3
（1）農業や林業の振興（農業や林業の取り組みに関する意見）	10	1	0	0	0	0	0	0
（2）商業や工業の振興（商業や工業の取り組みや、商店、企業誘致などに関する意見）	41	2	0	2	4	4	2	3
福島らしい個性とにぎわいのあるまちづくり	295	6	6	8	8	13	26	17
（1）東口再開発と東西一体のまちづくり（駅前再開発事業に関する意見）	179	5	5	4	4	8	16	13
（2）街なかの魅力と回遊性の向上（街なかの賑わいや郊外部間の交通などに関する意見）	59	1	1	2	1	3	5	2
（3）観光の振興（観光事業や観光資源に関する意見）	17	0	0	1	2	0	4	0
（4）個性のある地域づくり（地域ならではの自然・文化・産業等に関する意見）	22	0	0	1	1	0	1	0
（5）スポーツの振興（スポーツ事業やスポーツ施設に関する意見）	18	0	0	0	0	2	0	2
移住・定住に向けた支援・受入体制の強化（移住に向けた支援・受入体制に関する意見）	11	0	0	0	1	0	0	2
市民総活躍と市民共創のまちづくり	7	0	0	0	0	0	0	0
（1）女性が活躍できる地域社会の形成（女性視点や男女共同参画に関する意見）	2	0	0	0	0	0	0	0
（2）地域コミュニティの活性化（町内会や地域団体に関する意見）	5	0	0	0	0	0	0	0
新たな施策への挑戦と発信による都市ブランド力の向上	39	0	0	1	1	2	1	1
（1）市民とのコミュニケーションと情報発信の充実（市民からの意見・要望を把握する機会や市政の情報発信に関する意見）	39	0	0	1	1	2	1	1
ICTを活用した行政・経済・社会の変革	19	0	0	0	0	0	0	2
（1）デジタルを活用した市民サービスの向上（行政手続きのデジタル化に関する意見）	8	0	0	0	0	0	0	2
（2）デジタルを活用した市民生活を豊かにするまちづくりの推進（地域社会のデジタル化に関する意見）	11	0	0	0	0	0	0	0

②年齢

意見内容（分類）	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80以上	不明
子どもたちの未来が広がる子育て・教育の新ステージの実現	6	3	4	6	10	4	11	0
（1）子育て支援の充実（待機児童や保育施設、遊び場などに関する意見）	5	2	2	3	6	4	6	0
（2）学びの環境と教育の質の充実（学力の向上や学校設備などに関する意見）	1	1	2	3	4	0	5	0
復興・創生のための放射線対策と風評払拭の推進								0
（1）放射線対策の推進（放射線による健康管理や心のケアなどに関する意見）	0	0	0	1	0	0	0	0
（2）風評払拭の推進（放射線に関する不安の解消と風評払拭などに関する意見）	0	0	0	0	0	0	0	0
災害対策の強化	0	1	0	6	1	2	0	0
（1）災害対策の強化（台風等による災害対策や地域防災などに関する意見）	0	1	0	6	1	2	0	0
安心して暮らせる健康・医療・福祉の総合的な推進	10	9	8	9	13	19	26	1
（1）健康・医療体制の推進（健康づくりや検診、医療体制などに関する意見）	0	3	0	0	1	1	5	0
（2）高齢者福祉の充実（高齢者が安心して暮らせるための支援などに関する意見）	5	4	7	5	7	12	19	1
（3）障がい者福祉の充実（障がい者が安心して暮らせるための支援などに関する意見）	2	1	0	2	1	3	0	0
（4）安心安全な市民生活の確保（防犯や交通安全、救急体制などに関する意見）	3	1	1	2	4	3	2	0
豊かな文化芸術の振興と構築	4	2	2	2	3	3	6	1
（1）「古閑裕而のまち」の取り組み（古閑裕而氏を活かした文化振興などに関する意見）	1	0	1	0	0	1	0	0
（2）市民文化芸術の環境整備（文化芸術関連施設などに関する意見）	3	2	1	2	3	2	6	1
脱炭素社会の実現と循環型社会の構築	9	10	11	9	11	6	7	1
（1）ふくしまの自然環境の保全（福島市の自然を保護する取り組みなどに関する意見）	8	7	6	5	7	3	4	1
（2）ごみの減量に関する取り組み（ごみの排出削減などに関する意見）	1	3	5	4	4	3	3	0
「人」と「活力」であふれる農業・商工業の実現	5	6	4	4	3	4	7	0
（1）農業や林業の振興（農業や林業の取り組みに関する意見）	1	1	1	2	0	1	3	0
（2）商業や工業の振興（商業や工業の取り組みや、商店、企業誘致などに関する意見）	4	5	3	2	3	3	4	0
福島らしい個性とにぎわいのあるまちづくり	31	22	36	31	30	32	27	2
（1）東口再開発と東西一体のまちづくり（駅前再開発事業に関する意見）	19	16	22	19	16	16	15	1
（2）街なかの魅力と回遊性の向上（街なかの賑わいや郊外部間の交通などに関する意見）	7	3	4	8	8	10	4	0
（3）観光の振興（観光事業や観光資源に関する意見）	1	1	3	0	1	1	3	0
（4）個性のある地域づくり（地域ならではの自然・文化・産業等に関する意見）	2	1	2	3	4	3	3	1
（5）スポーツの振興（スポーツ事業やスポーツ施設に関する意見）	2	1	5	1	1	2	2	0
移住・定住に向けた支援・受入体制の強化（移住に向けた支援・受入体制に関する意見）	0	1	1	0	3	1	2	0
市民総活躍と市民共創のまちづくり	0	0	1	2	2	1	1	0
（1）女性が活躍できる地域社会の形成（女性視点や男女共同参画に関する意見）	0	0	0	1	0	1	0	0
（2）地域コミュニティの活性化（町内会や地域団体に関する意見）	0	0	1	1	2	0	1	0
新たな施策への挑戦と発信による都市ブランド力の向上	6	3	5	6	7	3	2	1
（1）市民とのコミュニケーションと情報発信の充実（市民からの意見・要望を把握する機会や市政の情報発信に関する意見）	6	3	5	6	7	3	2	1
ICTを活用した行政・経済・社会の変革	2	5	2	3	2	0	2	1
（1）デジタルを活用した市民サービスの向上（行政手続きのデジタル化に関する意見）	1	1	0	2	1	0	1	0
（2）デジタルを活用した市民生活を豊かにするまちづくりの推進（地域社会のデジタル化に関する意見）	1	4	2	1	1	0	1	1

②年齢

その他の意見

意見内容（分類）	合計	20歳未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
行財政経営の推進	130	2	2	3	4	9	5	10
（1）市政に関する意見	32	1	1	0	0	4	0	2
（2）窓口や手続きに関する意見	21	0	0	1	0	1	0	2
（3）予算の使い方への意見	2	0	0	0	0	1	1	0
（4）税金や公共料金への意見	21	0	0	0	1	1	2	3
（5）公共施設の公共施設の管理や建替えなどへの意見	18	0	0	0	0	1	1	1
（6）その他の意見や提案など	36	1	1	2	3	1	1	2
市職員・市議会	42	0	0	0	0	1	2	1
（1）市職員への意見	30	0	0	0	0	1	2	0
（2）市議会への意見	12	0	0	0	0	0	0	1
その他	36	0	1	0	1	3	1	4
（1）本アンケートへの意見	12	0	0	0	0	0	0	3
（2）その他の意見	24	0	1	0	1	3	1	1

意見内容（分類）	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80以上	不明
行財政経営の推進	11	11	10	15	16	12	18	2
（1）市政に関する意見	4	0	4	1	4	4	6	1
（2）窓口や手続きに関する意見	2	2	2	3	3	0	5	0
（3）予算の使い方への意見	0	0	0	0	0	0	0	0
（4）税金や公共料金への意見	2	2	2	3	2	2	1	0
（5）公共施設の公共施設の管理や建替えなどへの意見	1	3	2	2	3	1	3	0
（6）その他の意見や提案など	2	4	0	6	4	5	3	1
市職員・市議会	4	7	5	8	4	5	4	1
（1）市職員への意見	3	6	3	6	4	2	2	1
（2）市議会への意見	1	1	2	2	0	3	2	0
その他	2	6	5	2	2	4	3	2
（1）本アンケートへの意見	1	2	1	0	2	1	1	1
（2）その他の意見	1	4	4	2	0	3	2	1